

JFA news



特集

みんなの フットボール

アクセス・フォー・オールの取り組み～日比野暢子 JFA理事
フットボールの魅力と可能性～北澤豪 日本障がい者サッカー連盟会長
世界のインクルーシブフットボール
サッカーファミリーの取り組み
～神奈川県サッカー協会、静岡県サッカー協会、NPO法人はらまちクラブ

10 NO.474
2023.
月情報号



アディダスの学割



学生なら、いつでも
何度でも10%OFF

© 2023 adidas AG

中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員であれば
いつでも何度でも10% OFFに。
ライフスタイルでも部活でも、アディダスを手に入れよう。



学生・教職員割引概要

対象

日本国内の中学、高校、大学、大学院、専門学校の学生と教職員

期間

申請時から、毎年3月31日23:59まで。新年度(4月1日 0:00)に情報をリセット致します。新年度より引き続き学生・教職員割を申請したい人は、再度申請をしてください。

オファー内容

アディダス オンラインショップにて、商品が表示価格より10%OFF(一部適用されない商品がございます。また、その他期間限定割引セールとの併用はできません。)上限はおひとり様、年間税込み55万円までとなります。

特集

みんなのフットボール



JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ●スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト●選手にとっての最善を考えること
フェア●オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ●成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト●関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

- 004 アクセス・フォー・オールの取り組み～日比野暢子 JFA理事
- 006 フットボールの魅力と可能性～北澤豪 日本障がい者サッカー連盟会長
- 009 世界のインクルーシブフットボール
- 011 サッカーファミリーの取り組み
神奈川県サッカー協会
静岡県サッカー協会
NPO法人はらまちクラブ

特別企画

- 017 岩田朋之ロービジョンフットサル日本代表 インタビュー
- 083 FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023
審判員インタビュー～山下良美主審、坊菌真琴副審、手代木直美副審

日本代表

- 026 U-22日本代表
AFC U23アジアカップカタール2024予選
- 074 SAMURAI BLUE
国際親善試合 vs ドイツ代表
キリンチャレンジカップ2023 vs トルコ代表
- 076 なでしこジャパン
国際親善試合 vs アルゼンチン女子代表

REPORT

- 020 第19回日本サッカー殿堂掲額式典
- 022 JFAリスペクトフェアプレーデイズ2023

大会・試合

- 027 AFCチャンピオンズリーグ2023/24開幕
- 078 2023年度第47回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント
- 079 日本スポーツマスターズ2023福井大会(サッカー競技)
- 080 第19回全日本大学フットサル大会
- 081 JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会
- 082 JFA U-18女子サッカーファイナルズ2023

連載

- 028 隔月連載 **メディカルROOM(新連載)**
大橋洋輝 JFA医学委員会委員
「脳振盪を知る」
- 030 隔月連載 **フットサル語り場**
藤田安澄
「スタッフとも選手とも積極的にコミュニケーション」
- 031 隔月連載 **サッカー心育論**
中山雅雄
「ステージを上げるために」
- 032 **日本全国FAコーチ巡り**
茨城県サッカー協会
「『TEAM IBARAKI』として多くの力を結集させる」
- 034 隔月連載 **日本サッカータイムスリップ**
「リーグの歩み(3)～震災にも歩みを止めず」
- 035 **いつも心にリスペクト**
大住良之
「心を開いて共に楽しむ」
- 036 JFA情報発信局
- 037 月刊レポート
- 040 日本サッカー後援会2024年度会員の募集を開始!
- 041 蹴球通信
- 045 会議レポート
- 058 データボックス
- 087 サッカーファミリー広場
- 088 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真:
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walnix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。



dunhill

DUNHILL.COM



[特集] みんなのフットボール フットボールを 楽しむ機会と手段を 全ての人に届けたい

サッカーで幸せな国へ――。

日本サッカー協会（JFA）が目指すのは、サッカー経験の有無や老若男女、障がいや立場などにかかわらず、誰もが何の障壁を感じることもなくフットボールを楽しめる社会だ。そのためには環境を整えるだけでなく、人々が互いを理解し、共にフットボールを楽しむマインドを醸成していくことも重要になる。今号では、JFAが推進めるアクセス・フォー・オールをはじめとして、誰もがまぜこぜになってサッカーを楽しむインクルーシブフットボール、ウォーキングフットボールの取り組みを紹介する。



「特集」みんなのフットボール

アクセス・フォー・オール・オールの取り組み

日比野 暢子 JFA理事

日本サッカー協会(JFA)は今年2月、アクセス・フォー・オール(AfA)のワーキンググループを設置し、2024年1月のAfA宣言に向けて議論を重ねている。AfA構想やサッカー界がそれに取り組み意義について、ワーキンググループのリーダーである日比野暢子JFA理事(日本障がい者サッカー連盟(JIFF)理事/桐蔭横浜大学スポーツ科学部教授)に話を聞いた。

取材日: 2023年9月22日

アクセスしたいとき、 誰もが当たり前にならなければならないことのできる サッカー界に



届かなければ意味がない デリバリーという考え方を

——最初にアクセス・フォー・オール(AfA)について教えてください。

日比野 JFAが今回のAfA構想で大事にしたいと思っているのは「誰もがフットボールにアクセスできる」こと(*)。つまり、サッカーをやりたいと思ったときにサッカーができる環境があること、サッカーの試合を見に行きたいと思ったときにに行ける手段があり、スタジアムの環境が整備されていること、サッカーに関わりたくい、サッカーを支えたいと思ったときにそれができるとを当たり前にしたというということなんです。ですが、これまでの社会は、成人男性を基準として施策や社会構造などがつくられてきました。このことは、世界的にも指摘されています。この傾向は、おそらくス

■アクセス・フォー・オール(Access for All / AfA)宣言に向けた構想

誰もが当たり前前にサッカーにアクセスできる多様な「機会」と「選択肢」を持続的に届けることで、豊かなスポーツ文化と共生社会の創造に寄与する。

ポーツ界にも当てはまるでしょう。AfAのワーキンググループでは、LGBTQの方を含むジェンダー(生物学的な性別ではなく、社会的・文化的につくられる性差のこと)や障がい、外国人(人種)、貧困といったテーマ別に、有識者の下で議論を進めてきました。なぜなら、全てのマイノリティーを含むサッカーファミリーの全員を対象としていることが重要であると捉えているからです。

サッカーファミリーが当たり前前にサッカーを楽しむ社会になっています。サッカーが好きだから関わるという従来のファミリーも当然ながら大事ではありませんが、日本にはサッカーにうまくアクセスできていない、つながれていないという人たちがいることをもつと認識すべきです。そういう人たちを排除してしまっているかもしれない、それはもつたないことである、という視点に立つことがAfAの原点です。

ワーキンググループでは、共通する課題があるとの見解を持っています。サッカーにつながらないのは個人のせいではなく、ちよつとした仕組みやアイデアがあれば、もつと多くの人がサッカーファミリーとして活動できるのではないかとという視点です。障害学という学問には「社会モデル」という考え方があります。その考えは、社会が障がいをつくるというものです。もう少しかみ砕いていえば、例えば、育児中の選手がその期間もサッカーにつながる仕組をつくり出さない限り、サッカーを中断せざるを得ないのではないかとといった視点や、障がいのある人がスポーツ観戦に行きたいと思つてもその環境が整備されていないといった視点です。

Japan's Wayには、サッカーファミリー1000万人とFIFAワールドカップ優勝と示されていますが、優勝するような国は多くのサッカーファミリーが表現します。イングランド

——デリバリーは「届ける」という意味ですね。

日比野 私がこの言葉を最初に聞いたのはイングランドでした。誰かを支援する際、日本では「サポート」という言葉を使いますが、イギリスやオーストラリアなどでは「デリバリー」と表現します。イングランド

(*)スポーツ基本法の規定に基づき、文部科学大臣が定めるスポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として打ち出されている第3期スポーツ基本計画にもアクセスという言葉が使用されている。

世界のインクルーシブフットボール

求められるのは
一緒に楽しもうとするマインド

世界では、誰もがフットボールを楽しめるように、多様な人たちの特性に応じてさまざまなサッカーが行われており、それらの一つとしてウォーキングフットボールも浸透している。日本障がい者サッカー連盟（JIFF）の専務理事を務める松田薫二氏（日本サッカー協会47F A普及推進部）に話を聞いた。

取材日：2023年9月19日



細かくカテゴリーを分け
思い切りプレーしてもらおう

ここ数年、障がい者サッカーは世界的な動きを見せている。2020年、国際パラリンピック委員会の承認を得て、オランダのアーネムに「Para Football」という財団が創設された。同財団のビジョンは、「Football for all persons with disabilities」。つまり、全ての障がい者にフットボールを楽しんでもらうこと。現在、FIFA（国際サッカー連盟）やUEFA（欧州サッカー連盟）、各国サッカー協会／連盟などと協働し、フットボールの輪を広げようと活動している。

Para Footballが押し進めてい

アンブティサッカー	足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカー
ブラインドサッカー	視覚障がいのある人がアイマスクをつけて行う5人制のサッカー
パーシャリーサイティドフットボール	弱視者（ロービジョン）が行うフットサル
CPサッカー	脳の損傷によって運動障がいのある人が行う7人制サッカー
ろう者（デフ）サッカー	聴覚障がいのある人が行うサッカー、フットサル
知的障がい者サッカー	知的障がいのある人が行う11人制サッカー
ソーシャルフットボール（メンタルヘルスフットボール）	精神障がいのある人が行うフットサルやサッカー
電動車椅子サッカー	主に自立歩行が困難な重度の障がいのある人が行う4人制サッカー
ダウンシンドロームフットボール	ダウン症の人が行うサッカー
ドワーフフットボール	小人症の人が行うサッカー
フレームフットボール	歩行困難者がフレーム（歩行器）を使って行うサッカー
スケートサッカー	主にポリオ感染者がスケートボードに乗って行うサッカー

※青部分はJIFFがカバーしている競技

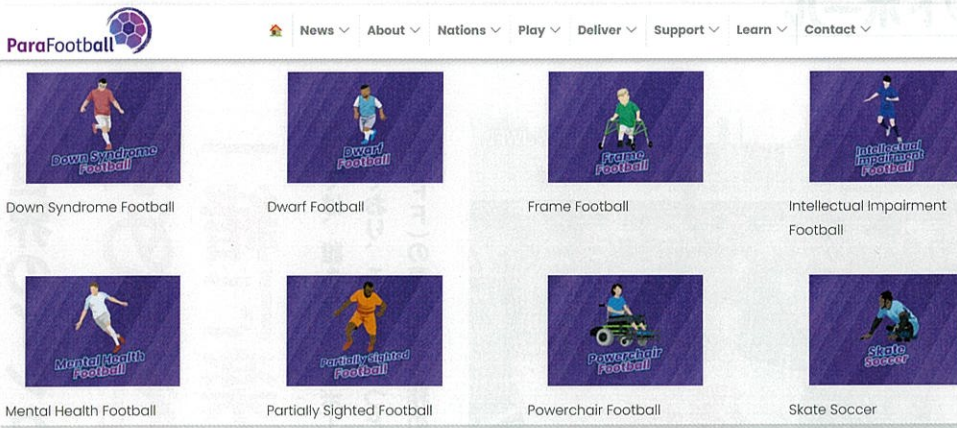
るのは右表の12種目に及ぶ。

障がいに応じて細分化するメ리트は、それぞれの特性に合わせるルールが定められているため、選手たちが思い切りプレーできること。例えば、視覚障がい者は、街中などで走るとは困難だが、環境が整えられたピッチならば、不安や心配を感じることなく走ることができる。また、決められたルールの下で同じ障がいの選手らとプレーすることによってフェアに安全にスポーツを楽しむことができ、選手それぞれがチームから必要とされることを実感し、自己肯定感を高めていくこと

ができる。

Para Footballのホームページには12種目の映像が掲載されている。スケートサッカーの動画に登場する選手たちの多くは貧困に苦しんでいる。しかし、「この競技を知ってから人生が変わった。練習の前は幸せな気分になる」日曜の朝にスケートサッカーがあるから土曜の夜は早く寝るようにしている」と、サッカーがある日常に喜びを感じているようだ。

サッカーが人に与える豊かさとは何か。JIFFの専務理事を務める松田薫二氏（日本サッカー



小人症のためのサッカーや、手でボールを扱うスケートサッカーなど、Para Footballはあらゆる障がい者サッカーを網羅している (Para Footballの公式HPより)

協会(JFA)47FA普及推進部)は「居場所があることで心は満たされ、生きがいになる。何かに夢中になれば嫌なことも忘れられる。人生には夢中になれる空間が必要で、サッカーはそれを与えてくれる」と話す。

**大きな受け皿から
細かく広がる可能性も**

現在、JIFFでは国内の7つの障がい者サッカー団体と、Para Footballでは前述した通り12の障がい者サッカー国際組織と共に障がい者サッカーの普及活動を展開している。個々では発信力が弱いが一つにまとまること

によって発信力や組織力を高め、個々の競技の認知度向上や競技人口の増加を目指している。しかし、それらの競技に当てはまらない人たちも多くいる。そのような人たちも一緒に楽しめるスポーツとして、あるいは各競技の横のつながりや健全者とのつながりを促進するスポーツとして、ウォーキングフットボールは有効なツールになるだろう。

15年、JFAグラスルーツ推進部(当時)に所属していた松田氏は、イングランドのウォーキングフットボール協会の競技規則を導入し、業務が終わった後、当時JFAハウス1階にあったヴァーチャルスタジアムで同僚らと「走ってはいけないサッカー」がどのようなものか、何度かトライしてみた。競技の特徴を把握した

後、体験会の参加をSNSで呼びかけたところ、好感触を得た。このJFAハウスの活動が評判になり、やがて30人の定員枠を超える応募が寄せられるようになった。

JIFFは、創設初年度の16年12月から毎年、都内でインクルーシブフットボールフェスタを開催し、そこで障がい者サッカーの体験会と、障がい者と健全者の子どもたちのまぜこぜミニサッカーを実施している。この取り組みは、障がい者だけでなく、まずは誰でも受け入れる場をつくるという点で大きな意義がある。インクルーシブ(=万人を含む)フットボールをきっかけに、自身の特性に合ったカテゴリーに進む人も出てくるだろう。

16年冬に行ったフェスタでは一般のサッカーのルールを用いたため、車椅子の選手や全盲の選手の参加が難しく、完全なる「インクルーシブ」とはならなかった。松田氏はその後も障がい当事者の話を聞くなど情報を集め、18年4月、ついに電動車椅子の選手も全盲の選手も含めてのまぜこぜウォーキングフットボールの開催にこぎつけた。19年にはフットサルクラブのアグレミーナ浜松(静

岡)が「まぜこぜスマイルウォーキングサッカー体験会」を行うなど、全ての人を巻き込んだイベントが全国に広がりつつある。

**一緒に楽しむことが
共生社会につながる**

今年8月、松田氏は日本チームの一員としてウォーキングフットボールの世界大会、FIWFAワールドネーションズカップ2023に参加した。優勝したのは地元イングランド。松田氏はこの大会で、イングランド代表の選手たちの「止める、蹴る」という基礎技術が高いことに感服したという。「競技の特徴を把握した上でパスを回してシュートまで持っていくのがうまかった。シュートの音も『ドスン』と響くくらい強烈だった」と振り返る。

大会をしてみてもその方向性が正しかったと感じた」と松田氏は語る。大会では、試合の間に女性による試合や、がん患者やパーキンソン病の患者による試合などさまざまなエキシビジョンマッチも行われた。「サッカーは全ての人たちのものである」ということを体現するような取り組みだったという。「スポーツの根底にあるべきは楽しむこと、楽しんでもらうこと」と強調する松田氏は、次のように話す。

「イングランドの人々は、あらゆる人々のためにいろいろなサッカーとルールを作っている。それは、彼らが障がい者や高齢者も含めて、社会に存在する全ての人を楽しんでもらおうと本気で思っているからこそ成り立つのだと感じる。スポーツは勝ち負けがあるから面白いのだが、日本はそれだけで終わっていないだろうか?」

その先の交流や混ざり合う場があつてこそ豊かなスポーツ文化が醸成されると思う。インクルーシブな場が広がれば人々のマインドが変わり、誰もが分け隔てなくサッカーの楽しさや喜びを享受することができる。それが互いを知ること、ひいては共生社会をつくることにつながる」

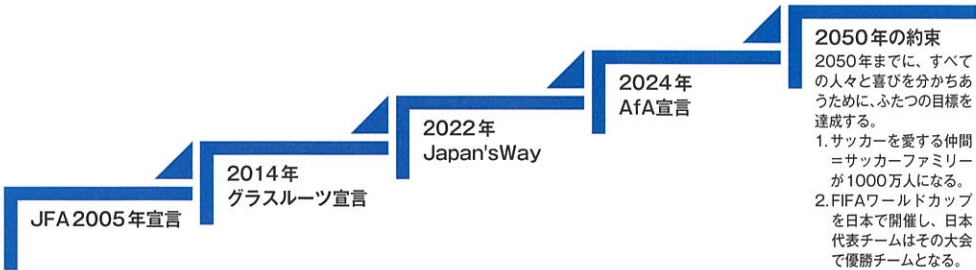
のスポーツ関係者に聞くと「君はピザを頼んだことがあるかい？」デリアリーピザは届かなきゃ意味がないだろう？ 支援(サポート)は一方的だけど、デリアリーはちゃんと届くことが大事という意味で使っているんだよ」と説明してくださいました。届かなければ意味がない、私はこの言葉と考え方をAfAで最も大事にすべきものだと思っています。

社会は変わっていく、
みんなで変えていく

ワーキンググループを立ち上げてからこれまで6度の話し合いの場が設けられました。来年1月のAfA宣言に向けて議論を進めるにあたり、あらためてお考えになつてほしいことはありますか。

日比野 サッカーを介して全ての社会課題を解決することは難しいかもしれませんが、しかし、サッカーだからできることはある、と考えています。何より、AfA宣言はJFAだけではなく、Jリーグ、WEリーグ、Fリーグが共同し、サッカー界として目指す方向性を示すという意味でも非常に重要です。まずは、日本サッカー界が一体となつて、誰もがアクセスできる環境を目指していくんだ、というメッセージを発信することで、サッカーに関わりたいと思う人が増えてい

JFA 2005年宣言、そして2014年のグラスルーツ宣言からさらに積極的に前向きに「2050年の約束」を実現していくために、2024年1月にアクセス・フォー・オール宣言を行う。



くことを狙いとしています。例えば、日本に住む外国人の人たちとボールを蹴る機会がもつとあつてもいい、などもそうです。

AfA宣言は決して単発的な取り組みではなく、また、いろいろな言が乱立しているというものでもなく、JFAが2005年に発表した「JFA 2005年宣言」を具現化する

するための一つの過程だと捉えてもらえたらと考えています(上表参照)。

14年に発表したグラスルーツ宣言は、さまざまなバックグラウンドを持つ人々にサッカーをする機会を提供していくという点でとてもインパクトのあるものでした。さすがサッカー界だなどと思ったことを記憶しています。

AfA宣言は、する・みる・支えるの全てを網羅し、JFAだけでなく、Jリーグ、WEリーグ、Fリーグ、そして47都道府県サッカー協会の皆さんと推進していくもので、サッカー界が目指す社会づくりをより発展的に進めていく上で重要なものとなります。

AfA宣言をきっかけとして日本サッカー界全体で取り組んでいく。

日比野 AfA宣言の下、各団体やリーグ、チームなどがそれぞれの取り組み方を進めてくれたらと考えています。方法はさまざまだと思います。ただ、例えば、ジェンダー課題(LGBTQの大会参加など)や障がい者の観戦などに関わるアクセスビリティに取り組みするときには、その分野を専門とする組織やグループで対応することも検討しています。

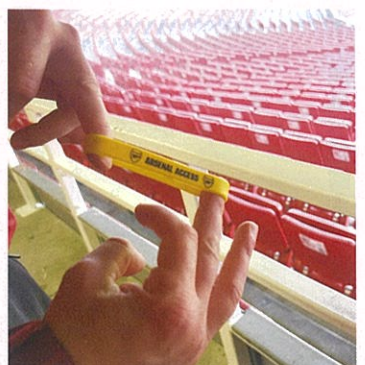
—— みんなの意識や考え方を変え

のために、行動や規則などを変えていくことが求められますね。

日比野 21年に開催された東京オリンピック・パラリンピック競技大会を機に、日本におけるジェンダーや障がいに対する意識は少しずつ変わってきたと思います。私はスポーツ政策を専門としています

が、私の博士課程の指導教官であるフリーハン教授(イギリスラフバラ大学)は「スポーツ政策(ポリシー)は風邪薬ではないから、明日いきなり変わることはない。でも、10年後には必ず変わる」とおっしゃっています。AfA宣言をいま出すということは、27年後の2050年には必ず何かが変わり、誰もがサッカーにアクセスできる社会が変わっていくものと信じています。

先日、仕事でイングランドを訪れた際にプレミアリーグを観戦しました。ある試合では、障がい者の方がボールパーソンをされていました。「自分はサッカーが好きだからサッカーを支えたい」と思った障がい者が、ボールパーソンとして関わることができている。つまり、「あなたは障がい者だからできません」ではなく、やり方を変え、工夫することで社会は変わっていくということです。何か一つ工夫すれば一緒にサッカーができる、一緒にサッカー観戦ができる、一緒に応援できる。これまでの前例や固定観念を取っ



アーセナルFC(イングランド)では、見た目には分かりにくい障がいや疾患のある人(糖尿病など)にACCESSと書かれたバンドを配布して、スタッフが試合会場などで声掛けができるようにしている

払うことが、いろいろな人がサッカーに関わることでできる機会や場所を増やしていくことにつながるのかなと。

私自身がイギリス留学をしていた十数年前は、イギリス人の、障がい者や外国人への対応はとても厳しいものでした。でも、やはり社会つて変わっていくんだと、ロンドンで開催されたオリンピック・パラリンピック競技大会を見て強く思いました。日本サッカー界のみならず、AfAに取り組みことができたら、きつともっと多くの人にサッカーがある環境が当たり前になっていく。AfAはサッカー界としての意思を表明するものになればと考えています。

[特集] みんなのフットボール

フットボールの魅力と可能性

北澤 豪 日本障がい者サッカー連盟会長

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）の北澤豪会長に、これまでのJIFFの取り組み、障がい者サッカーがさらに発展するためにすべきことを聞いた。

○取材日：2023年9月22日



誰もがサッカーを 楽しめるように

サッカーを通じて 社会全体のマインドを変える

——2016年にJIFFの会長に就任されて以降、力を入れて取り組んできたことを教えてください。

北澤 当初から根本的な考え方は変わっていません。「誰もが」という視点を持ち、限られた人だけではなく、誰もがサッカーを楽しめる環境づくりを進めること。障がい者への理解という点で、日本のサッカー界、スポーツ界は欧米諸国に比べると、まだ十分ではありません。例えば、公共のスポーツ施設は誰でも自由に使いやすい環境にあるでしょうか？ 私自身は、大いに改善の余地があると思っています。

——障がい者の人たちも自由に使いやすい場所づくりですね。

北澤 少し前までは、サッカーをしたかと思っても、まずどこでサッカーができるのかが分からなかったそうです。今はJIFFに7団体（日本CPサッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ソーシャル

フットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本ろう者サッカー協会、日本アンブレイテッドサッカー協会、日本電動車椅子サッカー協会）があり、それぞれに窓口を設けています。活動場所の選定や参加の呼びかけには、特に力を入れて取り組んできました。また、環境を整えるだけではなく、既存のルールを変えて、あらゆる人たちが参加しやすいようにしています。柔軟な姿勢を持ち、社会全体のマインドそのものを変えていくことが重要だと考えています。

——窓口をつくることでどのような変化が生まれましたか。

北澤 参加する機会が増え、それによって新たなコミュニケーションが生まれました。次のステップとしては、分断をなくしていくことです。健常者も障がい者も一緒にサッカーをプレーできるような事例をもっとつくっていきたい。これまであまり見えなかった部分を示すことで地域の人たちの理解も深まると思います。

——地域への働きかけは、どの

ように行っているのですか。

北澤 各都道府県サッカー協会（FA）に、障がい者サッカー委員会やインクルーシブ委員会を設置してもらっています。各FAでは障がい者サッカーの指導者のインストラクターを招いて話を聞いたり、インクルーシブフットボールなどのイベントを開催したりと、さまざまな働きかけをしています。各FAに担当窓口ができたことで地域のJクラブとの結びつきも生まれ、障がい者サッカーを広める活動が活発になった結果、その認知度が高まっていると実感しています。例えば、松本山雅FCのアカデミーでプレーするU-12年代の選手たちは、長野県出身のブラインドサッカー日本代表である平林太一選手の名前を知っていますからね。

—— JIFFが取り組んできた成果の表れですね。

北澤 サッカーの持つ力が大きいのだと思います。サッカーを通じて社会全体のマインドも変えていけるかもしれません。中長期的には、学校教育で子ども



障がいの有無を問わず「みんなでサッカーができる環境をもっとつくりたい」と北澤JIFF会長は語る

たちの障がいへの理解を促進させることが大事です。ただ座学で知識を得るだけではなく、サッカーを通じて障がい者と触れ合うことで、きつとこれまでとは違う社会になっていくのではないかと考えています。世の中を変えれば、このスポーツの価値も見直されるはずですし、サッカーにはその役割、可能性があると思っています。

障がいの有無を問わず 代表同士で連携していきたい

—— 障がい者サッカーの環境

整備を進める上で、指導者の理解も不可欠です。

北澤 知識と理解のある指導者を増やしていく必要があります。それこそ、指導者の考え

方を変えることも一つでしょう。例えば、耳に障がいがある人にはホワイトボードを使って説明できます。最初から「指導できない」ではなく、接し方を工夫すれば指導はできるはずです。私自身は、指導者は、障がい者を含むあらゆる人たちが育てられる知識を持っているべきだと考えています。

—— 指導者を養成する上で欠かせない要素ということですね。

北澤 指導者ライセンスを更新するときのリフレッシュ研修会では、すでに学ぶべき要素としてカリキュラムに入っています。義務付けはしていませんが、当たり前に入っているべきものだと思います。指導する上で

大事なことは、サッカーを教えることよりも、まず選手の人命と健康をどう守るかです。

—— 指導者による理解が進めば、障がい者サッカーを取り巻く環境も変わってくる。

北澤 健常者と障がい者が同じピッチでプレーすることが当たり前になれば、多くの変化が起きるでしょう。実際、Fリーグのクラブでは、聴覚障がいのある選手がプレーしている例があります。そのクラブでは、聴覚障がいのある選手で構成されたチームと強化試合も行っています。あまり知られていないかもしれませんが、ピッチで対峙すると、彼らは非常にレベルが高い。フットサルにとどまらずサッカー界でもこうした取り組みにチャレンジしてほしいです。

—— 障がい者サッカーのチームにとってもプラスになります。

北澤 意義ある活動になることは間違いありません。グラスルーツレベルで一緒に楽しむことはもちろんのこと、障がい者

サッカーの強化を考えても、最も有効な方法です。今年からJIFFFに加盟する団体のうち6団体の日本代表チームは、サムライブルー（日本代表）と同じデザインユニフォームを着ることになりました。一緒に頑張って強くなっていきたいと思っています。

—— ユニフォームを統一したことによるメリットは。

北澤 言葉にしなくても、「日本サッカーが一つになった」と分かってもらえたと思います。代表チームのユニフォームはその国を象徴するもので、あらためて説明する必要はありません。とにかく、仲間意識を持つて関わってもらいたいですね。

—— イメージされていることは何かありますか。

北澤 将来的にはサムライブルーと連携して強化できればと考えています。JFAには試合を分析するアナリストがいれば、海外でのプレー経験が豊富なコーチングスタッフもいます。彼らの存在は障がい者サッ

れます。

カーの代表チーム強化にも生か
せますし、それによって、互いが
成長するはずですが。サムライブ
ルーやなでしこジャパン（日本
女子代表）の選手たちが障がい
者サッカーと共に活動すること

によって、その取り組みが広が
り、各FAやファン・サポーター
の考え方も間違いなく変わり、
健常者と障がい者との交流が活
発になるでしょう。サッカー界
の中心にいる人ほど、自分たち
が各地域のロールモデルになる
という意識を持つことが求めら

——日本サッカー協会（JFA）
の理事を務められた北澤会長な
らではのビジョンですね。

北澤 自分たちは同じファミ
リーなんだ、という思いをずっと
持っていました。日本と韓国で
FIFAワールドカップが開催
された02年の8月、横浜市で知
的障がい者による世界大会「も
う一つのワールドカップ」が開
催されました。私は、日本代表

光景を見て、日本サッカーの將
来もこうあるべきだと思いまし
た。その後、少しずつステップ
アップし、現在のフェーズまでた
どりついたわけです。現在、各
団体とは代表強化の進め方につ

いて話し合っていますが、障がい
者サッカーの日本代表もサムラ
イブルーやなでしこジャパンと
同じユニフォームを着る以上、目
指すべき場所があります。選手
たちには、「憧れの日本代表選
手と同じユニフォームを着て満
足するのではなく、自分が社会
にどれだけの影響を与えられる
か考えよう」日本代表として

（2021年開催）がフックとな
り、選手たちが講演会や学校教
育の現場に向く機会は増えて
います。彼らが勇気を持って表
に出るようになったことで、社
会の理解が深まったと実感しま
す。アスリートが頑張っている
姿を知ると、周囲の目が同情か
ら尊敬に変わるんです。これは
非常に価値があることです。「自
分たちも世の中の役に立ってい
る」これまでは助けてもらっ
ただったけれど、もうそれだけ
はない」と選手自身のモチベー
ションアップにつながります。

——東京で開催されたパラリン
ピックで障がい者サッカーの潮
流も変わったのですね。

北澤 各団体の長所を見つけれ
ることが不可欠です。日本ブラ
インドサッカー協会であれば、企
業向けに組織力向上のための体
験型研修プログラムを提供して
います。ブラインドサッカーは
目が見えない、または見えにく
いからこそ培われるもの、例え
ば言語コミュニケーションの円
滑化があります。障がい者サッ
カーの団体の意識は少しずつ変
わっています。

——時代の変化とともに成長
することが期待されます。



2017年にブラインドサッカー日本代表とU-17日本女子代表が交流したときの様子。こうした活動が増えることで日本代表としての連帯感と相互理解が深まる

のテクニカルアドバイザー
ザーとしてその大会
に参加したのですが、
強豪国は障がいの有
無を問わず、その国の
サッカー代表と同じユ
ニフォームを着ていま
した。健常者、障がい
者と区別することな
く、一元化した組織と
して活動していたので
す。

「誰もが」という視点が 今後の発展の鍵になる

——普及の側面で障がい者サッ
カーの選手たちが果たすべき役
割はありますか。

また、大会中、デン
マークは日本のキャン
プ地で障がい者との交
流会を設けるなど、さ
まざまな取り組みを
行っていました。その

北澤 東京2020オリンピック
ク・パラリンピック競技大会

北澤 現在、われわれは各団体
に自立を促しています。例えば、
運営資金を生み出す自助努力も
そうです。いつもJIFFが手
を貸している状態では組織は育
ちませんし、永続的に活動して
強化していくことも難しいと思
います。

——自立するためには何が必要
になってきますか。

——自立するためには何が必要
になってきますか。

——自立するためには何が必要
になってきますか。

神奈川県サッカー協会



一番大切なのは「意識を変える」こと

神奈川県サッカー協会（FA）では、障がい者サッカーの7団体が集うイベント「インクルーシブフットボールフェスタ」を年に1度開催し、その活動を推進している。同フェスタについて神奈川県FAの河野雅道副会長（兼専務理事）に話を聞いた。

○取材日：2023年9月22日

フェスタを通じて つながりが生まれている

「「みんな一緒に」などを意味する「インクルーシブフットボール」に力を入れている理由を教えてください。」

河野 神奈川県の特徴は、障がい者サッカーの7団体全てのチームが存在することです。これは全国でも珍しいと思います。また県内にはJクラブをはじめ、WEリーグやなでしこリーグのクラブも多

いんです。これらをコラボレーションさせて共生社会を実現し、障がい者がサッカーやスポーツを楽しむきっかけをつくりたい。そして健常者の方には、障がいへの認識を深めてもらえるように啓発

を進めていきたい。そうした相互理解に加えて、障がい者サッカーの競技人口の拡大も目指しています。他の都道府県に比べるとチームは多い方ですが、競技人口としてはまだまだ少ないので、もっと普及していければと思っています。

——神奈川県FA主催の「インクルーシブフットボールフェスタ」が毎年開催されています。始められたきっかけとは。

河野 2017年に神奈川県FAのフットボールセンター「かもめパーク」で、障がい者サッカーの各団体やチームの協力を得て体験会を開催したことが始まりです。そのときは知的障がい者サッカーチームである横浜F・マリノスフトゥーロの選手・スタッフにも参加していただきました。翌年からは少しずつ切り口を変えて開催しています。新型コロナウイルス感染症の拡大により20年は中止。21年はオンラインでの開催に切り替え、チームの方には会場に集まっていたとき、一般の方はオンライン参加としました。21年からは施設全体がバリアフリーの神奈川県立スポーツセンターで開催しています。

——フェスタの内容を教えてください。

河野 現在は、参加団体の活動説明会、体験会、参加者全員での「まぜこぜウォーキングフットボール」の三部構成としています。活動説明会では各チーム・団体が趣向を凝らしてそれぞれの競技の特性などを解説し、それを踏まえて実際に体験するという流れです。そして最後に、競技の枠を超えて、みんなでサッカーを楽しむ形をとっています。JクラブやWEリーグ・なでしこリーグのクラブの関係者には準備段階から参加いただき、イベント当日には選手やスタッフにも参加してもらっています。

——参加者の反響はいかがでしたか。

河野 フェスタに参加した少年



インクルーシブフットボールフェスタの活動説明会では、各団体やチームが趣向を凝らして発表している。河野副会長は「こうした機会もなかなかないので、皆さんの気合が感じられる」とその印象を話す



「健常者に啓発し、誰かが背中を押してあげられるような環境をつくっていききたい。また当事者の意識を変えてサッカーやスポーツを始める人を増やしていきたい」と語る河野副会長



ませこぜウォーキングフットボールでは独自のルールを設定。みんなが笑顔で一つのボールを追いかける姿が見られる

サッカーチームの子どもたちは、アンプティサッカー(切断障がい者サッカー)の選手がボールを蹴るのを見てとても驚いていました。ませこぜウォーキングフットボールでは、車椅子を巧みに使ったシュートをセーブする電動車椅子サッカーの選手のプレーを目の当たりにして、相当なインパクトを受けた様子でしたね。健常者と障がい者、両者にとつて間違いなく良い経験になっているのではないかと思います。

——毎年フェスタを開催することで得られていることは。

河野 成果を定量的に示すのが

良いかどうかは別として、今年の参加者は障がいのある方が22人、健常者が24人の計46人でした。こうした活動は地道に続けていくことで輪が広がっていくと考えると、年1度の開催だとしても大事なイベントだと捉えています。

フェスタは当初から関わる皆さんにも好評で、準備段階からオンラインを活用して7団体のチームやJクラブ等の関係者がコミュニケーションを取り、それぞれの意見や考えなどを共有していますので結び付きも強くなっています。フェスタ以外にも、湘南ベルマーレや大和シルフィードが、ソーシャルフットボール(精神障がい者フットサル)のFC PORTと連携したり、神奈川県FAの常務理事を務める元なしこジャパン(日本女子代表)のGKで大和シルフィードのGKコーチとして活動していた小野寺志保さんが、今年発足した女子CPサッカー(脳性まひ者5人制サッカー)の日本代表のコーチに就任したりと、少しずつですがつながりが生まれる場になっているのかなと思います。

——フェスタ実施前の同時期には、日本サッカー協会(JFA)の公認指導者リフレッシュ研修会「障がい者サッカーコース」も開催しています。

河野 フェスタに参加するスタッフには、毎年、研修会への参加をお願いしています。指導者ライセンスを保持している方にとってはリフレッシュポイントが付与されますし、日本障がい者サッカー連盟(JIFF)の指導者登録証も発行されますから。

地の利を生かして
良い見本になつていく

——障がい者サッカーの取り組みを進める上で、今後目指していきたい姿はありますか。

河野 フェスタに関しては、現状は私が音頭を取りながら、FAの各部会やJクラブ、WEリーグ・なしこリーグのクラブに協力してもらっている形です。それをもっと専門的に担う組織や人材を立ち上げるよう、ワーキンググループを立ち上げて神奈川県版のJIFFの発足を目指しています。県内に障がい者サッカーの連盟ができれば、施設や財源の確保もやりやすくなっていくはず。簡単なことではありませんが、来年度以降の発足を目標に、神奈川県知的障がい者サッカー連盟女子委員長である稲葉政行さんを中心に検討を進めているところです。

——神奈川県FAとは別に組織

をつくるということですか。

河野 JFAとJIFFの関係と同じだと思います。JIFFが障がい者サッカー全体の活動を進めながらも、JFAの中にも窓口がある形ですね。われわれとしても、神奈川県版JIFFの立ち上げとともに、神奈川県FAの中にも窓口となる組織をつくり、両輪でやっていくべきだと感じています。

——フェスタの開催がそのきっかけになったのでしょうか。

河野 そうですね。7つの団体が顔を合わせる機会というのも、そう多くあることではないでしょうからね。一方で、本当に一つにまとめた方がいいのか、という部分も議論しなければなりません。ソーシャルフットボールとCPサッカーは大枠が似ていて親和性はあると思いますが、電動車椅子サッカーとアンプティサッカーはどうなのか。各団体の皆さんの意見も聞きながら、慎重に進めていきたいですね。

——フェスタでも掲げている「共生社会の実現」のために必要なことは何だと思えますか。

河野 一番大切なのは「意識を変える」ことだと思っています。健

常者にとつて障がい者は、どこか特別なものと感じている部分があると思います。そうではなく、日常における当たり前として捉えられるようにしていきたいですね。また障がいのある方の当事者意識も変えられるよう、場の提供も続けていき、障がい者がサッカーやスポーツを楽しめる環境づくりをしていきたいと思っています。

——障がい者がサッカーやスポーツを楽しめる環境になつていくのは理想ですね。

河野 競技をしている人たちも、もっと楽しめるようになることを願っています。その点で神奈川県は、障がい者サッカーのチームも多いですし、スポーツセンターはバリアフリーも整っていて障がい者スポーツの拠点になると思います。JクラブがWEリーグのチームを発足し始めたように、障がい者サッカーのチームを持てるようになるれば、もっと理解は進んでいくのではと感じています。

各都道府県によって事情は異なりますし、取り扱わなければならない壁も多いと思いますが、ある程度のリソースがそろっている神奈川県がまずは良い見本となるよう、地の利を生かして、取り組みを継続していきたいと思っています。

静岡県サッカー協会

地域の社会を変えていくことと コミュニティとしての機能の 両方が大事

静岡県サッカー協会（FA）では、7つの障がい者サッカーを対象とする「静岡パラフットボールフェスティバル」を開催するほか、月に一度、体験会を実施している。静岡県FAの取り組みについて、同FAチャレンジド委員会の瀬戸脇正勝会長に話を聞いた。

○オンライン取材日：2023年9月13日



©静岡県サッカー協会

大型のイベントに 県内外から参加者が集う

——静岡県FAでは2003年から障がい者サッカーの大会の主管事業を行っています。FA内に障がい者サッカーを統括する「チャレンジド委員会」が立ち上がった経緯を教えてください。

瀬戸脇 私が特別支援学校の教師をしていて、1989年に知的障がい者のサッカー部を立ち上げました。その年から大会を開催したり、連盟を立ち上げたりするなど、知的障がいサッカーの活動をするようになったのですが、2003年頃に静岡県FAの方から「一緒にやりましょう」と声を掛けていただきました。スタート当初は知的障がいを中心でしたが、当時、静岡県教育委員会にいらした清水東高校の勝澤要先生から「応援するよ」と言っていたとき、ここ7～8年くらいで7つの障がい者サッカーに力を入れるようになりました。

——静岡県内で障がい者サッカーが普及していった背景は。

瀬戸脇 特別支援学校では卒業後の自立と社会参加のためのカリキュラムが生まれ、生徒たちはさまざまなことを学んでいます。スポーツも必要ではないかということで、多

くの特別支援学校で部活動を始めようになりました。静岡県はサッカーどころですので、特別支援学校に通う子どもたちの中には学校以外でサッカーをしている子どもが数十人いましたし、幼少期にプレーしていたという生徒もいます。そんな背景もあって各学校にサッカー部ができていったんです。

——具体的にどのような取り組みをされているのでしょうか。

瀬戸脇 象徴的な活動としては、静岡パラフットボールフェスティバルを実施しています。全国からパラフットボールに関わる人たちが集まり、2日間にわたって行っているもので、各種サッカー教室や練習会のほか、「こちゃ混ぜサッカー」やインクルーシブフットボールなど、7つのパラフットボール競技を体験できるイベントになっています。第8回の今年は1月に静岡市で開催しました。今後は開催地を変えて県内で障がい者サッカーが広がるようにしたいと思っています。

——パラフットボールフェスティバルを開催しての手応えはいかがですか。

瀬戸脇 障がいのある方にとってはなかなかそうした機会がないので、喜んでもらっていると嬉しい



©静岡県サッカー協会

第8回を迎えた静岡パラフットボールフェスティバルは静岡市のJ-STEPで開催され、県内外から多くの参加者が集まった

月1度の体験会で 障がいを知ってもらう

——その他にはどのような取り組みをされているのでしょうか。

参加してくれた人たちが笑顔になって帰っていくのは実際にやってみて感じているところです。全国からもたくさんの方が来てくださるので、そういう意味では選手もスタッフもやりがいがあります。



パラフットボールフェスティバルではアンブティサッカーの東西対抗戦なども行われる

しています。

——体験会を毎月実施することの意義をどう感じられていますか。

瀬戸脇 障がい者サッカーに馴染みがない人に向けた体験会を月に1度のペースで開催しています。パラフットボール体験会と呼んでいます。月によってアンブティサッカーやブラインドサッカーと種目を変えて、清水エスパルスが運営するエスパルスドリームフィールドを会場に実施しています。参加者は指導者や高校生、大学生、障がいがある人も交えてそれぞれの障がいについて学びます。4月にアンブティサッカー、5月に電動車椅子サッカー、6月にブラインドサッカー、7月にソシヤルフットボール、8月に知的障がい者サッカーと続き、9月の終わりに全ての障がい者サッカーを対象とした体験会を実施

**交じり合う社会の実現へ
各団体の活動が鍵に**

瀬戸脇 地方でやるには7つの障がい者サッカーがまとまってやるのが重要で、それでお互い助け合うことができます。自分たちの結束力を高めるという意味でも良い効果があります。コンセプトは「スポーツは障がいがあっても、なくとも変わらないんだ」ということです。誰でもスポーツで努力したら結果がほしくなり、スポーツを通して友だちをつくりたいといったところも最終的にたどり着くところだと思えます。毎月の開催です。案内を出したり、事務的なところは大変ですが、広報力不足が課題ではありますが、お付き合いのある企業では社内メールなどで案内してくれるなど、協力していただいています。小さな活動ではありますが、私たちは継続することに重きを置いています。毎月やっているということが重要で、体験会に参加して、障がい者のチームに入った人もいます。今後は継続するとともに活動範囲を広げていきたいと考えています。

——県内のJクラブとの連携はいかがでしょう。

瀬戸脇 静岡県には4つのJクラブがあります。アスルクラロ沼津には、もともとわれわれで運営していたチームを移管して活動を引き継いでもらっています。その他にも小学生の障がい者サッカー教室を開いてもらったり、フェスティバルも手伝ってもらったりなど、歴史的にも長く関わってもらっています。清水エスパルスは昔から「派遣指導員」という形で小学生のチームを指導してもらっています。その小学生のチームには、特別支援学校と特別支援学校の生徒、合わせて70〜80人が在籍していますので非常に助かっています。他にも耳の不自由な子どもたちの指導をしていただいたり、CPサッカーで使用するピッチを提供していただいたりしています。藤枝市を舞台に開催されている「もうひとつの高校選手権」という知的障がいの全国大会があるのですが、藤枝MYFCにはそこでやっている体験会などを手伝ってもらっています。ジュビロ磐田には、NPO法人静岡サッカー連盟が主催する、特別支援学校の県西部地区の大会の運営をサポートしてもらっています。また、ジュビロは今年から、スクール内に知的障害者向けのクラス（ジュビロ磐田ルナソルジャス）を開講しました。ありがたいことに、各Jクラブ

との窓口がしつかりとつながっていて、何かあれば互いに連絡が取れるという状態にあります。それはとても大事だと思います。

——今後の展望はいかがでしょう。

瀬戸脇 パラフットボールフェスティバルを県内各地で開催できるようになってきましたので、まずはそれを継続していくこと。あとは、体験会などを通していろいろな障がいについて知ってもらうこと。知ることによって人の気持ちや相手のことを考えられるようになると思うんですね。これからもサッカーを通して交じり合う社会への貢献をテーマの一つに掲げてやっていきたいと思っています。

もう一つは、コミュニティーの大切さです。たとえば、足を切断して10年以上も社会から断絶していた人が、アンブティサッカーを知って社会参加するようになったという話を聞いたことがあります。先日、清水エスパルスとデフサッカー教室をしたときに、障がいのある赤ちゃんを連れてご家族が来られていて、そのお母さんがサッカーを見ながら他の親御さんに障がいのことや将来のことについて相談している姿がありました。その光景を見て、スポーツの持つ力は大きい

んだと感じました。

障がい者サッカーには、地域社会を変え得るスポーツの力と、一人一人の障がいに向き合って勇気を与えるコミュニティーの両面があると思うので、どちらも大事にしていかなければならないと思います。そのためには、ただ交わるというのではなく、7つの障がい者サッカー団体それぞれがきちんと活動していることが重要です。静岡県FAとしては、一緒にやっていくことを大切にしてずっとやってきました。それぞれの団体が積極的に動いて、コミュニティーとして機能していくことを最も重視しています。いろいろな障がい者が交じり合う文化は必要です。ただ、健常者が障がいと向き合う文化も必要なのでしっかりと求めていきたいです。



IAI日本平スタジアムで行われたデフサッカー教室。会場の提供や指導者の派遣など県下のJクラブの協力も大きい

NPO法人はらまちクラブ

「歩くサッカー」で居場所づくり

NPO法人はらまちクラブは、いち早くウォーキングフットボールを取り入れ、2018年と2019年には全国から参加者を募って講習会を行った。同クラブの江本節子理事長にウォーキングフットボール導入の経緯とその魅力について聞いた。

○オンライン取材日：2023年9月13日



NPO法人はらまちクラブの
江本節子理事長

会議で聞いたひと言から クラブでの導入を決意

「クラブを立ち上げた背景についてうかがいます。」

江本 40年ほど前に福島県原町市（現、南相馬市）で小学生バレーボール連絡会という組織を発足させ、そこで会長を務める中で「スポーツをすることで地域みんながこんなに喜んでいられる」ということを何度も実感しました。それで、2004年4月にはらまちクラブを立ち上げました。

「詳しく教えてください。」

江本 一般的に、第一の居場所は家庭、第二の居場所は学校や職場、という人が多いと思いますが、私はこの二つ以外に「第三の居場所」があってもいいのではないかと考えました。スポーツを通じて赤ちゃんから高齢者まで地域みんなの居場所づくりをしたい。そう思い、はらまちクラブをつくったんです。

「サッカーに関心は持たれていたのでですか。」

江本 正直、あまりよく知りませんでした。今でもオフサイドのルールが分からないくらいですが

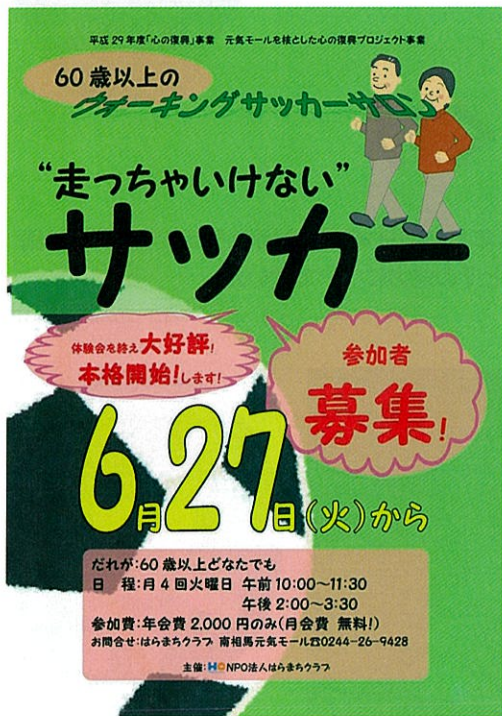
（笑）、何度かスタジアムでプロの試合を観戦したことはありますし、サポーターの情熱的な応援にはいつも圧倒されます。

「ウォーキングフットボールをはらまちクラブに取り入れた経緯は。」

江本 少しさかのぼりますが、02年に「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店）という本が出版されました。スポーツクラブづくりを目指す人のために必要な知識や方法など、クラブづくりのポイントをまとめたこの本に、私も原町市の小学生バレーボール連絡会会長として寄稿したのですが、この本を監修したNPO法人クラブネットの監事を務めていたのが松田薫二さん（現、日本サッカー協会47FA普及推進部）でした。

「そこでサッカー界との接点が生まれたのですか。」

江本 それから少し時がたってしまいました。16年7月にあるミーティングで「一緒にやろう」という松田さんの声がかけてきました。私がかさず「何が？」と尋ねると、ウォーキングフットボール



はらまちクラブは地域の高齢者のためにウォーキングフットボールを導入。写真のような告知ポスターをつくって周知を図った

ル、歩くサッカーだと言うので、それなら誰でもできそうだと思います。「今度、はらまちクラブに来て教えてほしい」とその場でお願いしました。

——行動が早いですね。

江本 翌17年の春から、はらまちクラブで「走っちゃいけないサッカー」を体験しませんか」と声をかけて参加者を募り、スポーツでウォーキングフットボールの体験会を行いました。すると、60代から80代の人たちが30人ほど集まったんですね。それで6月から「ウォーキングサッカーサロン」と称して週に1度、定期的に活動することになりました。

——参加者の反応はいかがでしたか。

江本 おおむねポジティブでした。体験会を開催したときは、「歩きながら楽しめること」を全面に出して参加を促したので、「歩くサッカーも面白い」と感じてもらえたと思います。高齢者にとつてウォーキングは健康維持につながることもあって大人気です。でも、個人的には、いくら健康維持のためとはいえ、ただ歩くだけということがピンとこなくて。ウォーキングにボールを蹴るといふ動作が加わればもっと楽しくなるんじゃないかと思ひ、活動を続けてきました。走るのは無理だけど、歩くことはできるという高齢者に向けたスポーツとしてウォーキングフットボールはうってつけです。よろけないように工夫しながら

ボールを蹴るといふ作業はバランス感覚を養うのに効果的です。

居場所があると人生が豊かになる

——はらまちクラブは、18年11月に「第1回ウォーキングサッカー全国交流会 in 福島Jヴィレッジ」を主催しました。

江本 その前年、松田さんを南相馬市に招いてウォーキングフットボールのルール説明会や講習会を実施しました。その際、松田さんに仰っていただいた「定期的にこういう活動をしているのは、はらまちクラブだけ」という言葉に乗せられちゃって(笑)。「ならば全国ではやらせるために交流会をしよう」ということで、全国交流会を主催することになりました。松田さんというインフルエンサーがいたからこそ、こうした取り組みを実現するに至ったと断言できます。

——全国交流会は18年と19年に1回ずつ実施されていますね。

江本 18年は選手とスタッフを含めて全国から約150人、19年には約200人の方が参加してくれました。Jヴィレッジの青々としたピッチでプレーできたことは、参加者にとって忘れがたい思い出

になったはず。ピッチ内外で皆さんに楽しんでいただき、日本で最も面白い大会になったのではないかと自負しています。

——競技面以外のウォーキングフットボールの魅力は何だと思われませんか。

江本 先ほども触れた通り、ほとんどの高齢者はリハビリ、あるいは健康を維持するために歩くとは認識しています。では、ウォーキングフットボールに参加すると何がいいかというところ、そこには二つメリットがあります。一つ目はスポーツを通して喜びを得られるということ、二つ目は仲間ができることで新たなコミュニケーションが生まれることです。高齢になってもやりがいや生きがいを見いだすことができれば、ウェルビーイングの向上につながります。私は「ウェルビーイングを「健康、元気、幸せ」と定義しているのですが、ウォーキングフットボールは、まさにその向上につながっていると思います。

——居場所があることが人々の幸せにつながるのですか。

江本 東日本大震災のとき、南相馬市には県外への避難を余儀なくされた人たちがいます。そのとき、

はらまちクラブのバレーボールコミュニティで活動している人たちが手を取り合って東京に避難したケースがありました。コミュニティのもたらす力だと思ひます。この話には続きがあり、子どもたちが避難した先の学校で鬱々としていたところ、その学校の校長がたまたまバレーボールのファンで、子どもたちを元気づけるためにバレーボールのスポーツ少年団をつくってくれたそうです。居場所があること、居場所をつくることで人生は豊かになります。

——最後に、今後の展望をお聞かせください。

江本 何事もやってみないと分かりませんので、まずは皆さんにウォーキングフットボールを体験してもらい、自分なりの楽しみを見つけてほしいと思ひます。うまい、へたはどうでもいい。ルールも知らなくていい。とにかく、走ってはいけない、ということを頭の片隅に置き、一度ボールを蹴ってみてはいかがでしょう。わがクラブが18、19年に実施した全国交流会はコロナ禍の影響で20年以降、中止を余儀なくされましたが、来年、第3回交流会を実施する予定で各所への協力を仰いでいます。興味のある方はぜひ参加してください！

岩田朋之

ロービジョンフットサル日本代表／JFA職員

サッカーをもっとみんなのものに

人生の目標を定めた矢先に原因不明の難病を患った。言葉で表現できないほどの苦しみの中で希望を与えてくれたのは、サッカーだった。選手、指導者、日本サッカー協会（JFA）職員とさまざまな立場でサッカーと向き合う岩田朋之さんに、サッカーに対する思いや今後の目標などを聞いた。

○取材日：2023年9月14日

夢を持った矢先に原因不明の難病を患う

——サッカーとの出会いを教えてください。

岩田 小学2年生のときに幼なじみに誘われてサッカー少年団に入りました。その年にJリーグが開催したこともあって、両親とスタジアムに観戦にも行っていました。中学校にはサッカー部がなかったので野球部に入り、高校では部活動に所属せず、友人たちとスタジアムやテレビでサッカー観戦をしていました。2年時にFIFAワールドカップの日韓大会があり、とても楽しみにしていましたが、高校のスポーツ大会で胴上げされたときにうまく支えてもらえず、首の靭帯を切ってしまっ……。2カ月弱入院することになり、ワールドカップも病院で静かに見ていました。でも、この経験があったからこそ、サッカー愛が深まったというか、サッカー観戦への熱が高まったように感じます。

——その後の進路についてはどのように考えていましたか。

岩田 2004年に大学に入学しました。3歳から15歳まで水泳をやっていたこともあってライフセービング部に入部したのですが、レスキューボードに乗って首を上げたときに首や背中が痛みが走りました。高校時代のけがの影響ですが、「けがをした自分が悪い」と自分自身を責めるようになり、部活動や大学にも行けなくなつて留年を繰り返した結果、自主退学することになりました。それでも縁あって飲食店で働き始め、12年には有名店で働かせてもらえる

ようになり、将来はソムリエになって仲の良いシェフと自分たちの店を持ちたいという夢ができました。

——レーベル遺伝性視神経症（レーベル病）を発症したのはそのときですね。

岩田 サッカーの試合をテレビで見ているときでした。画面上部のスコアが見えにくくなり、右目で見るときだけスコアが消えました。仕事を始めたばかりだったので、初めはストレスか、あるいはもともとあった近視が進んだのかな、と。そこから右目の見えにくさがどんどん進んでいきました。ワインのレーベル

でしまうことでした。どうも病気の気が治るのか治らないのか、それが分からず、家族の顔も見えなくなる。つらくて苦しくて、おかしくなりそうでした。

——翌13年に筑波技術大学に進学されましたが、気持ちを立て直すことはできたのでしょうか。

岩田 正直なところ、今も立て直せていないのかもしれませんが、当時は、本当にぎりぎり命をとどめていたといっても過言で



やお客さんの顔、駅の階段や看板、それらが消えたり、ぼやけたり。仕事にも影響が出始めたので職場の人に相談し、会社のオーナーの紹介で眼科に行きました。「中心の視野が欠けている。脳の病気かもしれない」と医者に言われ、翌日には都内の大きな病院に行き、神経内科と眼科を1日ずつ交互に受診するようにになりました。約2週間、検査入院もしましたが、それでも原因は分かりませんでした。夢が見つかったのに職場で役に立ってない。つかつたですね。でも何よりつかつたのは、見舞いに来てくれる母の顔から目や鼻などが消え、のっぺらぼうのように見え

はない状態でした。そのまわりの中で二つの出会いがありました。一つは、本田圭佑選手の手言葉です。退院後は仕事もできず、一日中、家の中でラジオを聞いているしかなく、かつたので、本田選手が出演したテレビ番組を録画して、それを何度も再生して聞いていました。二つ二つの言葉に力があり、勇気をもりました。もう一つは、日本サッカーミュージアム（当時）です。検査していた病院では病名が分からなかったのですが、御茶ノ水にある病院で診断を受けること



今年8月に開催されたIBSAロービジョンフットサル世界選手権で日本は初めて4位に

になり、そこでレーベル病だと分かりました。この病気は、現代医学では治療法や治療薬が確立されておらず、そもそも原因も分からない病気だと聞かされました。なんだかドラマの中の出来事のように、つらい、苦しいという言葉では片付けられない感覚を味わいました。その後、通院のために母にサッカーミュージアムに連れて行ってもらい、スタッフの人に頼んで本田選手にメッセージを送っていました。

——ぎりぎり命をとどめていた、というのは重い言葉です。

岩田 今お話しした二つの出会いもあり、何とか踏みとどまっています。生きる支えになったものもあります。13年6月4日、埼玉スタジアム2002で行われた、ワールドカップブラジル大会のアジア最終予選のオーストラリア戦を友人

と見に行きました。視覚障がい者になってから初のスタジアム観戦です。日本は試合終了間際、本田選手のPKによる得点で1-1とし、本大会出場を決めました。本田選手が蹴る前から涙が止まらなくなるほど僕にとってこの体験は大きなもので、本当に力になりました。もう一つは、北九州市立総合療育センターの高橋広先生の言葉です。ローベル病は遺伝性のものなので、7歳下の弟もキャリアだと分かりました。そのときに「君がつらいのは分かる。でも、弟もいつ発症するか分からず、毎日恐怖と戦っている。彼が今を楽しめるように、まずは君が視覚障がい者として輝いて、胸を張って生きていってほしい」と。この言葉は、暗闇の中にいる僕に生きる力を与えてくれ、今も支えになっています。

ムーブメントではなく カルチャーに

——どのような経緯でロービジョンフットサルと出会ったのですか。

岩田 サムライブルー（日本代表）のサポーター仲間がブラインドサッカーを紹介してくれました。リーグ戦を見に行き、試合が終わったので帰ろうと思ったときに「この後は弱視クラスです」というアナウンスが聞こえてきました。当時はロービジョンフットサルという名称ではなく、見てみると、選手は

アイマスクもせず普通にボールを蹴っている。この選手たちは自分と同じような症状の人たちなのかな、と。そういうものがあるなら自分もやってみたいと思いました。理学療法士を目指して進学した筑波技術大学にブラインドサッカーとロービジョンフットサルのサークルがあり、それぞれ体験して、自分にはロービジョンフットサルが合うと感じて始めました。

——選手個々の症状や見え方が異なる中で、プレー中はどうのように連携を取っているのですか。

岩田 まずは粘り強く話すことで選手はみんな、見えにくいことを他人に話したくないものなんです。僕の場合は26歳まで見えていたので、見えていたときと見えにくくなってからの違いを説明することができませんが、生まれつき見えにくい人は、それを比較できないので、見えにくいということを説明するのが難しい。15年のIBSAワールドゲームズの後、ブラインドサッカー協会（JBFA）がロービジョンフットサルを特集した冊子を作ることになり、選手個々の見え方をヒアリングしました。そこでみんなの状態が分かり、選手間でも情報を共有して少しずつプレーに反映できるようにしました。他には、ピッチを12分割して、「今、○番にボールがある」「○番にフリーな選手がいる」という指示方法を採用



2018年に仲間と共にチームを立ち上げ、強化のほか普及にも力を入れている

©Haruo Wanibe/JBFA

たような衝撃を受けましたね。彼にとって僕は、僕が子どもころに憧れていた中田英寿さんや長谷部誠選手、本田選手と同じような存在なんだ、と。数カ月後にまた彼とボールを蹴る機会を得られたのですが、彼との出会いで「サッカーをもっとみんなのものに」という思いにさせられました。

——今、お話にも出ましたが、15年からロービジョンフットサル日本代表として活躍されています。

岩田 当初は、ロービジョンフットサルという競技自体がなくならないように、とにかく勝利を目指して競技だけに集中していました。でも、17年にパラスポーツを研究するために筑波大学の大学院に進学して学びを得ると、いろいろなことを考えるようになりました。そのタイミングで、イタリアで世界選手権があり、同じ宿舍に滞在していたイングランドやスペインの選手、スタッフから話を聞きました。認識、取り組み、待遇などあらゆるものが日本と異なり、彼らの国では子どもころから当たり前のようにロービジョンフットサルに取り組める環境や選択肢がある。一方で、日本はまだまだ障がい者が十分にスポーツを楽しめる環境にはなっていない。僕が選手として続けていくことで子どもたちや彼らを支える大人たちに伝えられることがあ

——症状やその背景も人それぞれということですね。

岩田 そうです。15年の世界大会の後、JBFAの活動で視覚障がいの子どもたちとプレーする機会がありました。そこで生まれつき弱視だという子に会いました。彼は小学2年生で、活動中はずっと同じようにしていたのですが、終了後に「楽しかった」と。そして「僕は日本代表のキャプテンを独り占めできたんだ」とうれしそうに言ってくれました。頭を金づちで殴られ

なく、日本代表選手としてトライしていくことが大事だと思っていま

す。
——18年に「Clube Atletico SOLUA葛飾」を立ち上げられました。それは今おっしゃったような思いからですか。

岩田 まさにその通りです。特に17年にイングランド代表のキャプテンを務めていたステイブ・デ

イリー（現、代表監督）との出会いが大きかったです。「ムーブメントではなくカルチャーにすることが重要。それがトモにとつての旅になる。協力できることがあったら何でも言ってくれ」と言ってくれ

て。その後、18年2月に葛飾区にある盲学校でサッカー教室をやらせてもらいました。しかし、やはりコンタクトスポーツであるサッカーに学校の先生たちは当初、難色

を示しました。でも、子どもたちが楽しそうにしている様子を目の当たりにして、先生たちの考え方が変わってきたのが分かりました。こういうことをもっと広めていかななくてはならないと、仲間と共に「自分たちが選手として輝き続け、広めていく」視覚障がいの子どもたちがサッカーと出会い、プレーする場をつくる」この二つを柱に据え、チームを立ち上げました。

——日本は、今年の世界選手権で史上初めてグループステージを突破して4位になりましたが、世界のトップと比べてまだ差はあると感じますか。

岩田 まだまだあります。ボールを止める、蹴るといった基本的な技術やフィジカル面ではやはりウクライナ、イングランド、スペインなどに劣ります。ですが、チームとして力を発揮するところは障がいの有無に関係なく、日本サッカーの強みとして持っているものだと感じました。

誰もがサッカーを楽しめる。そういう国になるように

——19年にJFAに入局されました。

岩田 大学で障がいや病気について学び、大学院で体育スポーツやパラスポーツを研究するようになり、サッカーに恩返しをしたいという

思いが湧いてきました。さまざまな選択肢がある中でJFAを希望した理由は、先述したステイブの言葉です。JFAは「夢」という言葉を大事にしていますが、以前の僕は夢を持てる状態ではありませんでした。でも今は、夢を持って日本サッカーに貢献したいと思えるようになった。大好きな日本代表チームが世界一になってほしい、いろいろな人がサッカーを楽しんでいる国の方が世界一に近づけるのではないかと、そこに自分が貢献したいと考え、JFAのドアをノックしました。

——さまざまな形でフットボールに携わってこられました。あらためてフットボールの魅力とは。

岩田 多様な楽しみ方があることだと思っています。代表のユニフォームを着て「君が代」を聴く瞬間は心が震えますし、フットサルクリニックで多くの人と一緒にボールを蹴るのは楽しい。あるクリニックで僕がGKをやることになったのですが、「トモさんは目が見えにくいからシュートを打たれないようにしましょう」と言ってくれる子がいるかと思えば、相手チームの子は遠くからルーブシュートばかり狙ってくる（笑）。でも、それは正当なことですし、そういうことが楽しく、本当に幸せを感じます。

——サッカーファミリーの中には

まだロービジョンフットサルを知らない人もいます。

岩田 ロービジョンフットサルとは文字通り、目が見えにくい障がいを持つ人の競技です。皆さんの周りにも同じような症状が理由でサッカーを諦めている人や、やろうとすら思っていない人がいるかもしれないということに気付いていただけたらうれしいです。大きな配慮が必要なのではないかと構えるのではなく、ピブスの色をコントラストが明確になるものにするとか、話を聞くようにするとか、ちょっとしたことでもいいんです。

ロービジョンに限らず、見た目で分かりづらい障がいはたくさんあります。そういう人たちがプレーするためのハードルを少しでも低くできるように、皆さんの理解を広げていただけると、もっともつとサッカーファミリーの輪が広がっていくと思います。

——最後に、今の夢や目標を教えてください。


岩田 選手としては、日本代表に選ばれ続けるように挑戦し続けます。指導者としては、将来、ロービジョンフットサル日本代表

の監督になれるよう、それにふさわしい人間になっていきたい。多くの人の協力の下、C級コーチとフットサルC級を取得できましたので、今後、障がいのある人が指導者にもチャレンジできるように、そのロールモデルとして役に立てればと思います。JFAの職員としては、どのような人もサッカーにアクセスできるように場をつくっていきたいと思っています。JFAは50年

までに日本でワールドカップを開催し、そこで優勝することを目標にしています。昨年のカタール大会では全てのスタジアムでアクセシビリティ（利用しやすさ）が整っていました。日本はどうか。代表チームは世界一になったけれどスタジアムは……と言われないうちに、そういった部分でも貢献していきたいですね。

<プロフィール>
岩田朋之（いわた ともゆき）
1986年1月17日生まれ、東京都出身
2012年、26歳でレーベル遺伝性視神経症を発病。同年、ロービジョンフットサルと出会い、翌2013年の筑波技術大学入学を機にプレーを始める。2015年にロービジョンフットサル日本代表に選出され、同年、日本代表キャプテンとしてIBSAワールドゲームズに出場。以降、2017、2019、2023年のIBSAロービジョンフットサル世界選手権に出場。2018年にはクラブチーム「Clube Atletico SOLUA葛飾」を立ち上げる。筑波大学大学院修了後の2019年に日本サッカー協会（JFA）に入局し、技術部グラスルーツ推進グループに所属。2020年より人事部。

ロービジョンフットサルとは
https://www.b-soccer.jp/blind_soccer/low_vision



「多くの人と一緒にボールを蹴るのは楽しい」と話す。写真はフットサルクリニックの様子

日本サッカー協会創立記念日
第19回日本サッカー殿堂

19th JAPAN FOOTBALL HALL of FAME



REPORT

第19回日本サッカー殿堂掲額式典

日本サッカー協会（JFA）は創立記念日の9月10日、JFAハウス（トヨタ東京ビル）で「第19回日本サッカー殿堂掲額式典」を開催した。

第19回日本サッカー殿堂掲額者 プロフィール詳細はこちら
<https://www.jfa.jp/news/00032360/>



日本サッカー協会（JFA）は6月22日、第19回日本サッカー殿堂の掲額者を発表しました。9月10日の掲額式典では、新たに殿堂入りした大澤英雄氏、JFA最高顧問の大仁邦彌氏、セルジオ越後氏、高橋陽一氏、そして、FIFA女子ワールドカップドイツ2011で優勝したなでしこジャパン（日本女子代表チーム）が登壇した。

式典の冒頭では岡田武史JFA副会長が「今回は多くの方が掲額されることになった。日本サッカーを支えてこられた方々の表彰を本当にうれしく思う」とあいさつ。続いて御臨席されたJFA名誉総裁の高円宮妃殿下から掲額者にお祝いの言葉が贈られた。その後は掲額者の歩みと功績が映像で紹介され、岡田副会長からそれぞれに記念プレートが贈呈された。

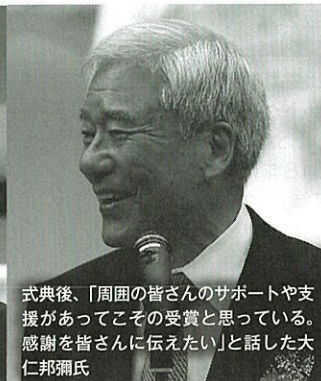
大澤氏は国士館大学在籍中にサッカー部の創設に携わり、卒業後は60年以上にわたって同部のコーチや監督として多くのプロ選手を育て上げた。指導者の養成にも力を注ぐ傍ら、少年サッカー（第4種）にも目を向け、全日



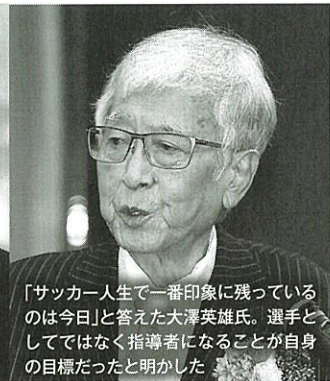
高橋陽一氏は「現実の世界でもこうなっていってほしいと思って漫画を描いていた」と話し、現在のSAMURAI BLUEの活躍に目を細めていた



「普及とはサッカーファンを広く育てること。一番に考えていた普及事業を評価されたことが何よりうれしい」とセルジオ越後氏



式典後、「周囲の皆さんのサポートや支援があつてこそこの受賞と思っている。感謝を皆さんに伝えたい」と話した大仁邦彌氏



「サッカー人生で一番印象に残っているのは今日」と答えた大澤英雄氏。選手としてではなく指導者になることが自身の目標だったと明かした

本少年サッカー大会(現、JFA全日本U-12サッカー選手権大会)の創設に尽力。少人数制サッカーの導入にも携わった。大澤氏は「少年サッカーから中学、高校を飛び越え、大学サッカーに携わりながら一つのチームを最初からつくり上げて選手を育てていきたいという思いで過ごしてきた。今日は私にとって何よりも感動的な日になった」と喜びを表現した。

大仁氏は三菱重工サッカー部や日本代表で選手として活躍し、引退後は三菱重工サッカー部のコーチや監督を務めた。その後、JFAの施設委員長や2002



当時のチームワークを彷彿とさせる登壇となった元なでしこジャパンの面々

年強化推進本部副部長などを歴任し、2002 FIFAワールドカップ日本/韓国の開催や同大会の日本代表のベスト16入りに貢献。JFA会長に就任した12年以降も女子サッカーの充実や高田宮記念JFA夢フィールドの建設で中心的役割を担うなど、日本サッカーの底上げに力を注いできた。大仁氏は「日本サッカーは強くなり、レベルも上がった」としながらも、「一人一人がさらに高いレベルの選手になっていくことでさらに良くなると思っています」と思いを述べた。

「日本に来て51年、こんなにうれしいことはない。両親の母国で表彰していただき、親孝行ができた」と笑顔をのぞかせたのはセルジオ氏だ。ブラジルのサンパウロで生まれ、72年に来日した同氏は、藤和不動産サッカー部(現、湘南ベルマーレ)で活躍。引退後の78年にスタートした「さわやかサッカー教室」では、25年間で50万人以上の子どもたちを指導した。辛口「の解説者としても知られるが、セルジオ氏はこれを電池に例えて「僕はマイナス極の役割を担っている。皆さんはプラスのことを言っていて、プラスとマイナスで強い電気を発生させましよう」とウィットに富んだコメント

で会場を沸かせた。

81年に連載がスタートした漫画「キャプテン翼」は高橋氏の代表作だ。日本国内はもとより、世界中のサッカー選手に影響を与えるほどの人気作品となり、今もなお続編が連載され、多くのサッカーファンを魅了している。19年には出身地の東京都葛飾区に誕生した「南葛SC」のオーナーとなり、Jリーグ昇格を目指して活動している。作品では主人公の大空翼がFIFAワールドカップ優勝を目指して奮闘を続けているが、高橋氏は「サムライブルー(日本代表)には、ぜひとも現実の世界で翼よりも先にワールドカップ優勝を成し遂げてほしい」とエールを送った。

2011年のなでしこジャパンからは佐々木則夫監督(現、JFA女子委員長)と、選手を代表して山郷のぞみさん、澤穂希さん、丸山桂里奈さん、福元美穂選手、近賀ゆかり選手、海堀あゆみさん、岩清水梓さんが参列した。澤さんは当時のチームを「個人的な選手たちが多く中、みんながチームのために全力で取り組んでいた。私自身もみんなを頼っていましたし、このチームなら絶対に優勝できると思っていた」と振り返り、アメリカとの決勝で決

めた同点ゴールについては「ゾーンに入っていて、宮間(あや)さんからのボールがスローで見えた。あの一球にみんなの気持ちが入っていた」と語った。丸山さんは準々決勝のドイツ戦で決めた決勝ゴールについて聞かれ、「目の前に澤さんからのパスが来て、ゴールを見たらスポットライトのように道筋が見えてそのまま蹴ったら入った」と回想。日本のゴールを守った海堀さんは同じGKの山郷さん、福元さん、GK

コーチだった前田信弘氏との絆に触れ「私に未熟なところがたくさんあったけれど、3人の支えがあつてピッチに立てていた。本当に感謝している。前田さんを含めて4人で戦った大会だった」と述べた。最後に佐々木氏は「みんなサッカーをするのが楽しいという強い思いのあるチームだった。その結束力によって優勝という結果を残してくれた。僕は本当に幸せ者」と、感慨深げな表情で語った。

式典後にはレセプションも行われ、日本代表戦のため国外にいた田嶋幸三JFA会長はオンラインであいさつ。掲額者を祝福し、「スポーツ界全体で日本を元気にし、幸せな国になれるようおこることなく精

進し、今後も日本サッカーの発展に尽くしていきたい」と話した。式典は終始、和やかな雰囲気と祝福ムードに包まれたまま終幕となった。



メディカル ROOM

「脳振盪を知る」

大橋洋輝

(東京慈恵会医科大学脳神経外科 / JFA医学委員会委員)

◎監修: JFA医学委員会

今号より隔月連載「メディカルROOM」を新たにスタート。

日本サッカー協会 (JFA) 医学委員会の監修の下、メディカルに関する情報をお伝えします。



脳振盪は接触プレーで最も起こりやすくなる。疑いのある選手は注意深くその様子を観察することが重要だ

「脳振盪はなぜ起こるのか」

「慎重な」対応を

われわれJFA医学委員会は、2012年3月に「Jリーグにおける脳振盪に対する指針」を作成し、14年11月にはそれを再作成して「サッカーにおける脳振盪に対する指針」を発表しました。この目的は、Jリーグ関係者だけでなく、サッカーに関わる多くの人に「脳振盪」について正しく知ってもらい、そして正しく対処できるようにするためです。

とこの間、脳振盪は重症の場合、生命に危険を及ぼすことがあるからです。トップレベルから草サッカー、子どもたちのサッカー、または日常生活でも、どこで

も起こり得ることですので、ぜひ多くの方に知っていただきたいと思えます。

では、どんなときに脳振盪は起こるのか。頭を強くぶつけたり、頭が大きく揺らぶられたりした際、脳が頭蓋骨の中で揺らられます。そうすると脳にひずみが生じて意識がなくなったり、記憶を失ったりして生じます。同じような状況でさらにひどく揺らされると脳と頭蓋骨をつないでいる血管が傷ついて出血してしまったりがあり、命に関わる場合もあります。この急性硬膜下血腫の状態に至ると救命率は50%という非常に危険な状態に陥ります。

そして、脳振盪で気を付けなければならぬことは、当の本人は正常な判断ができない、記憶すらないかもしれない、という

こと。本人が「大丈夫」「プレーできる」と言っても、明らかに様子がおかしいと思ったり直ちにプレーをやめさせましょう。

脳振盪を起こした全員が意識を失うわけではなく、中には倒れてもすぐに立ち上がって動ける人もいます。しかし、そんなときでも必ず状態をチェックしてください。いつもと様子が違ったり、呼びかけてもぼーっとして反応が鈍かったり、ふらふらしていたりなどしていたら要注意です。JFAのウェブサイトに掲載している「脳振盪を疑ったときのツール (CRIS)」をご確認ください。

サッカー競技においては、選手と選手の間、頭がぶつかる、地面にたたきつけられるなど接触シーンで脳振盪が起こるケースが多くあります。そのほか、転倒したとき、肘が頭やあごに入ったとき、近距離でシュートやクリアボールが頭に当たったとき、シンブルなヘディングでも起こる可能性はあります。

事象があったときには、「オーバーリアージ」、つまり大げさに見て対処することが必要になるでしょう。脳に損傷が起きている「かもしれない」として脳振盪を疑い、適切な対応をすることが求められます。

事象後に症状が出る場合も周りの人のフォローが大切

脳振盪の難しいところは、症状が表れ

るのが必ずしもその瞬間ではないということです。練習や試合が終わってしばらくした後に頭が痛い、気持ちが悪く、倒れる選手もいます。Jリーグでもそのまま試合を続行し、終わった後に症状を訴えて脳振盪だったと判断されるケースもあります。頭を打った選手や脳振盪を起こした可能性のある選手は、必ず一人にしないようにしてください。家に帰るのであれば、保護者や家族に必ず起きたことを伝え、様子を見守るようにフォローしてもらいましょう。

脳振盪を起こした際、中期的には、記憶力や集中力の低下が2週間ほど続くことがあります。一見、本人は正常で、元気にご飯を食べたり笑ったりしているけれど、検査をしてみると何かがおかしい。これは「脳



脳振盪かもしれないと思う選手がいた場合、周りの選手や審判員、コーチらの気づきも大切になる。そのためにも正しい知識を身に付けたい

振盪後症候群」といわれるものです。ですから、復帰までには、十分な休養期間を設けましょう。状態を確認しながら、徐々に復帰させることが重要です。

長期的には、脳振盪を繰り返すと認知症やアルツハイマー病、パーキンソン病になりやすいと言われています。直後の画像検査では脳に出血が見られないもののこの状態を「脳振盪」と言います。ハヤ

はり脳の神経は傷ついていてそれを繰り返してしまつて、長期的にそうなるってしまつ割合が高くなる」という報告があります。脳振盪に一度なったことのある人は、脳振盪に一度もなかったことの人に比べて、次の脳振盪を短期的に起こす確率が約6倍になるというデータもあります。そういったことからサッカー競技よりも激しく接触しやすいアメリカンフット

ボールやラグビーではワンシーズンに3回以上の脳振盪があったらそのシーズンはもうプレーしてはならないという規則も設けられています。

トボールやラグビーではワンシーズンに3回以上の脳振盪があったらそのシーズンはもうプレーしてはならないという規則も設けられています。

す。国際サッカー評議会（FIFA）は2021年に「脳振盪による交代（再出場なし）の追加における試行」を通過しています。JFAもこれに則り、「脳振盪による交

代」が設けられました。これはとても重要なことです。審判員も脳振盪の疑いがあるときには確認と対応に十分な時間を確保するようにしています。

脳振盪の話から少し逸れますが、欧米では10歳以下のヘディングは禁止する方向になっており、JFAとしても独自のガイドライン「未成年年代でのヘディング習得のためのガイドライン（幼児期〜U-15）」を出しています。ヘディングそのものが脳振盪につながるというわけではありませんが、発育期にある子どもたちの場合、まだ体づくりがしっかりとできておらず、ヘディングで脳振盪が起りやすい状況もあります。ガイドラインに沿った練習を心掛けてください。

■脳振盪の見極め

頭部を打った際、ただの打撲か脳振盪かを見極めるには次のような方法があります。こうした症状がある場合は、脳振盪の疑いがあるため、すぐにプレーを中止させます。声を掛けた際、本人の返事だけでプレーを続行するのは危険です。

① 自覚症状を確認する。

周囲の人からの呼びかけに、しっかりと応答できない。
頭痛やめまい、耳鳴りや吐き気などがある。

② 記憶や現状認識を確認する。

今日の日付、場所、何の試合、対戦相手、スコアを明確に回答できない。

③ バランスを確認する。

目を閉じて、両手を腰に当てて20秒間立たせ、目が開く、手が腰から離れる、よろける、倒れるなどが頻繁に起こる。

■脳振盪に関する情報

JFA公式ウェブサイト「メディカル」ページより

<https://www.jfa.jp/medical/concussion.html>



脳振盪を疑ったときのツール (CRT 5[®])
こどもから大人まで 脳振盪を見過さないために

CRT5/5.0版が採用されています

FIFA, Olympic, IFA

脳振盪を疑ったら、速やかにプレーを中止する
頭を打つと、ときに命にかかわるような重篤な負傷を自覚することがあります。このツールは、脳振盪を疑うきっかけになる症状や所見についてご案内するものですが、これだけで脳振盪を正しく診断できるわけではありません。

ステップ1: 警告 - 危険性を呼び戻しましょう
以下の症状がすべて見られる場合には、選手を退場させ、安全な場所（たとえば更衣室）に移動させ、その場に待たせながら、専門医（たとえば脳神経科医）に診察してもらってください。

- ぐちゃぐちゃ／ぼんやりした意識
- 一瞬でも意識を失った
- 立ち上がることができない
- 反動が弱くなってくる
- 手足に力が入らない／しびれる
- 嘔吐する
- 形がわからず、イライラして攻撃的
- 強い頭痛／痛みが治まらない
- 発作やけいれんがある

注意

- 東京の原則（安全確保）原則の増強（医師／看護師の確保）に従う。
- 神経障害の回復を早期に回復させることと同等重要。
- 危険な場所の危険性がない人は、（医師／看護師の指示）選手を動かさない。
- 危険な場所の危険性がない人は、ヘルメットなどの道具を外さない。

ステップ1の症状がなければ、次のステップに進みます。

ステップ2: 外から見てわかる症状
以下の様子が見られたら、脳振盪の可能性がります。

- フィールドや床の上で倒れて動かない
- 最早も立ち上がれない／動きが悪い
- 目を見開いている／意識している／真顔に正しく答えられない
- ボーリングとしてうつろな動きがある
- バランスが保てない／うまく歩けない
- 動きがぼんやり／よろめく／動きが悪い／重い
- 顔にけがをしている

ステップ3: 自分で気づく症状

- 顔が悪い
- 頭がしめつけられている感じ
- ふらつき
- 嘔吐・嘔吐
- 吐き気が強い
- めまいがある
- ぼんやりと見える
- 音に過敏
- 音に過敏
- ひどく眠れる／やる気が出ない

● 「何かおかしい」

- いつもより感情的
- いつもよりイライラする
- 理由なく怒しい
- 心配／不安
- 顔が悪い
- 集中できない
- 覚えられない／思い出せない
- 動きや考えが遅くなった感じがする
- 動いている／動いているように感じる

ステップ4: 記憶の確認（13歳以上の選手が対象です）
以下の質問（項目により修正が可能です）に全て正しく答えられないときは、脳振盪を疑います。

- 今日はこの競技場／会場にいますか？
- 今は試合の前ですか、後半ですか？
- 先週／前週の対戦相手は？
- 前回の試合は勝ちましたか？
- この試合で最後に点を入れたのは誰ですか？

脳振盪が疑われた場合には…

- 少なくとも最初の1〜2時間は、ひとりきりにしてはいけません。
- 処置は禁止です。
- 処置を命じられたら、原則として断るべきではありません。
- ひとりきりにしてはいけません。責任ある大人が付き添います。
- 医師からの許可があるまで、バイクや自動車運転はしてはいけません。

このツールはこのままの形であれば、自由に選手で個人やチーム、団体、組織に配布していただくことができます。ただし、改訂や新たな電子化には発行元の許可が必要です。いかなる内容変更も再複製も禁止です。

脳振盪が疑われた場合には、競技や練習をただちに中止します。たとえすぐに症状が消失したとしても、医師や専門家の適切な評価を受けるまで、プレーに復帰してはいけません。

© Concussion in Sport Group 2017
(日本脳神経学会、日本脳神経科医学会、スポーツ脳神経科医学会)

国際プロサッカー選手会 (FIFPro) による脳振盪に関する注意喚起動画



脳振盪を経験した元チェコ代表GKのペトル・チェフ選手が、選手の将来を守るために大切なことを伝えていきます。ぜひご覧ください。

<https://youtu.be/Fpc1yvz-z2Q>



フットサル 語り場



日本サッカー協会 (JFA) は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及に携わる面々が登場し、リレー形式で情報をお届けする。

藤田安澄 湘南ベルマーレフットサルクラブコーチ

スタッフとも選手とも 積極的にコミュニケーション

スタッフの連携が円滑だと チームも機能する

今年7月、フットサル日本女子代表のコーチとしてトレーニングキャンプに参加し、8月のタイ遠征に同行しました。代表チームの活動に携わるのは昨年8月の国内合宿と同12月のスペイン遠征以来です。

代表活動では、主にボールを使ったウォーミングアップと映像を用いた分析を担当しました。具体的には、試合のときは自チームの攻撃の映像と、次の対戦相手になるチームの守備面の映像を編集して監督に渡し、監督がピックアップした部分を細かくスカウティングしてからチームミーティングで共有していました。

分析用の映像をまとめるときに意識したのはスピードです。クラブでは週末に試合があり、次の一週間で次節に向けた準備をするというサイクルで仕事をしていますが、代表活動では短時間に多くの作業を進めなければなりません。常に時間管理とスピードを意識していました。

クラブと代表チームでマインドを切り替えるのに苦労することはありませんが、セットプレー時のサインを頭に植え付けるのには苦労しました。同じセットプレーでも、代表と湘南とではサインが異なります。代表でのサインを完全にマスターするまでに意外と時間がかかりました。

また、タイで2週間近く代表選手とスタッフと寝食を共にすることで見えたものがあります。湘南のコーチを務めている私は、日本サッカー協会 (JFA) の指導者養成のチューター (旧インストラクター) 枠で代表活動に参加しているわけですが、フィジカルコーチやGKコーチもそれぞれのプロジェクトのチューター枠で参加した人たちで、7月の国内合宿が初対面でした。コミュニケーションを重ね、「相手チームがこうきたら、日本はこういう動きをしよう」と綿密に話し合う中で、日に日にスタッフ間の連携が深まっていきました。こちらが説明しなくても相手が理解してくれるので仕事がしやすかったです。スタッフが滞りなくマネジメントできていればチームも機能するという感覚を得ることができました。



タイ遠征でNSDF Women's Futsal Championship 2023を制したフットサル日本女子代表。後列右から2番目が藤田安澄コーチ

緊張感ある試合を通して 指導力を磨きたい

合宿や海外遠征を通して、選手たちが、代表活動が定期的開催されるようになったことを喜んでるように感じました。こちらから話しかける際も選手らに気を遣うことはありません。悩んでいる様子の選手とは積極的にコミュニケーションを取るようにしました。

代表に選ばれたとしても出場機会を得られない選手もいます。出番のない選手は、監督が志向する戦術をくみ取り、それに合ったプレーをしようと考えがちですが、チームのことや戦術ばかりを気にして自分の長所を消すようなことがあってはなりません。悩みを抱えたまま代表活動を終えるのはもったいないですから、そういう選手とは、いかに自分の長所を保ちながら監督に求められるプレーを実践するかについて話しました。

今回、日本代表のコーチという責任ある仕事を担い、貴重な経験を積ませてもらったことに感謝しています。今後も緊張感ある試合を通して指導力を磨いていきたいですね。

普段からあらゆることを想定してFリーグの試合に臨んでいますが、初めて経験することがまだ多く、こう対処しておけばよかったと思うことがたくさんあります。試合で起こり得ることへの対応力や柔軟性を養い、自信を深めることができれば、監督を目指したいと思います。今は経験を積み、引き出しを増やそうと考えています。

● ステージを上げるために

9月、サムライブルー（日本代表）は欧州で行ったドイツ、トルコとの2試合で日本サッカーが世界の中で十分に戦えることを示してくれました。正直なところ、欧州の強豪と互角に戦うのはまだ難しいのではないかと思っていました。もちろん、いつかは追いつき追い越せると信じていましたが、時間はまだ必要だと考えていました。体格や体力の差、地理的な問題、歴史の浅さなど簡単に克服できない課題ばかりに目が向いていたのかもしれない。それが世界で戦えない理由にはならない、ということは多くの日本人アスリートが証明しています。なのでシジャパン（日本女子代表）もその一例です。

陸上競技の男子100mハードルは、2004年以来、日本記録を更新することができなかった種目です。今年、泉谷駿介選手がその記録を更新すると、彼は一気に世界大会のファイナリストになりました。この種目は、高さ106.7cmのハードルを10台越える競技で、一般的には体の大きい選手が有利だと思われています。泉谷選手は身長が174cm。この種目では小柄な方ですが、それを生かして「海外の体の大きい選手には難しいハードルの素早い脚の刻みを磨いてきた」（読売新聞より引用）そうです。ハードル間の走りは世界一といわれています。弱点と思われる

いたものを自分の強みに変えた彼は、全てのアスリートに勇気を与えてくれています。

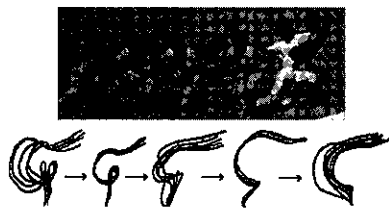
技術よりも体格や体力がバフオーマンズに大きな影響を与えるといわれる陸上競技であっても、全体のバフオーマンズを高める工夫の余地は多くあるようです。400mリレーは今や日本の得意種目の一つです。個々の選手の能力を最大限に引き出すバトン技術やチームワークが日本人の強みになっているのかなと素人ながら考えています。サッカーに求められる体力は、高強度運動の持続性など常に高くなってきており、走るスピードやパワーなども選手の努力によってどんどんレベルが上がってきています。多くの日本人選手にとって、その壁は高く感じてしまいそうですが、サッカーは体力や体格以上に技術と戦術がバフオーマンズに大きな影響を与えます。心技体の全てが選手には求められます。基礎的な能力を満遍なく鍛えることを前提として、自分の強みを見つけて突出させることが必要です。サムライブルーのほとんどの選手がそれを持っています。突然、トッププレイヤーになれることはありません。多くの過程を経てたどり着くもので時間が掛かります。思うようにいかない、練習してもまったく上達しないと感じる時期を乗り越えることができず、競技から離れる者は少なくありません。日々の練習によってさまざまな変化が体に

隔月連載

サッカー心育論

Vol.82

～指導者は何を考えるべきか～



練習開始 27カ月後

図 野球選手の捕球から送球までの動作の習熟過程（松永を改変 1974年）

中山 雅雄（JFA技術委員会普及部会会長／JFA普及ライター／JFAキッズプロジェクトメンバー／筑波大学体育系教授）

起こっています。サッカーを始めて間もない子どもたちが、簡単に諦めてしまふのはとても残念です。選手自身も努力することは一番必要なことですが、指導者が先を見越して適切に導いていかなければなりません。どの年代やレベルであっても、寄り添い、支え、時には引つ張っていく役割が指導者に求められます。

さらに、技術はより目的に習熟していきます。左上図は、野球選手がボールを捕給して送球する動作の軌跡を捉えています。最初は一回一回の動作のばらつきが大きく、捕球動作と送球動作の連動がスムーズではありません。時間がたつと一回一回の動作は安定します。さらに練習を重ねると、捕球動作と送球動作の連動がよりスムーズになる一方、一回一回の動作にバラつきが出ます。その後、動作が安定するとさらに連動がスムーズになり、無駄のない動きになっていきますが、それでも一回一回の連動はバラつきがあります。このように、安定と動揺を繰り返しながら多くの技術は洗練されていくのです。

プレーする場所のレベルが上がる度に、プレーの仕方を変えなければならぬ状況が起こります。高いレベルでプレーする機会に恵まれるということからは、その前の段階で多くのプレイヤーが成功体験をしているということになります。だからこの「これまでのプレーを変えよう」ということには勇気が求められます。変えると動作が不安定になり、安

定させるには時間が必要です。その変更が本場に正しいのかわかりませんが、しかし、これを乗り越えないと新しいステージでの活躍は期待できません。このような厳しい世界で成長し続けられる土台を育成年代で培ってきたいのです。

育成年代では良いプレーをして勝つことを目指すことが大切です。そのためには、拮抗した相手とのゲームを多くする必要があります。何をやってもすぐ相手にボールを奪われたり、全く相手のボールを取れないといったゲームは互いに楽しくありません。また、自分たちよりも力が勝る相手チームの良さをさせないように徹底した準備をし、少ないチャンスを生かして勝つといったジャイアントキリングもサッカーの醍醐味のひとつでしょう。しかし、いつもこれでは個々の選手の成長は期待できません。優先順位の高い位置にいる味方にパスを試み、その結果が成功したり、失敗したりする。それにより、次はもっと成功率を高めようという意欲が湧いてくる。この繰り返しで技術を高め、次のレベルのステージでプレーする機会を得ることになるのです。「もっとうまくやりたい」を引き出すことが大切です。

参考文献

https://www.yomiuri.co.jp/sports/etc/20230822-0Y1T50322/ 読売新聞オンライン
松永尚久（1974）内野手の投球動作の習熟過程の科学、24（7）：448-452。

JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイドライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングに関わるリスクを避けるため、「禁止」するのではなく、「正しく恐れ」ることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも常井アップデートしていく。



https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf

スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲーム ガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

- 1.はじめに
- 2.ガイドラインの基本的な考え方
- 3.各年代での心身の特性とゲーム
- 4.ピッチマネージャーの配置・役割
- 5.8人制との比較
- 6.スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
- 7.指導者の関わりの重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



JFA公式アプリ「JFA Passport」で 審判登録者向けのコンテンツを定期配信中

「JFA Passport」では、審判登録者専用ページ(審判員または審判インストラクター資格保有者のみアクセス可能)において、サッカー/フットサルの審判に関する動画や資料、JFAからのお知らせ、クイズなどを展開している。

JFA Passport



「サッカー競技規則2023/24 Web版」を JFA.jpで公開

「サッカー競技規則2023/24 Web版」は誰でも閲覧可。競技規則の条文内に約140の映像クリップを付加し、映像とともに条文を理解できるようにしている。

https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/



JFA小学校体育サポート研修会「サッカー(ボール運動・ゴール型)の授業づくり」

2023年度実施校を募集中！ JFAが講師を無料派遣、ボール・テキスト贈呈も

JFAでは小学校や小学校教員を対象とした研修会・研究会に「小学校体育サポート研修会」の講師を派遣している。2023年度からはスポーツ庁の後援も決定。実施校にはJFAから講師が派遣されるほか、ソフトスパンジボール4号10球とテキスト「新・サッカー指導の教科書」2冊も贈呈される。詳細および申し込み方法は下記より。

・主催 : 公益財団法人日本サッカー協会

・後援 : スポーツ庁

・対象期間 : 2024年3月31日(日)まで

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/dispatch_instructor.html



●小学校体育 全学年対応『新・サッカー指導の教科書』

小学校の体育授業で行う「ボールけりゲーム」「ミニサッカー」「サッカー」指導をイラスト・図解を交え4段階で分かりやすく解説。この1冊で全学年のサッカー授業に対応することができる。サッカー経験がない先生にもオススメの1冊。

https://www.jfa.jp/coach/physical_training_club_activity/textbook.html



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したもの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック(PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>



2023年ドーハ国際園芸博覧会「JFAグリーンプロジェクト」を紹介するポスターなどを展示

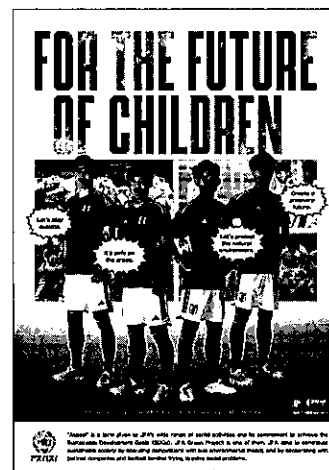
JFAは、10月からカタールのドーハで開催されている「2023年ドーハ国際園芸博覧会」の会場で「JFAグリーンプロジェクト」を紹介するポスターなどを展示している。

今回の展示は、2023年ドーハ国際園芸博覧会 日本屋外出展実行委員会に協力し、「次世代を担う子どもたちがスポーツ等を通じて成長できるよう、緑豊かな屋外環境を創造し、継承する」ことを目的に実施。ポスターの制作にあたっては、吉田麻也選手(ロサンゼルス・ギャラクシー)、谷口彰悟選手(アルラヤンSC)、遠藤航選手(リバプールFC)、伊東純也選手(スタッド・ランス)、三笥薫選手(ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC)、堂安律選手(SCフライブルク)、久保建英選手(レアル・ソシエダ)の協力を得て制作した(所属は9月19日時点)。ビジュアルのコンセプトは日本が世界に誇る「漫画」で、それぞれの選手が吹き出しで芝生の効能などを伝えている。JFAの展示ブースではこのポスターのほか、日本代表のユニフォームや折り鶴、JFAグリーンプロジェクトの資料を掲出している。博覧会の開催は2024年3月28日まで。

【2023年ドーハ国際園芸博覧会 概要】

2023年ドーハ国際園芸博覧会は、砂漠化を抑制し、持続可能な環境を確立するための革新的なソリューションについて、参加者との来場者に奨励し、刺激を与え、情報を提供することを目的とする。中東・北アフリカ地域初の国際園芸家協会によるAIクラス承認の国際園芸博覧会。

- ・名称 : The International Horticultural Exhibition EXPO 2023 Doha Qatar
2023年ドーハ国際園芸博覧会
- ・テーマ : Green Desert, Better Environment (緑の砂漠、よりよい環境)
- ・開催地 : カタール国ドーハ アルビッダパーク
- ・開催期間 : 2023年10月2日(月) ~ 2024年3月28日(木)



AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournament 組み合わせとマッチスケジュールが決定

AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournamentの組み合わせが下記の通り決定した(9月8日発表)。日本からは三菱重工浦和レッズレディースが出場する。決勝は両グループ1位同士で2024年に実施予定。同大会は、AFC女子チャンピオンズリーグ2024-25のプレ大会となる。

【グループステージ組み合わせ】

【グループA】 A1:三菱重工浦和レッズレディース(日本)、A2:花蓮女子FC(チャイニーズ・タイペイ)、A3:バンコクFC(タイ)、A4:スリー・ゴクラム・ケララFC(インド)

【グループB】 B1:シドニーFC(オーストラリア)、B2:仁川現代製鉄レッドエンジェルズ(韓国)、B3:FCナサフ(ウズベキスタン)、B4:バム・カトゥーン(イラン)

●三菱重工浦和レッズレディース

グループステージマッチスケジュール

※時間は日本時間

11月6日(月) 18:30 対 スリー・ゴクラム・ケララFC

11月9日(木) 22:30 対 バンコクFC

11月12日(日) 18:30 対 花蓮女子FC

会場: Chonburi UTA Stadium(タイ/チョンブリ)

U-22日本代表

10月の海外遠征でU-22メキシコ代表、U-22アメリカ代表、11月18日にはU-22アルゼンチン代表と対戦

U-22日本代表は、10月のアメリカ遠征でU-22メキシコ代表、U-22アメリカ代表と国際親善試合を戦うことが決定した(9月28日発表)。また、11月18日(土)には静岡県伊豆市にあるIAIスタジアム日本平で開催される国際親善試合において、U-22アルゼンチン代表と対戦する。アルゼンチン戦はテレビ

朝日系列で全国生中継するほか、ABEMAでも生配信する(9月7日発表)。

【国際親善試合 概要】

日時: 2023年10月14日(土) 15:00/日本時間15日(日) 7:00キックオフ予定

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていきつかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトランドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会



会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2023年度第9回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2023年9月21日、2023年度第9回理事会をJFAハウスおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 JFAフットボールエージェント規則 制定…………… P45
- 2 リスペクト・フェアプレー委員会 委員交代…………… P45
- 3 特別表彰…………… P46

JFAフットボールエージェント規則 制定

「JFAフットボールエージェント規則」を制定する。また、関連規則として「フットボールエージェントの国内的紛争事案の解決に関する規則」を新設し（2023年10月1日付施行）、現行の「仲介人に関する規則」を2023年9月30日付で廃止する。これに伴い、既存規則の一部を改正する。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照

(1)新設

- JFAフットボールエージェント規則
- フットボールエージェントの国内的紛争事案の解決に関する規則
施行日：2023年10月1日

(2)廃止

- 仲介人に関する規則
廃止日：2023年9月30日

(3)改正

主に新制度導入および仲介人制度の廃止に伴う文言修正

- 基本規則
- 司法機関組織運営規則
- 懲罰規程
- サッカー選手の登録と移籍等に関する規則
- フットサル選手の登録と移籍等に関する規則
改正日：2023年10月1日

【制定の経緯】

本年2月理事会で報告した通り、2022年12月16日付のFIFAカウンシルにおける「FIFAフットボールエージェント規則」（以下、FIFA規則）の承認を受け、本年10月1日以降に新たなフットボールエージェント制度が世界的に導入される。これにより、選手等の契約や移籍等の取引に関与する活動（エージェント活動）を行う者にはFIFAが発行するライセンス（原則として、FIFAが主催する試験に合格した者に付与される）の取得が義務付けられる。同時に、現行の仲介人制度は2023年9月30日付で廃止される。

FIFA規則に基づき、各国協会は国内取引に適用される「国内規則」を制定する義務を負うため、これに対応し、国内規則としてJFAフットボールエージェント規則を制定するもの。

【国内規則の概要】

FIFA規則に基づき、JFAを含む各国協会は、国際ルール（FIFAフットボールエージェ

ント規則）と同内容の国内規則を制定する義務を負う（FIFA規則より厳しくすることは可能）。新たに制定するJFAフットボールエージェント規則の主なポイントは下記の通り。

(1) FIFAによるライセンス制度

日本国内においても、FIFAのライセンスを有する者のみがエージェント活動を行うことができる（ライセンスはFIFAが実施する試験に合格した者に付与される）。

(2) 複数代理の禁止

フットボールエージェントは一つの取引において、一方の当事者のためのみに活動できる。ただし、当事者間の事前の合意があれば、選手またはコーチ（監督等）（以下、併せて選手等）および獲得クラブの双方のために活動することが許容される。

(3) 支払いの透明化

選手等やクラブからエージェントに支払われる手数料の支払いを透明化するための手続きを定める。将来的には、フットボールエージェントへの支払いはFIFAが決定するシステム（クリアリングハウス）を通じて行われることになる。

(4) 手数料の上限の設定

エージェント手数料の上限を設定する（選手等の報酬額に応じて、手数料は選手等報酬額の3～5%を上限とする等）。

(5) 紛争解決機関の設定

エージェントが関係する国内的紛争の解決機関を裁定委員会と定める。これに伴い、新たに裁定委員会での紛争解決に関する手続規則として、「フットボールエージェントの国内的紛争事案の解決に関する規則」を制定する。

(6) 懲罰機関の設定

国内的懲罰事案にかかる懲罰の決定機関は規律委員会とする。

(7) 規則の対象範囲の拡大

これまで規則の対象外であった、コーチ（監督等）のためのエージェント活動も規則の対象とする。

(8) 未成年選手の保護

未成年選手への接触や未成年選手に係る手数料について、未成年選手を保護するためのルールを設定する。

(9) 手数料支払い方法の厳格化

手数料の支払いは選手等による報酬の受け取り後とするなど、支払い方法を厳格化する。

(10) クライアントによる支払いの原則

手数料は依頼主のみが支払うこととし、クラブが選手の代わりに手数料を支払うことを禁止する。

リスペクト・フェアプレー委員会 委員交代

日本スポーツ協会の組織改変に伴う担当者変更のため、右記の通り、リスペクト・フェアプレー委員を交代する。

【変更前】浅井慎也（公財）日本スポーツ協会 ブランド戦略部長兼マーケティング戦略課課長

【変更後】加藤弘和（公財）日本スポーツ協会 インテグリティ推進部部长

特別表彰

FIFAワールドカップカタール2022に出場したSAMURAI BLUE(日本代表)に選出された4選手が所属していたさぎぬまサッカークラブ(神奈川県川崎市)を特別表彰する。※本件は、表彰委員会での審議を経て推薦するもの。

【表彰対象】

クラブ名：さぎぬまサッカークラブ(代表者：澤田秀治)

【表彰理由】

さぎぬまサッカークラブは、FIFAワールドカップカタール2022に日本代表として出場し活躍した榎田修一(清水エスパルス)、板倉滉(ボルシアMG/ドイツ)、三笥薫(ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC/イングランド)、田中碧(ヴォルフスブルグ/ドイツ)の4選手が小学生時代に在籍していたクラブである。榎田選手を除く3選手は小学校卒業までに他クラブへ移籍し、その後、4選手とも国内外の有力クラブで活躍している。

同クラブは、JFAが推奨する、移籍の自由をはじめとする「プレーヤーズファースト」の

方針を掲げ、長年にわたってそれを実践している。そのような方針の下で選手を育成し、左記4選手の日本代表として成長する道筋をつけた。また、同ワールドカップにおける4選手の活躍が地域の活性化にもつながった。これは、JFAが推し進める、タウンクラブの姿が体现された顕著な例として大いに評価でき、特別表彰に値する。

【関連規則】

●表彰規則

第3条 本協会が行う表彰の対象者は、次の通りとする。

(4)加盟チーム及びその役員

第4条 本協会は、前条の対象者が次の各号のいずれかに該当する場合に表彰を行う。

(2)選手の指導、育成に顕著な貢献したとき

(4)その他前各号に準ずる行為があったとき

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。

追認事項

1 JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣(新規)…………… P46

JFAアジア貢献事業 指導者海外派遣(新規)

(1)北マリアナ諸島サッカー協会よりU-17・U-20代表チーム監督派遣の依頼を受け、JFAアジア貢献事業の一環として、新たに下記の指導者を派遣した。

名前 : 鈴木木乃実(すずき このみ)
資格 : JFA A級コーチライセンス(ジェネラル)
派遣先協会: 北マリアナ諸島サッカー協会(NMIFA)
役職 : U-17・U-20代表チーム監督
契約期間 : 2023年8月10日~2024年1月31日

(2)ラオスサッカー連盟より女子代表監督派遣の依頼を受け、JFAアジア貢献事業の一環として、新たに下記の指導者を派遣した。

名前 : 豊田奈夕葉(とよだ なゆは)
資格 : JFA A級コーチライセンス(ジェネラル)
派遣先協会: ラオスサッカー連盟(LFF)
役職 : 女子代表監督
契約期間 : 2023年9月19日~2024年1月31日

報告事項

1 第2回AFC理事会(8月14日開催)…………… P46
2 第71回EAFF理事会(8月20日開催)…………… P47
3 第19回アジア競技大会(2022/杭州)日本女子代表コーチングスタッフ…………… P47
4 天皇杯JFA第103回全日本サッカー選手権大会ラウンド16(4回戦)における浦和レッズサポーターによる複数の違反行為…………… P47
5 JFAシニアサッカーアンバサダー再任…………… P47
6 第14回フットボールカンファレンス2025 開催地決定…………… P47
7 JFA・Jリーグ特別指定選手制度…………… P48
8 Fリーグ特別指定選手制度…………… P49
9 指導者ライセンス認定 S級コーチライセンス…………… P49

10 指導者ライセンス認定…………… P50
11 審判員・審判指導者の海外派遣…………… P51
12 2023年度フットサル1級審判員特別認定審査…………… P52
13 天皇杯実施委員会委員の変更…………… P52
14 JFAサッカー施設整備助成事業2023…………… P52
15 2023年度 功労賞…………… P52
16 審判員表彰…………… P52
17 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新)…………… P53
18 規律委員会に関する懲罰…………… P53
19 裁定委員会に関する懲罰…………… P56

第2回AFC理事会(8月14日開催)

第2回AFC理事会が8月14日にオンラインで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

(1)2024-2025シーズン以降、AFCクラブ競技会について、下記の通り決定した。

- ①アジアのトップレベルの24クラブが参加する大会を「AFCチャンピオンズリーグ エリート(ACLE)」とする。
- ②第2階層の32クラブが参加する大会を「AFCチャンピオンズリーグ2(ACL2)」とする。
- ③第3階層の20クラブが参加する大会を「AFCチャレンジャーリーグ(ACGL)」とする。

④2024-2025シーズンのACLE優勝チームに、賞金1,200万ドルを授与することを決定(2023-2024シーズン賞金400万ドルの3倍)。

⑤2024-2025シーズンのACLE準優勝チームに、賞金600万ドルを授与することを決定(2023-2024シーズン賞金200万ドルの3倍)。

(2)2024-2025シーズンから、AFC女子チャンピオンズリーグを新設することを決定した。

(3)AFC医学委員会、AFC審判委員会、AFC財務委員会およびAFC法務委員会の決定事項を批准した。

第71回EAFF理事会 (8月20日開催)

第71回EAFF理事会が8月20日にオーストラリア・シドニーとオンラインで開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1) 第70回EAFF理事会(2023年6月2日オンライン開催)の議事録を承認した。
- (2) EAFF組織委員会委員長が、EAFF競技会の準備状況に関する視察について報告した。
- (3) EAFFアンダーカテゴリー大会のブランディングを承認した。

- (4) 第5回EAFF臨時総会(2023年10月31日開催予定)のアジェンダを承認した。
- (5) チャイニーズ・タイヘイサッカー協会からのEAFF常任委員会委員交代を承認した。
- (6) EAFF名誉会員選定に関し、明確な選定要件と選定手順の必要性について確認し、次回会議にてEAFF事務局がガイドラインを提案することで合意した。
- (7) グラムサッカー協会が、2023年5月に発生した台風2号(マール)で被災した現地の復旧状況について報告した。

第19回アジア競技大会(2022/杭州)日本女子代表コーチングスタッフ

第19回アジア競技大会(2022/杭州)の女子サッカーがなでしこジャパン(日本女子代表)の活動時期と重複するため、日本女子代表チームは以下のコーチングスタッフ体制で大会に臨むこととする。

第19回アジア競技大会(2022/杭州)日本女子代表コーチングスタッフの選任

監督 : 狩野倫久(JFAナショナルコーチングスタッフ)

コーチ : 岡本三代(JFAナショナルコーチングスタッフ)

GKコーチ : 小林忍(JFAナショナルコーチングスタッフ)

※女子委員会にて承認済み

大会名: 第19回アジア競技大会(2022/杭州)

大会期間(サッカー女子): 9月19日(火)~10月6日(金)

※なでしこジャパン活動期間: 9月18日(月)~9月26日(火)

天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会ラウンド16(4回戦)における浦和レッズサポーターによる複数の違反行為

天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会ラウンド16(4回戦)において発生した、浦和レッズサポーターによる複数の違反行為について、本協会の定めるルールにのっとり、新たに4人のサポーターに対して下記の決定を下した。

該当試合 : 天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会ラウンド16(4回戦)

開催日時、場所 : 2023年8月2日(水) 19:00、CSアセット港サッカー場

対戦カード : 名古屋グランパス vs 浦和レッズ

対象者 : 4名

違反行為 : フィールドへの飛び降り、暴力行為、危険行為、威嚇行為

決定内容 : 無期限の入場禁止(JFA主催試合に加えJリーグ、各種連盟大会も含む日本国内で行われる全ての試合を対象とする)

JFAシニアサッカーアンバサダー再任

2021年9月理事会にてJFAシニアサッカーアンバサダーを設置し、金田喜稔・現理事を選任したが、本年9月末で2年間の任期が終了となる。金田理事は下記の通り、シニアサッカーアンバサダーとして国内のシニアサッカー普及に大きく貢献された。よって、金田理事を本年10月1日より翌シーズン終了の2025年1月まで再任する。

【実績】

金田理事はJFAシニアサッカーアンバサダーの役割である「JFAが主催するシニア

サッカー普及施策への参加」「シニアサッカー全般に関するアドバイス」に関し、新規事業の「JFAシニアサッカークリニック」に参画し、自らも指導するなど積極的に関わった。また、シニアの各カテゴリーの全国大会やフェスティバルなどにも数多く参加し、表彰式のプレゼンターを務めただけでなく、参加者や関係者との積極的なコミュニケーションによりシニアサッカーの現状把握に努め、適宜アドバイスなどを行った。さらに、広報活動として「JFAnews」やJFATV、大会公式プログラムなどに数多く出演し、シニアサッカーの普及に努めた。

第14回フットボールカンファレンス2025 開催地決定

2025年に開催する第14回フットボールカンファレンスの開催地について技術委員会が協議した結果、熊本県(熊本城ホール)に決定した。

開催期間 : 2025年1月18日(土)~19日(日)

開催方式 : 集合研修およびオンライン研修

開催地協会 : 熊本県サッカー協会

メイン会場 : 熊本城ホール(熊本県熊本市)大ホール 2,300名収容

立候補協会 : 北海道サッカー協会、富山県サッカー協会、滋賀県サッカー協会、長崎県サッカー協会、熊本県サッカー協会

選定理由 : 集合研修・オンライン研修のハイブリッド開催とした際に、集合する指導者へのメリットを最大限に考えた開催地・会場であること

- (1) 開催地までの集散がしやすいか
- (2) カンファレンス運営にあたっての会場の不足がないか(広さや導線、控室含む)
- (3) 会場での参加者同士のコミュニケーションが取りやすいか(懇親会含む)
- (4) 参加者の宿泊食事について選択肢が多数あるか
- (5) 海外ゲストへのホスピタリティーに対応できる会場か(滞在ホテル、観光など含む)

(6) 開催FAの体制に不足がないか

(7) 開催FAの自治体やコンベンションビューローなどとの連携が十分か

(8) 上記(1)~(5)に伴う開催FAへのメリットは十分か

【参考】開催にあたり必要な要件

<最低必要要件>

- (1) 国際会議場(大ホール約1,000席程度、控室)の確保 ※運営上のオペレーター席含む
- (2) ハイブリッド開催(集合とオンライン)が可能な施設であること
A: 集合研修のオペレーターとは別に配信スペースの確保ができること
B: 会場内にインターネット配信環境が確保できること
- (3) 運営スタッフの確保と人件費(交通費・謝金など)の負担(開催期間中約50名)

<その他検討事項>

- 自治体などからの助成金制度
- 宿泊ホテルの確保(海外ゲスト/関係者)
- 懇親会会場の確保(約1,000名立食)
- アクセスの良さ(会場⇄ホテル⇄主要駅・空港)
- 国際会議場の付帯設備状況

JFA・Jリーグ特別指定選手制度

(1)選手 : 国武勇斗(くにたけ ゆうと)

所属チーム : 興国高校
受け入れ先 : 奈良クラブ
所属歴 : 羽曳野市サッカースクール
ガンバ大阪堺ジュニアユース
興国高校
認定日 : 2023年7月4日

(2)選手 : 浅倉廉(あさくら れん)

所属チーム : 拓殖大学麗澤会体育局サッカー部
受け入れ先 : 藤枝MYFC
所属歴 : 町田相原FC
川崎フロンターレU-12
川崎フロンターレU-15
静岡学園高校サッカー部
拓殖大学麗澤会体育局サッカー部
認定日 : 2023年8月1日

(3)選手 : 松本ケンチザンガ(まつもと けんちざんが)

所属チーム : 駒澤大学体育会サッカー部
受け入れ先 : ブラウブリッツ秋田
所属歴 : 桜井サッカー少年団
桜井サッカースポーツ少年団
越谷フットボールクラブジュニアユース
埼玉県立浦和東高校サッカー部
駒澤大学体育会サッカー部
駒澤大学GIOCO世田谷
駒澤大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月1日

(4)選手 : 玉城大志(たましろ たいし)

所属チーム : 仙台大学
受け入れ先 : ザスパクサツ群馬
所属歴 : 岸町サッカー少年団
浦和レッドダイヤモンズジュニア
浦和レッドダイヤモンズユース
仙台大学サッカー部
認定日 : 2023年8月1日

(5)選手 : 村上千歩(むらかみ ゆきと)

所属チーム : 専修大学体育会サッカー部
受け入れ先 : ヴァンフォーレ甲府
所属歴 : FC ESPACIO熊本
FC. CONQUESTA
名古屋グランパスU-18
専修大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月1日

(6)選手 : 食野壮磨(めしの そうま)

所属チーム : 京都産業大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 東京ヴェルディ
所属歴 : ジョイナスフットボールクラブ
ガンバ大阪ジュニアユース
ガンバ大阪ユース
京都産業大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月8日

(7)選手 : 碓明日麻(いかり あすま)

所属チーム : 大津高校
受け入れ先 : 水戸ホーリーホック
所属歴 : 姫戸FCjr
FCK MARRY GOLD AMAKUSA U-15
大津高校
認定日 : 2023年8月8日

(8)選手 : 森璃太(もり りいた)

所属チーム : 早稲田大学ア式蹴球部
受け入れ先 : アルビレックス新潟
所属歴 : 大島シェルズサッカークラブ
川崎フロンターレU-12
川崎フロンターレU-15
川崎フロンターレU-18
早稲田大学ア式蹴球部
早稲田大学ア式蹴球部FC
早稲田大学ア式蹴球部
認定日 : 2023年8月8日

(9)選手 : 碓井聖生(うすい しょうせい)

所属チーム : 中京大学体育会サッカー部
受け入れ先 : カターレ富山
所属歴 : アルチ富山フットボールクラブ
FCひがしジュニアユース
富山第一高校
中京大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月15日

(10)選手 : 藤井一志(ふじい かずし)

所属チーム : 東海大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 大宮アルディージャ
所属歴 : 西宮少年サッカークラブ
ヴィッセル神戸伊丹U-15
東海大学付属高輪台高校
東海大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月15日

(11)選手 : 福井和樹(ふくい かずき)

所属チーム : 京都産業大学体育会サッカー部
受け入れ先 : SC相模原
所属歴 : 龍野ジュニアサッカークラブ
サルパフットボールクラブ
ガンバ大阪ユース
京都産業大学体育会サッカー部
認定日 : 2023年8月22日

(12)選手 : 橋本文(はしもと じょう)

所属チーム : 関東学院大学体育部連合会サッカー部
受け入れ先 : 横浜FC
所属歴 : NPO法人 FCパーシモン
コンフィアール町田ジュニアユース
興国高校
関東学院大学体育部連合会サッカー部
認定日 : 2023年8月22日

(13)選手 : 小倉陽太(おぐら ひなた)

所属チーム : 早稲田大学ア式蹴球部
受け入れ先 : 横浜FC
所属歴 : 茅ヶ崎小和田F.C
横浜FCジュニアユース
横浜FCユース
早稲田大学ア式蹴球部
認定日 : 2023年8月22日

(14)選手 : 古山兼悟(ふるやま けんご)

所属チーム : 大阪体育大学学友会サッカー部
受け入れ先 : セレッソ大阪
所属歴 : 大阪市サッカースクール2001白鷺ジュニア
IRIS生野SS
立正大学淞南高校
大阪体育大学学友会サッカー部
認定日 : 2023年8月29日

(15)選手 : 久保征一郎(くぼ せいいちろう)
 所属チーム: 法政大学
 受け入れ先: 水戸ホーリーホック
 所属歴: 太陽スポーツクラブU-12
 太陽スポーツクラブU-15
 FC東京U-18
 法政大学体育会サッカー部
 認定日: 2023年8月29日

所属歴: 津田フットボールクラブ
 JFAアカデミー福島U-15
 JFAアカデミー福島U-18
 東洋大学体育会サッカー部
 認定日: 2023年8月29日

(16)選手 : 川上康平(かわかみ こうへい)
 所属チーム: 東洋大学体育会サッカー部
 受け入れ先: ファジアーノ岡山

※特別指定選手解除申請受理
 (1)選手 : 碓明日麻(いかり あすま)
 所属元: 大津高校
 受け入れ先: 水戸ホーリーホック
 認定日: 2023年8月8日
 解除日: 2023年8月29日

Fリーグ特別指定選手制度

<Fリーグ特別指定選手制度 認定選手一覧(2023年7月11日~8月22日認定まで)>

選手登録番号	選手名	フリガナ	年齢	受け入れ先	所属元	認定日
F000092148	佐藤陸歩	サトウ リク	20	ボルセイド浜田	ボルセイド浜田サテライト	7月11日
F000111293	藤井陽平	フジイ ヨウヘイ	21	ヴィンセドール白山	ヴィンセドール白山アスピランテ	7月18日
F000060334	小竹銀蔵	コタケ ギンゾウ	18	ヴィンセドール白山	ヴィンセドール白山アスピランテ	7月18日
F000074285	須藤蓮	スドウ レン	22	湘南ベルマーレ	湘南ベルマーレフットサルクラブブロンディーナ	8月22日

指導者ライセンス認定 S級コーチライセンス

S級コーチ養成講習会で国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記5名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを認定した。

[2020年度]

(1)名前 : 朴康造(パク カンジョ)
 指導チーム: 無所属
 生年月日: 1980年1月24日
 資格: 2016年 AFC A級ライセンス取得
 指導歴: 2008年1月~2013年1月 バクカンジョサッカースクール
 2013年6月~2016年12月 ヴィッセル神戸 スクールコーチ
 2017年1月~2022年3月 ヴィッセル神戸UMDS U-15 監督
 2022年4月~2022年6月 アイナック神戸 テクニカルアドバイザー
 2022年7月~2023年6月 アイナック神戸 監督

(2)名前 : 大谷武文(おおたに たけふみ)
 指導チーム: 徳島ヴォルティス
 生年月日: 1978年9月8日
 資格: 2018年 A級コーチジェネラルライセンス取得
 指導歴: 2005年 セレッソ大阪サッカースクール コーチ
 2008年 セレッソ大阪U-12 コーチ
 2010年 セレッソ大阪U-18 コーチ
 2012年 セレッソ大阪エリートクラスコーチ
 2013年 セレッソ大阪U-12 監督
 2016年 高知ユナイテッドSC ヘッドコーチ
 2017~2019年 高知ユナイテッドSC 監督
 2020年 セレッソ大阪U-23 コーチ
 2021年~ 徳島ヴォルティス アカデミーダイレクター

※2020年度 S級コーチ認定者数: 13名/16名中(上記2名含む)

[2021年度]

(3)名前 : 中村元彦(なかむら もとひこ)
 指導チーム: 一般社団法人神奈川県サッカー協会FA コーチ
 生年月日: 1971年10月30日
 資格: 2007年 A級コーチジェネラルライセンス取得
 指導歴: 1997~2008年 神奈川県立秦野高校 監督
 2002~2005年 神奈川県教員サッカークラブ 監督
 2008~2018年 神奈川県立厚木北高校 監督
 2019~2020年 神奈川県立新羽高校 コーチ

2013年~ 一般社団法人神奈川県サッカー協会 ユースダイレクター

2020年~ 一般社団法人神奈川県サッカー協会FA コーチ・シニアチューター

(4)名前 : 羽地登志晃(はじ としあき)
 指導チーム: FC徳島
 生年月日: 1978年8月28日
 資格: 2014年 A級コーチジェネラルライセンス取得
 指導歴: 2011年 徳島ヴォルティス 普及コーチ
 2011年 徳島ヴォルティスU-14 監督
 2013~2014年 徳島ヴォルティスU-15 監督
 2015~2018年8月 徳島ヴォルティスユース 監督
 2018年8月~2019年 徳島県サッカー協会テクニカルアドバイザー
 2020年~ 徳島県FA コーチ

※2021年度S級コーチ認定者数: 13名/16名中(上記2名含む)

[2022年度]

(5)名前 : 菅原大介(すがわら だいすけ)
 指導チーム: U-18日本代表/JFAセットプレーコーチ
 生年月日: 1978年5月4日
 資格: 2010年 A級コーチジェネラルライセンス取得
 指導歴: 2001~2003年 筑波大学蹴球部 コーチ
 2003~2005年 日本女子代表、U-19女子代表 テクニカルスタッフ
 2005~2006年 U-18日本代表 テクニカルスタッフ
 2006~2007年 U-19、U-21日本代表 テクニカルスタッフ、U-14日本選抜 コーチ、ナショナルトレセンコーチ中国担当
 2007~2008年 U-20、U-22日本代表 テクニカルスタッフ、ナショナルトレセンコーチ中国担当
 2008~2009年 U-23日本代表 テクニカルスタッフ
 2009~2009年8月 U-18日本代表 テクニカルスタッフ、ナショナルトレセンコーチ四国担当
 2009年8月~2010年 ジェフユナイテッド市原・千葉 コーチ
 2010~2011年 ジェフユナイテッド市原・千葉 アシスタントコーチ
 2011~2014年 大分トリニータ ヘッドコーチ
 2015~2016年7月 ジェフユナイテッド市原・千葉 コーチ

次ページを上へ続く

2016年7月～12月	ジェフユナイテッド市原・千葉 ヘッド コーチ
2017～2019年	ジェフユナイテッド市原・千葉 コーチ
2020～2021年	栃木SC ヘッドコーチ
2022年～	日本サッカー協会
2022年～	セットプレーコーチ (JFAテクニカルハ ウス)
2023年～	U-18日本代表 コーチ

※2022年度 S級コーチ認定者数：13名/19名中 (上記1名含む)

Associate-Pro (A-Pro) コーチ養成講習会修了後、コンバージョンコースを合格した下記5名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを認定した。

【2023年度】

- (1) 名前 : 小倉咲子 (おぐら さきこ)
 指導チーム : INAC神戸レオネッサ
 生年月日 : 1982年1月9日
 資格 : 2022年 A-proライセンス取得
 指導歴 : 2012～2014年 福島県国体成年女子 コーチ
 2014年 今治しまなみスポーツクラブ コーチ
 2014～2016年 エステレーラ相馬 監督
 2017～2020年 アンジュヴィオレBINGO監督
 2021年 JFAアカデミー福島女子 サポートコーチ
 2021～2022年 グラム女子代表監督兼任女子サッカー総括
 2022～2023年 ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
 主務兼コーチ
 2023年～現在 INAC神戸レオネッサ コーチ

- (2) 名前 : 田代久美子 (たしろ くみこ)
 指導チーム : 三菱重工浦和レッズレディース
 生年月日 : 1980年11月13日
 資格 : 2022年 A-proライセンス取得
 指導歴 : 2009～2010年 栃木SCレディース コーチ
 2011～2013年 栃木SCレディース 監督
 2013～2019年 日本サッカー協会ナショナルトレセン コーチ
 2014～2021年 山梨学院大学サッカー部女子 監督
 2017年 ユニバーシアードサッカー女子日本代表
 コーチ
 2019年 ユニバーシアードサッカー女子日本代表
 コーチ
 2022年2月～5月 AC長野パルセイロ・レディース コーチ
 2022年6月～2023年6月 AC長野パルセイロ・レディース
 監督
 2023年7月～現在 三菱重工浦和レッズレディース コーチ

- (3) 名前 : 藤巻藍子 (ふじまき あいこ)
 指導チーム : ノジマステラ神奈川相模原
 生年月日 : 1981年3月4日
 資格 : 2022年 A-proライセンス取得
 指導歴 : 2003年4月～2011年3月 アルビレックス新潟 普及スкуль
 ルコーチ
 2011年4月～2015年3月 アスルクラロ沼津ガールズチーム
 監督
 2015年4月～2016年12月 大和シルフィード トップチーム
 コーチ
 2017年1月～2021年12月 大和シルフィード トップチーム
 監督
 2022年1月～現在 ノジマステラ神奈川相模原アヴェ
 ニーレ 監督

- (4) 名前 : 三上尚子 (みかみ しょうこ)
 指導チーム : ジェフユナイテッド市原・千葉レディース
 生年月日 : 1981年1月8日
 資格 : 2022年 A-proライセンス取得
 指導歴 : 2010年2月～2011年1月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディースU15 コーチ
 2011年2月～2014年1月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディースU15 監督
 2014年2月～2018年1月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディース 監督
 2018年2月～2019年1月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディース アカデミーチーフ
 2019年2月～2021年1月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディースU18 監督
 2021年2月～2022年12月 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディース GM
 2023年1月～現在 ジェフユナイテッド市原・千葉レ
 ディース 監督

- (5) 名前 : 柳井里奈 (やないりな)
 指導チーム : 大宮アルディージャ VENTUS
 生年月日 : 1989年4月20日
 資格 : 2022年 A-proライセンス取得
 指導歴 : 2014年 ジェフ千葉レディースアカデミー コーチ
 2016～2018年 INAC神戸レオネッサアカデミー コーチ
 2019年 マイナビベガルタ仙台レディース アカデ
 ミーコーチ
 2020年 INAC神戸レオネッサ コーチ
 2021～2022年 流通経済大学女子サッカー部 監督
 2023年～現在 大宮アルディージャ VENTUS 監督

※現S級コーチライセンス保持者数：539名 (上記10名含む)

指導者ライセンス認定

次の指導者養成講習会を修了し技術委員会が適格と認められた者に対し、ライセンスを認定した。

【2022/2023年度 A級U-15コーチ養成講習会 (17名)】

※2023年8月31日現在

- 石岡秀介 (北海道)
- 阿部史憲 (岩手)
- 橋本勇人 (宮城)
- 宮坂拓弥 (東京)
- 山本圭悟 (神奈川)
- 本田祐樹 (富山)
- 清野雄大 (静岡)
- 加藤翔太 (三重)
- 奥村拓也 (三重)
- 大森雄一郎 (奈良)

- 阿部大悟 (徳島)
- 柳生竜太郎 (福岡)
- 浦陽平 (長崎)
- 小田雄一郎 (鹿児島)
- 上原嘉明 (沖縄)
- 高橋学 (神奈川)
- 梁島将光 (栃木)

【2022年度 A級ジェネラルコーチ養成講習会 (179名)】

■地域サッカー協会推薦 (64名)

- 北海道 : 佐々木滋、高向隼人、吉澤寛敬
- 東北 : 秋葉勝、遠藤丈善、佐藤令治、鈴木大地、樋口修平、平賀玄太
- 関東 : 飯田慎一郎、市原雄心、伊藤龍、海老原啓一、大槻邦雄、金子典央、金丸浩明、佐藤誓哉、舛川幸治、瀬尾大樹、中島慶介、中村健太、廣本達也、堀田利明、葉袋広明、吉田裕志

左ページ左上へ続く

北信越：太田康介、大谷享、小松憲太、佐藤征宏、橘和徳、登内将志
 東海：宇津山剛、長田航平、佐枝篤、杉山貴昭、鈴木勇貴、横山勝也
 関西：阪口通久、芝山宇光、竜田貴弘、富山卓也、中下直樹、松岡徹、求衛昭紀、山崎健、山本将太
 中国：今井大悟、上田貴典、佐川祐樹、下屋敷恒太郎、白谷建人、余越亮介
 四国：嶋田将利、松下洋平、山田直幸
 九州：浦弘樹、唐川大樹、桑江創、重光貴葵、園田龍太郎、中山恵太、古木裕、吉行亮太、饒辺正志

■Jリーグ推薦(32名)

ヴァンラーレ八戸：中村圭悟
 モンテディオ山形：石川竜也
 いわきFC：中島俊一
 水戸ホーリーホック：富田大介
 栃木サッカークラブ：金澤祐介
 ザスパクサツ群馬：小林竜樹
 鹿島アントラーズ：小谷野稔弘
 大宮アルディージャ：伊東真吾
 浦和レッズ：宮澤克行
 FC東京：山口広野
 東京ヴェルディ：沖田政夫
 湘南ベルマーレ：濱田堯
 AC長野パルセイロ：関瑞貴
 ツエーゲン金沢：石館靖樹
 ジュビロ磐田：新井秀潤
 藤枝MYFC：姫野洋明
 アスルクラロ沼津：水野竜太郎
 名古屋グランパス：稲垣順
 FC岐阜：川島真也
 京都サンガF.C.：斎藤大介
 セレッソ大阪：小松壘
 ヴィッセル神戸：竹口清一
 サンプルチェ広島：山下健太
 ガイナーレ鳥取：豊島幸一
 レノファ山口：南部隆太
 徳島ヴォルティス：齋篤志
 FC今治：山崎崇史
 アビスパ福岡：宮本亨
 ギラヴァンツ北九州：平井将梧
 サガン鳥栖：末藤崇成
 V・ファーレン長崎：齋藤直幸
 大分トリニータ：福井一城

■JPFA推薦(9名)

荒田智之、金澤慎、河村崇大、國吉貴博、田所諒、玉田圭司、橋本英郎、林陵平、明智智和

■JFL推薦(9名)

Honda FC：桶田龍
 ヴェルスバ大分：長谷川豊喜
 FC神楽しまね：岸本弘樹
 FC大阪：秋澤正樹
 FCティアモ枚方：寺田紳一
 ラインメール青森：久保篤史、上間幸歩
 FCマルヤス岡崎：茂庭照幸
 ホンダロックSC：宮路洋輔

■全日本大学サッカー連盟推薦(4名)

刀野真一、田中信也、野崎康介、原優作

■日本クラブユース連盟推薦(2名)

角谷佳英、橋野威

■全国社会人連盟推薦(1名)

川邊裕紀

■女子委員会推薦(2名)

安齋和之、植村公亮

■WEリーグ・なでしこリーグ(8名)

一井淑人、歌門大輔、岸本昌蔵、佐々木勇人、鈴木宏尚、伴英、伊達秀憲、諸町光彦

■JFA推薦(15名)

阿部勇樹、内田篤人、岡本理生、尾松剛、込山友、小山健二、須藤啓太、高原寿康、ディビッドソン純、飛石孝行、中村憲剛、森山裕、矢野大輔、柳川雅樹、矢野由治

■女性コース(13名)

阿部麗、池田浩子、大滝彩美、菅野博子、金野可奈、近藤詠乃、四方菜穂、豊田奈夕葉、松原真智子、三澤絢子、持田紀与美、山木里恵、米津美和

■複数年受講(20名)

朝倉大志、磯部和彦、大須賀淳志、大谷未央、片山翔太、木村元彦、小森隆弘、菅原恵理、田口哲雄、谷奥優作、千葉菟、中川賀之、永井雄一郎、中本貴博、新居友作、野田優介、平山相太、堀井岳也、矢島卓郎、吉田匡孝

(各推薦枠ごとに50音順)

審判員・審判指導者の海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
女子国際親善試合 オーストラリア女子代表 vs フランス女子代表	審判員	小泉朝香、中本早紀	7月14日	メルボルン/オーストラリア
AFC Elite Futsal Referees Seminar 2023	審判員	藤田武志、小林裕之、大矢翼、齋藤香菜、山本真理	7月11日~15日	クアラルンプール/マレーシア
FIFA Women's World Cup Australia New Zealand 2023™	審判員	山下良美、坊園真琴、手代木直美	7月20日~8月20日	オーストラリアおよびニュージーランド
女子国際親善試合 香港女子代表 vs タイ女子代表	審判員	中本早紀	8月13日	香港
AFF U23 Championship 2023	審判員	笠原寛貴	8月17日~26日	ラーヨン/タイ
AFC Champions League 2023/24 - Playoff Stage 4 - West	審判員	木村博之、巒城巧、渡辺康太、山本雄大	8月22日	ドーハ/カタール
Future Star Cup Shanghai 2023	審判員	山本雄大	9月1日~3日	上海/中国
AFC U23 ASIAN CUP QATAR 2024™ - QUALIFIERS GROUP A	審判員	笠原寛貴、浅田武士	9月6日~12日	アンマン/ヨルダン
AFC U23 ASIAN CUP QATAR 2024™ - QUALIFIERS GROUP F	審判員	谷本涼、武部陽介	9月6日~12日	クウェートシティ/クウェート
AFC MA Refereeing Administration Project 2022	審判指導者 (インストラクター)	山岸佐知子	7月12日~16日	サイパン/北マリアナ諸島
FIFA Futsal Refereeing Instructors Seminar	審判指導者 (インストラクター)	松崎康弘	7月19日~23日	マドリッド/スペイン
FIFA Women's World Cup Australia New Zealand 2023™	審判指導者 (テクニカルインストラクター)	深野悦子	7月20日~8月20日	オーストラリアおよびニュージーランド
FUTURO III	審判指導者 (インストラクター)	梶山英沙子、佐藤隆治、名木利幸、山岸佐知子(テクニカル)、中村大輔(フィットネス)	7月24日~28日	ソウル/韓国

次ページ上へ続く

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
AFC Elite Futsal Referee Instructors Seminar 2023	審判指導者 (インストラクター)	延本泰一、小崎知広	8月17日～19日	クアラルンプール/マレーシア
AFC Video Assistant Referees Course 2023	審判指導者 (インストラクター)	佐藤隆治	8月26日～30日	クアラルンプール/マレーシア
FIFA MA Refereeing Course - Futsal	審判指導者 (インストラクター)	松崎康弘	8月29日～9月2日	ドゥシャンベ/タジキスタン
AFC U23 ASIAN CUP QATAR 2024™ - QUALIFIERS GROUP B	審判指導者 (インストラクター)	石山昇	9月6日～12日	昌原/韓国
AFC U23 ASIAN CUP QATAR 2024™ - QUALIFIERS GROUP C	審判指導者 (インストラクター)	上川徹	9月6日～12日	ベトチ/ベトナム
AFC Referee Academy - Batch 4 - Intermediate Module 3	審判指導者 (インストラクター)	佐藤隆治	9月9日～16日	クアラルンプール/マレーシア

2023年度フットサル1級審判員特別認定審査

審判委員会で新規フットサル1級審判員特別認定審査を実施し、下記の1名をフットサル1級審判員に認定した。

荒木裕里香(あらかき ゆりか) 北信越/福井県

特別認定審査とは、サッカー1級・サッカー女子1級審判員の資格保持者に対し、通常のフットサル1級審判員認定審査とは別に審査を行い、合格者にフットサル1級審判員の資格を付与するもの。

天皇杯実施委員会委員の変更

NHKの人事異動に伴い、下記の通り、委員を交代する。

変更前：山本佳代(NHK報道局スポーツセンター スポーツ業務管理部 副部長)

変更後：川瀬直人(NHK報道局スポーツセンター スポーツ業務管理部 副部長)

JFAサッカー施設整備助成事業2023

「JFAサッカー施設整備助成金2023 交付要項」に基づき、助成金交付要望のあった下記の案件について審査した結果、交付を決定した。

【申請概要】

1. 愛知県

(1) 申請者 : 公益財団法人愛知県サッカー協会

(2) 申請区分 : [助成区分1] 都道府県フットボールセンター整備助成事業

(3) 助成対象事業 : 人工芝(新設)

(4) 施設名 : 愛知県フットボールセンター愛西

(5) 計画地 : 愛知県愛西市早尾町草場68(立田総合運動場)

(6) 総事業費 : 100,650千円 うち助成対象経費 91,260千円

(7) 助成金申請額 : 45,000千円

(8) 完了時期 : 2024年1月31日(予定)

(9) 交付決定日 : 2023年9月1日

2023年度 功労賞

地域サッカー協会(地域FA)および都道府県サッカー協会(都道府県FA)から申請があった右表の前(元)役員に、功労賞を授与する。

なお、本件については、表彰規則第6条の通り、2023年度第2回表彰委員会で承認された。

※対象者：

(1) 地域FAおよび都道府県FAの三役(会長、副会長、専務理事)を退任された方

(2) 地域FA役員を退任された方(役員歴20年以上)：各地域FAで年度ごと2名以内。

No.	FA	氏名	前(元)役職
1	北海道	戸村真規	副会長
2	岩手県	佐藤訓文	会長
3	岩手県	鎌田安久	副会長
4	宮城県	佐々木知廣	副会長
5	栃木県	佐藤俊介	副会長
6	神奈川県	坂本紀典	会長
7	滋賀県	藤澤輝彦	会長
8	兵庫県	三木谷研一	会長
9	島根県	新宮博	会長
10	沖縄県	具志堅朗	会長
11	沖縄県	屋雷祖繁幸	副会長

審判員表彰

「審判員及び審判指導者等に関する規則」第30条および「審判員および審判指導者の表彰対象」に基づき、審判委員会より下記の審判員への表彰の推薦があり、表彰委員会がこれを決定した。

対象大会：FIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023

試合：決勝

対象：第4の審判 山下良美(やました よしみ)

表彰内容：表彰状授与、記念品贈呈

【関連規則】

■審判員及び審判指導者等に関する規則

第30条〔表彰〕

本協会は、審判技術の向上等に著しく貢献のあった審判員及び審判指導者を表彰する。

■表彰規則

第3条 本協会が行う表彰の対象者は、次のとおりとする。

(7) 審判員及び審判指導者(以下「審判員等」という。)

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。
ただし、別表に定める者については、表彰委員会がその内容を確認した上で決定し、理事会に報告するものとする。

別表 ③2012年度第8回理事会にて承認された表彰に関する内規（『審判員および審判指導者の表彰について』2021年度第13回理事会改定）に定める表彰者で審判委員会から推薦があった者

JFAロングパイル人工芝ピッチ公認（更新）

(1)申請者（施設所有者）：平塚市
施設名：馬入ふれあい公園馬入サッカー場人工芝グラウンド
（神奈川県平塚市中堂246-1）
使用製品：住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフER-60
公認期間：2023年3月9日～2025年3月8日
公認番号：第027号

(2)申請者（施設所有者）：宇和島市
施設名：丸山公園多目的グラウンド（愛媛県宇和島市和霊町555番地1）
使用製品：株式会社アストロ アストロピッチSL α N-60 EP

公認期間：2023年6月16日～2025年6月15日
公認番号：第193号

(3)申請者（施設所有者）：学校法人国士館
施設名：国士館風の杜キャンパス サッカーグラウンド
（東京都町田市野津田町3101）
使用製品：美津濃株式会社 MS Craft AG BB、MS Craft AG-O BB
公認期間：2023年10月22日～2026年10月21日
公認番号：第246号

規律委員会に関する懲罰

規律委員会（委員長：高山崇彦）より報告された懲罰案件2件について報告する。

- 1.FC東京に対する懲罰の件
- 2.浦和レッドダイヤモンズに対する懲罰の件

1.FC東京に対する懲罰の件

天皇杯実施委員会より報告された天皇杯 JFA 第103回全日本サッカー選手権大会（以下、「本大会」という）におけるFC東京に関する事案について、規律委員会は以下の通り決定した。

対象者：FC東京

懲罰：(1)罰金500万円、(2)譴責（始末書の提出）

根拠条項：懲罰規程3-7 チーム又は選手等によるその他の違反行為、天皇杯試合運営要項 第30条（参加チームの責任）

理由等：

①大会マッチコミッショナーからの報告

本件は、本大会のマッチコミッショナーから報告のあった事案である。同報告およびその追加的資料に基づく対象者の嫌疑は以下の通りである。

（嫌疑内容）

対象者は、2023年7月12日（水）に味の素スタジアムにて行われた本大会第3回戦対東京ヴェルディ戦のキックオフ時刻（19時00分）の直前に、同スタジアム内（対象者のサポーター側のゴール裏、下層スタンド前列中央付近）において、対象者のサポーター複数名（以下、「当該サポーターら」という）が1分20秒程度にわたり花火および発煙筒を使用するという事態を生じさせるとともに、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講じなかった。

②当委員会の判断

規律委員会は上記の報告の内容を精査の上、慎重に検討し審議を重ねた結果、以下の通り判断した。

ア 管轄権について

まず、対象者は本協会に加盟する加盟チームであることから、懲罰規程第2条に基づき当委員会は対象者に懲罰を科す権限を有する。また、本大会は当協会が主催す

る公式競技会であることに加え、本大会の開催規程第4条に「本大会における懲罰問題に関して、本協会規律委員会が直接管轄する」と規定されていることから、懲罰規程第16条第1項第2号に基づき、当委員会が本大会における対象者の行為に関して懲罰を科す権限を有する。

イ 事実関係

次に、事実関係について検討する。当該サポーターらの行為（左記スタジアム内で1分20秒程度にわたり花火および発煙筒を使用した行為）については、マッチコミッショナーの報告および映像等の客観的証拠からも明らかであり、対象者もこの点について争っておらず、事実であると認定できる。また、当該サポーターらの左記行為によって観客1名が火傷を負ったことが認められる。

ウ 対象者の有責性

続いて、当該サポーターらによる左記の行為を防止できなかったことなどに対する対象者の有責性について検討する。天皇杯試合運営要項第30条第1項に、「参加チームは、自チームのサポーターに対して、試合の前後及び試合中において秩序ある適切な態度を保持するよう努める義務を負う。」と規定されていることから、対象者を含む本大会の参加チームは、自チームのサポーターの行為についての管理監督責任、さらには、自チームのサポーターに対して、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために、適切な観戦マナーを守らせ、施設の適切な使用等を周知し、順守させる責任（サポーターへの指導責任）を負う。また、同条第2項には、「参加チームは、前項の義務の遂行を妨げる観客等に対して、主管協会と協議の上、その入場を制限し、または即刻退去させる等、適切な措置を講じなければならない。」と規定されていることから、仮に自チームのサポーターによる危険な行為等が生じた場合には、参加チームは、速やかに、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講じなければならない。本件においては、当該サポーターらは、大量の花火を左記スタジアムに持ち込んだ上で、安全措置を講じないまま、観客席の中でも特に観客が密集したエリアにおいて、大型の応援フラッグに事前に切り込みを入れた上で、当該フラッグの下から切り込みの間より約1分20秒にもわたり100発を超えてこれを打ち上げている（当該サポーターらは、実行者の特定を困難にさせる目的で応援フラッグの下に隠れながら切り込みの間から花火を発射させたものである）。さらに、当該サポーターらは、その周辺において、花火の打ち上げと同時に事前に持ち込んだ複数の発煙筒に引火させていることも確認されている。

当該サポーターらによる上記の行為は、観客が密集するエリアにおいて行われたものであり、誤って大量の花火や発煙筒に引火したり、応援フラッグに引火したりしていた



ならば、観客だけでなくピッチ上の選手や審判その他関係者にもケガを負わせるなど大惨事につながりかねなかった極めて危険な行為であるといえる。そうすると、対象者が、当該サポーターらによる上記スタジアムへの花火や発煙筒の持ち込みを許し、上記の行為の発生を防げなかったことは、自チームのサポーターに対して、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために、適切な観戦マナーを守らせ、施設の適切な使用等を周知し、順守させるとした天皇杯試合運営要項第30条第1項(サポーターの行為についての管理監督責任及びサポーターへの指導責任)違反に当たると認められる。

さらに、映像等の証拠を確認する限り、当該サポーターらによる上記の行為の発生後も、対象者において、当該行為を止めさせるための具体的な措置が取られた形跡は認められず、結果的に、対象者は、当該サポーターらに当該行為をおよそ1分20秒にもわたり継続させ、観客1名に火傷を負わせるに至っている。したがって、対象者は、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講ずるべきであるとする同条第2項に違反すると認められる。

エ 情状

対象者は、当該行為が発生したことについては、「12年ぶりの東京ダービーであり一部のサポーターの熱が高まっていることは事前に察知しており、主管の東京都サッカー協会との間との協議の上、警備員を増強することなどの対応を講じていたが、火器等の使用までは予見できなかった」とし、また、当該行為発生後の対応に関しては、「警備計画上、重点が両サポーター間のトラブル防止に向けられていたこと、当該場所は自由席で非常に混み合っていたこともあり、当該行為の実行中に警備員がたどり着くことができなかった」等と弁明している。

上記弁明のうち「火器の使用までは予見できなかった」との点については、上述の通り、参加チームは、サポーターに対して、適切な施設の利用を含む観戦マナーを守らせる義務を負うものであり、また、本件は最低でも4名のサポーターが関わり計画的かつ組織的に行われていることを踏まえると、対象者によるサポーターへの事前の適切な指導、周知が行われていれば、事前にこのような危険な行為を察知し、これを防止することも十分に期待することができたといわざるを得ない。したがって、結果的に生じた具体的行為の発生を予見できなかったとしても、対象者の義務違反の度合いを軽減する事情とはならない。また、花火の打ち上げが1分20秒にもわたり放置され、試合中に当該サポーターらに対して何らの措置も採られていないことからすれば、仮に「当該行為の実行中に警備員がたどり着くことができなかった」としても、対象者は、速やかに、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手等の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講じたとは認められず、対象者の責任を軽減する事情とはならない。

オ 懲罰

当該サポーターらによる上記スタジアム内での大量の花火および発煙筒の持ち込みならびにこれらの使用は、天皇杯の試合だけではなくJリーグの主催試合の全てを含めても、わが国のサッカー史上でも類を見ない極めて危険な重大な行為であるといえ、このような行為を防げなかった対象者の責任は極めて重いとわざるを得ない。規律委員会では、対象者によるこのような義務違反の重大性に鑑み、天皇杯およびJリーグ主催試合における過去の事例に対する処分例等を参考とし、対象者に対し、^{けんせき}譴責(始末書の提出)および罰金500万円を科すのが相当であると判断した。

2.浦和レッドダイヤモンズに対する懲罰の件

対象者 : 浦和レッドダイヤモンズ
懲罰 : (1) 2024年度天皇杯(天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会)の参加資格の剥奪
(2) 譴責(始末書の提出)

根拠条項 : 懲罰規程 第4条第2項(2)及び(15)、第27条、[別紙1]3-7
天皇杯試合運営要項 第30条

理由等:

① 嫌疑

マッチコミッショナーおよび本大会実施委員会からの報告およびその後の映像分析等に基づく対象者の嫌疑の概要は以下の通りである。

(嫌疑の概要)

対象者は、自チームのサポーターに対して試合後においても秩序ある適切な態度を保持するよう努める義務を怠り、2023年8月2日(水)にCSアセット港サッカー場にて行われた本大会4回戦対名古屋グランパス戦の試合(以下、「本試合」という)において、試合終了から約20分後より、多数(合計70名以上)の対象者のサポーター(以下、「本件サポーターら」という)が暴徒化して、以下に掲げる当協会試合運営管理規定に違反する行為(以下「本件管理規定違反行為」という)に及んだことを防止できなかったほか、本件サポーターらを即刻退去させるなど、観客や選手その他の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講じなかった。

<本件サポーターらによる本件管理規定違反行為>

1. フィールドへの飛び降り
2. 相手チームのサポーターおよび警備運営スタッフに対する暴力
3. 相手チームのサポーターに対する威嚇
4. 相手チームのサポーターエリアへの集団での押し寄せ
5. 相手チームのサポーターの横断幕やスタジアム内の設置物の損壊
6. 立ち入り禁止区域(券種外の入場可能エリア、関係者エリア、相手チームのサポーターエリア等)への不正侵入
7. スタジアム内を走り回る行為
8. 掲出不可エリアへの横断幕の設置

なお、当協会執行部は本大会の主催者として、本件サポーターらのうち特定することができた18人(現時点)に対し、各々の各本件管理規定違反行為を個別に認定した上で、当協会試合運営管理規定に基づき、処分を行っている。

② 当委員会の判断

規律委員会は、上記の嫌疑の内容を精査し、対象者に弁明の機会を付与した上で、慎重に検討し審議を重ねた結果、以下の通り判断する。

ア 管轄権

対象者は当協会の加盟チームであることから、懲罰規程第2条に基づき規律委員会は対象者に懲罰を科す権限を有する。また、本大会は当協会が主催する公式競技会であることに加え、本大会の開催規程第4条に「本大会における懲罰問題に関して、本協会規律委員会が直接管轄する」と規定されていることから、懲罰規程第16条第2号に基づき、規律委員会は、本大会における対象者の行為について調査・審議する権限を有する。

イ 事実関係

本件サポーターらによる本件管理規定違反行為については、マッチコミッショナーおよび本大会実施委員会の報告ならびに映像等の客観的証拠から明らかであり、対象者もこの点について争っておらず、事実であると認定できる。

ウ 対象者の有責性

天皇杯試合運営要項第30条第1項に、「参加チームは、自チームのサポーターに対して、試合の前後及び試合中において秩序ある適切な態度を保持するよう努める義務を負う。」と規定されていることから、対象者を含む本大会の参加チームは、自チームのサポーターの行為についての管理監督責任、さらには、自チームのサポーターに

対して、観客や選手その他の試合に関わる人の安全を確保するために、適切な観戦マナーを守らせ、施設の適切な使用等を周知し、順守させる責任(サポーターへの指導責任)を負う。

また、同条第2項には、「参加チームは、前項の義務の遂行を妨げる観客等に対して、主管協会と協議の上、その入場を制限し、または即刻退去させる等、適切な措置を講じなければならない。」と規定されていることから、自チームのサポーターによる危険な行為等が生じた場合には、参加チームは、速やかに、当該行為をやめさせるとともに、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手その他の試合に関わる人の安全を確保するために、即刻退去させる等の適切な措置を講じなければならない。

本件サポーターらは、試合終了後ではあるものの、まだ多くの観客や関係者がスタジアムに残っていた状況において、集団で暴徒化し、スタジアムの各所において同時多発的に前記本件サポーターらによる本件管理規定違反行為>1.から7.までの危険かつ暴乱な行為を行った。すなわち、本件サポーターらは、集団でフィールドへ飛び降りて、相手チームのサポーターエリアに押し寄せ、相手チームのサポーターや関係者に対し大声を出すなどして威嚇し、相手チームのサポーターや警備運営関係者に対して暴行を加えるなどし、さらには、相手チームのサポーターのウェアおよび横断幕やスタジアムの備品を損壊している。本件サポーターらによるこのような暴動により、スタジアム内は騒然とし、一時的に警備運営関係者においても制御することができない無秩序な状態となり、相手チームのサポーターを含む観客、選手等の関係者および警備運営関係者が身の危険を感じざるを得ない状況を招いている。このような状態は、警察が出勤して収束するまで、約1時間あまり続いた。

本件サポーターらによる本件管理規定違反行為は、対象者がサポーターとクラブとの間のコミュニケーションを通じて適切な管理監督と指導を行ってれば、防止することができたものであるといわざるを得なかったものであり、対象者には、自チームのサポーターに適切な観戦マナーを守らせ、施設の適切な使用等を周知し、順守させる義務があるとした天皇杯試合運営要項第30条第1項に定める指導責任(サポーターの行為についての管理監督責任及びサポーターへの指導責任)の懈怠があったものと認められる。

さらに、本件サポーターらによる本件管理規定違反行為の発生後も、対象者は暴徒化した本件サポーターらを即刻退去させるなどして本件管理規定違反行為を止めることができず、結果的に1時間あまりの間、スタジアムを警備運営関係者においても制御することができない無秩序な状態に陥らせた。したがって、対象者は、被害の発生および拡大を防ぎ、観客や選手その他の試合に関わる人の安全を確保するために適切な措置を講ずるべきであるとする同条第2項にも違反すると認められる。

エ 情状

対象者は、その弁明において、クラブとして実施していた対策の内容と、それにもかかわらず本件サポーターらによる本件管理規定違反行為が生じたことの原因等について以下の通り述べている。

(ア)本試合に向けた対策等について

本試合に向け、以下のような対策を実施したが、従前の経過に照らして、本件サポーターらによる本件管理規定違反行為の発生^{さいぜん}の蓋然性が高いとは想定しておらず、それに対する具体的な打ち合わせはできていなかった。

●本試合については、直前まで試合会場の変更等の可能性があったこと、また、本試合会場では「鳴り物」の使用が禁止されているという背景から、通常より問題行動が起こるリスクが高いと考え、関係者(愛知県協会、当協会運営担当者、相手クラブ)と綿密に打ち合わせを行い、また、試合会場の視察を行うなどの対策を採った。

●「鳴り物禁止ルール」違反への対応として、入場門にスタッフを重点的に配置するなどし、さらに、本試合後は、試合の結果および内容に照らして、サポーターからの何らかのアクション(対話やチームバスの囲み等)があると予想し、それに対応すべく、競技運営スタッフをゴール裏スタンドフィールド内に2名、スタンド内に

4名の合計6名を配置するなどの対策を講じていた。

(イ)相手チームのサポーターからの挑発について

相手チームのサポーター2名から発せられた何らかの言葉(「早く帰れ、こっちに来て」といった内容であったとの話もあるが特定はできていない)に対し、本件サポーターらの一部が憤慨し、バックスタンド側に移動を開始し、その後、その他のサポーターもこれに続き、本件管理規定違反行為に至った。

(ウ)今後の対応策について

今後の対応策として、以下のような対応を予定している。

●過去に自チームのサポーターによる違反事案が生じた際にも、その都度、再発防止に向けた措置を講じてきたものの、本件を防ぐことができなかったことを受け、違反行為をしたサポーターに対する対象者による独自の処分について厳罰化と処分基準の見直しを行う。

●新たな取り組みとして、専門家に本件の原因分析等を依頼して、その結果を踏まえて再発防止策を策定し、さらには、第三者委員会を設置して対策を講じることを検討する。

(エ)反省の弁

「今回、不適切行為を生じたことは、これまで先人が紡いできた日本サッカーの歴史に泥を塗る愚行であり、これまで多くのサッカー関係者やファン・サポーターの皆さまの努力によって形成されてきた、スタジアム観戦への好意的なイメージを傷つけてしまったことはサッカー界、スポーツ界に身を置く者として痛恨の極みでございます」

以上の対象者の弁明に対し、規律委員会は以下の通り判断する。

上記(ア)(本試合に向けた対策等について)について、「今回生じた当該サポーターらの行為については、従前の経過に照らして発生^{さいぜん}の蓋然性が高いとは想定しておらず、それに対する具体的な打ち合わせはできていなかった」との弁明は、上述の通り、参加チームは、自チームのサポーターに対して適切な施設の利用を含む観戦マナーを守らせる義務を負うものであり、また、本件は、対象者によるサポーターへの事前の適切な指導、周知が徹底されていれば、このような危険な行為を防止することも十分に期待することができたといわざるを得ず、対象者の義務違反の度合いを軽減する事情とはなり得ない。

また、上記(イ)(相手チームのサポーターからの挑発)については、確かに本件の直接のきっかけは、相手方チームのサポーターの言動にあった可能性も否定はできないものの、そうであったとしても、本件サポーターらの行動は、その反応として著しく過剰かつ執拗^{しつこ}なものであり、情状として汲むべき事情には当たらないと考えられる。

最後に、上記(ウ)(今後の対応策)および(エ)(反省の弁)については、規律委員会としては、対象者の再発防止に向けた今後の対応に期待し、これを注視するものの、本件においては考慮事由とはならないと判断した。

オ 懲罰

本件は、現時点で判明しているだけでも70名以上にもおよぶ多数のサポーターがスタジアム内で集団として暴徒化し、相手チームのサポーターを威嚇し、相手チームのサポーターや警備運営関係者に対して暴行を加えるという、日本サッカー史上、過去に類を見ない極めて危険かつ醜悪なものであり、その場に居合わせた子どもを含む多くの観客、チーム関係者、スタジアムや運営に携わる関係者等を危険にさらし、恐怖に陥れるものであった。また、その様子はテレビやインターネットを通して、広く伝えられ、サッカー関係者以外の多くの人々にも強い衝撃を与えた。

当協会は、JFA2005年宣言において、「サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。」というビジョンを掲げている。また、Jリーグも、「豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与」を掲げ、その活動方針の一つとして、「自治体・ファン・サポーターの理解・



協力を仰ぎながら、世界に誇れる、安全で快適なスタジアム環境を確立すること」を宣言している。

このように、当協会およびJリーグは、サッカーは子どもたちをはじめとする多くの人々に夢を与え、感動させる存在でなければならないと考えている。人々がスタジアムにおいて安全、安心に観戦することができなくなれば、人々の足をスタジアムから遠のかせることになり、ひいてはサッカー競技自体への興味を失わせることにもなりかねない。本件の対象者のサポーターによる暴挙は、このような当協会やJリーグの理念に真っ向から反するものであり、断じて許されない。

これまでも、対象者のサポーターが引き起こした問題行動による懲罰事案は、Jリーグおよび天皇杯を含めて2000年以降だけでも11件にも上る。サポーターの問題行動が起こるたびに、対象者が、再発防止に向け、さまざまな取り組みを行ってきたことは一定程度評価するものの、残念ながら、そのような取り組みにもかかわらず、対象者のサポーターによる問題行動は繰り返され、それらの問題行動は改善を見せるどころか、本件のような集団的に暴徒化するという許されざる暴挙にまで至っている。このような実態を直視すると、対象者による取り組みは十分ではなかったといわざるを得ず、対象者にさらなる猛省と実効性のある再発防止策の策定および実施を促すには、これまでと同様に罰金の処分を重ねたとしても、十分な効果は得られないと考えられる。

さらに、対象者のサポーターによる問題行動に係るJリーグによる直近の懲罰事案（2022年7月）においては、対象者は、罰金2000万円の懲罰を科されるとともに、「対象者が再びサポーターの行為に起因する懲罰事案を発生させた場合、無観客試合の開催又は勝点減といった懲罰を諮問する可能性がある」と強い警告を受けていた。本件はこの警告にもかかわらず発生したものである。

以上を踏まえ、本件がトーナメント制を採用する天皇杯において行われたこと、および対象者が既に本年度の天皇杯を敗退していることを考慮し、規律委員会は、対象者に対して、譴責（始末書の提出）に加えて、「2024年度天皇杯（天皇杯JFA第104回全日本サッカー選手権大会）の参加資格の剥奪」というこれまでに対象者に科した懲罰よりも重い懲罰を科すことが相当であると判断した。

なお、規律委員会は決定通知の中で以下の通り付言している。

「以上の懲罰は、対象者（クラブ）に対するものであるが、本件管理規定違反行為の実行者である本件サポーターらには、自らの行為がクラブに招いた結果の重大性をしっかりと受け止めてほしい。サポーターはクラブとその選手たちを心から応援し、愛する存在であるはずである。観戦ルールに違反する行為は、結果的に、自分が愛するクラブ、ひいては、そのクラブを愛する多くの仲間たちを傷つけることになってしまう。そのことを自覚し、ルールを守って観戦していただくことを規律委員会としても切に願うものである。」

裁定委員会に関する懲罰

裁定委員会（委員長：山田秀雄）より報告された懲罰案件2件について報告する。公表内容は以下の通り。なお、公表期間は原則通り3年とする。

【事案1】

1. 当事者
第4種チーム元代表者・監督
2. 懲罰の種類
無期限
3. 懲罰の決定日
2023年8月23日
4. 懲罰の理由
懲罰規程34条第1項(2)
5. 事案の概要
サッカー関連活動停止期間中の繰り返しのサッカー関連活動（同人は、サッカー関連活動の停止処分が科されていたにもかかわらず、これを無視して活動を行ったことで、裁定委員会より活動停止期間の延長が科されていたが、それにもかかわらず、再びこれを無視してサッカー関連活動を行ったもの）

【事案2】

1. 当事者
第4種チーム元コーチ
2. 懲罰の種類
譴責
3. 懲罰の決定日
2023年8月23日
4. 懲罰の理由
指導者に関する規則第20条(4)(7)
懲罰規程第34条第1項(1)
5. 事案の概要
選手に対する不適切な発言（指導者としては不適切と考えられる発言であるが、特定の個人に向けられたものではなく、あくまでチーム全体に向けられた発言であり、暴言とまでは認定できない）



JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/キリンチャレンジカップ2022 対アメリカ代表戦 先発メンバー (2022.9.23)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER





- ① SAMURAI BLUE 国際親善試合/キリンチャレンジカップ2023
 - ② U-22日本代表 AFC U23アジアカップカタール2024予選
 - ③ U-17日本代表 リモージュ国際大会
 - ④ U-17日本代表 第25回 国際ユースサッカーin新潟
 - ⑤ U-15日本代表 EAFF U15男子選手権2023
 - ⑥ U-15日本代表候補 国内キャンプ
 - ⑦ なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合(アルゼンチン女子代表戦)
 - ⑧ U-19日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
 - ⑨ フットサル日本代表 ブラジル遠征(Futsal Nations Cup)
 - ⑩ フットサル日本女子代表 海外遠征(NSDF Women's Futsal Championship 2023)
 - ⑪ 全日本大学選抜 DENSO CUP SOCCER 第22回大学日韓(韓日)定期戦
 - ⑫ U-20全日本大学選抜 アジア大学サッカートーナメント
 - ⑬ 2023年度第47回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
 - ⑭ 日本スポーツマスターズ2023 福井大会(サッカー競技)
 - ⑮ メニコンカップ2023 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)
 - ⑯ JFA U-18女子サッカーファイナルズ2023
 - ⑰ 第19回全日本大学フットサル大会
 - ⑱ JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会
- ※NCS: ナショナルコーチングスタッフ, JC: JFAコーチ / VAR: ビデオアシスタントレフェリー, AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE 国際親善試合/キリンチャレンジカップ2023

【スタッフ】

※74~75ページに関連記事あり

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 名波浩(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、前田遼一(NCS) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺門大輔(JFAテクニカルハウス)、中下征樹(JFAテクニカルハウス)、若林大智(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	シュミット・ダニエル	シントトロイデンVV (BEL)	MF/FW	古橋亨梧	セルティック (SCO)
	中村航輔	ボルティモネセSC (POR)		守田英正	スポルティングCP (POR)
	大迫敬介	サンフレッチェ広島		鎌田大地	SSラツィオ (ITA)
DF	谷口彰悟	アルラヤンSC (QAT)	三笥薫	ブライトン・アンド・ホーヴ・アルビオンFC (ENG)	
	板倉滉	ボルシアMG (GER)	前田大然	セルティック (SCO)	
	森下龍矢	名古屋グランパス	堂安律	SCフライブルク (GER)	
	町田浩樹	ユニオン・サンジロワーズ (BEL)	伊藤敦樹	浦和レッズ	
	毎熊晟矢*	セレッソ大阪	上田綺世※1	フェイエノールト (NED)	
	富安健洋	アーセナル (ENG)	田中碧	フォルトゥナ・デュッセルドルフ (GER)	
	伊藤洋輝	VfBシュトゥットガルト (GER)	中村敬斗	スタッド・ランス (FRA)	
	橋岡大樹	シントトロイデンVV (BEL)	久保建英	レアル・ソシエダ (ESP)	
菅原由勢	AZアルクマール (NED)				
MF/FW	遠藤航	リバプールFC (ENG)			
	伊東純也	スタッド・ランス (FRA)			
	浅野拓磨	VfLボーフム (GER)			

<スケジュール>

- 9月1日 (森保監督) 羽田発、フランクフルト着
フランクフルト発、ヴォルフスブルク着
- 3日 (国内クラブ所属選手1) 羽田発、フランクフルト着
(国内クラブ所属選手2) フランクフルト発、ヴォルフスブルク着
羽田発、フランクフルト着
フランクフルト発、ハノーファー着
ハノーファー発、ヴォルフスブルク着
- 4日 トレーニング (Volkswagen Arena Pitch A)
- 5日~7日 トレーニング (VfL-Stadion am Elsterweg Pitch B)
- 8日 公式トレーニング (Volkswagen Arena)
- 9日 国際親善試合 vs ドイツ代表 (Volkswagen Arena)
- 10日 トレーニング (Volkswagen Arena Pitch A)
ブラウンシュヴァイク発、マーストリヒト着
マーストリヒト発、ランアーケン着
- 11日 公式トレーニング (Cegeka Arena)
- 12日 キリンチャレンジカップ2023 vs トルコ代表 (Cegeka Arena)
- 13日 ランアーケン発、デュッセルドルフ着
デュッセルドルフ発、フランクフルト着
フランクフルト発、羽田着

国際親善試合

SAMURAI BLUE 4 (前半2-1 後半2-0) 1 ドイツ代表

●2023年9月9日 20:45 ●Volkswagen Arena ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] João Pinheiro(POR) [副審] Bruno Miguel Alves Jesus(POR) / Luciano Gomes(POR) ●観衆: 24,980人

日本(監督: 森保一): [GK] (12) 大迫敬介 [DF] (2) 菅原由勢<→84' (19) 橋岡大樹> (4) 板倉滉 (16) 富安健洋 (21) 伊藤洋輝 [MF / FW] (5) 守田英正<→75' (17) 田中碧> (6) 遠藤航 (7) 三笥薫<→84' (10) 堂安律> (8) 鎌田大地<→59' (3) 谷口彰悟> (9) 上田綺世<→59' (18) 浅野拓磨> (14) 伊東純也<→75' (20) 久保建英>

控え: (1) 中村航輔 (23) シュミット・ダニエル (11) 古橋亨梧 (13) 中村敬斗 (15) 伊藤敦樹 (22) 町田浩樹 (24) 森下龍矢 (25) 前田大然 (26) 毎熊晟矢

ドイツ(監督: ハンジ・フリック): [GK] (1) マルク・アンドレ・テアシュテゲン [DF] (2) アントニオ・リュディガー (5) ニコ・シュロッターベック<→64' (20) ロビン・ゴゼンス> (6) ヨシュア・キミヒ (15) ニクラス・ズーレ (23) エムレ・ジャン<→64' (24) バスカル・グロス> [MF / FW] (7) カイ・ハーバツ<→73' (13) トーマス・ミュラー> (9) フロリアン・ビルツ<→73' (17) ユリアン・ブランド> (10) セルジュ・ニャブリ<→81' (11) ケビン・シャーデ> (19) レロイ・サネ (21) イルカイ・ギュンドアン

控え: (12) ケビン・トラップ (22) オリバー・バウマン (3) マリック・チャウ (4) ヨナタン・ター (8) フェリックス・ヌメチャ (16) ベンヤミン・ヘンリヒス (18) ヨナス・ホフマン

得点 [日本] 11' 伊東純也 (1-0)、22' 上田綺世 (2-1)、90' 浅野拓磨 (3-1)、90+2' 田中碧 (4-1) [ドイツ] 19' レロイ・サネ (1-1)

警告 [日本] 52' 板倉滉 [ドイツ] 25' ニクラス・ズーレ、66' ロビン・ゴゼンス

キリンチャレンジカップ2023

SAMURAI BLUE 4 (前半3-1 後半1-1) 2 トルコ代表

●2023年9月12日 14:20 ●Cegeka Arena ●試合時間:90分 ●審判員: [主審] アラルト・リントハウス (NED) [副審] レンス・ブルーミング (NED) / ロイ・デ・ナス (BEL) [第4の審判員] ヨナタン・ラルド (NED) ●マッチコミッションナー: 北村俊 ●観衆: 7202人

日本(監督: 森保一): [GK] (1) 中村航輔<→45+3' (23) シュミット・ダニエル> [DF] (3) 谷口彰悟 (21) 伊藤洋輝 (22) 町田浩樹<→79' (16) 富安健洋> (26) 毎熊晟矢<→HT (19) 橋岡大樹> [MF / FW] (10) 堂安律<→HT (14) 伊東純也> (11) 古橋亨梧 (13) 中村敬斗<→HT (25) 前田大然> (15) 伊藤敦樹<→63' (6) 遠藤航> (17) 田中碧 (20) 久保建英

控え: (12) 大迫敬介 (2) 菅原由勢 (4) 板倉滉 (5) 守田英正 (7) 三笥薫 (8) 鎌田大地 (18) 浅野拓磨 (24) 森下龍矢

トルコ(監督: シュテファン・クンツ): [GK] (23) ウールジャン・チャクル<→HT (12) アルタイ・バユンドゥル> [DF] (4) チャーラル・ソユンジュ<→HT (3) メリフ・デミラル> (15) オザン・カバク (18) オヌル・ブルト (21) メルト・ミュルデュル [MF / FW] (5) サリフ・オズジャン<→HT (10) ハカン・チャルハノール> (6) オルカン・コクチュ<→HT (16) イスマイル・ユクセク> (7) ユスフ・サル (8) イルファン・ジャン・カフベジ<→83' (11) バルシュ・アルベル・ユルマズ> (19) ベルトウー・ユルデュルム (20) サリフ・ウチャン<→HT (17) ジェンギズ・ユンデル>

控え: (1) メルト・ギュノク (2) ゼキ・チェリク (9) ハリル・デルビシヨール (13) カズムジャン・カラタシュ (22) ジェンク・オズカジャル

得点 [日本] 15' 伊藤敦樹 (1-0)、28'、36' 中村敬斗 (2-0) (3-0)、78' 伊東純也 (4-2) [トルコ] 44' オザン・カバク (3-1)、61' ベルトウー・ユルデュルム (3-2)

警告 [日本] 29' 中村敬斗、43' 毎熊晟矢、45+5' 久保建英 [トルコ] 43' チャーラル・ソユンジュ、45+5' サリフ・オズジャン、76' イスマイル・ユクセク

U-22日本代表 AFC U23アジアカップカタール2024予選

※26ページに関連記事あり

【スタッフ】

○团长：反町康治(JFA技術委員長) ○監督：大岩剛(NCS) ○コーチ：羽田憲司(NCS) ○GKコーチ：浜野征哉(NCS) ○フィジカルコーチ：矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ：越智滋之(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	小久保玲央	SLベンフィカ (POR)	MF	川崎楓太	京都サンガF.C.
	鈴木彩艶	シントトロイデンVV (BEL)		齊藤光毅	スパルタ・ロツテルダム (NED)
	野澤大志	FC東京		小田裕太郎	ハート・オブ・ミドロシアンFC (SCO)
DF	内野貴史	フォルトゥナ・デュッセルドルフ (GER)	鈴木唯人	ブレンビー IF (DEN)	
	大畑歩夢	浦和レッズ	山本理仁	シントトロイデンVV (BEL)	
	西尾隆矢	セレッソ大阪	藤田譲瑠チマ	シントトロイデンVV (BEL)	
	木村誠二	FC東京	三戸舜介	アルビレックス新潟	
	畑大雅	湘南ベルマーレ	松木玖生	FC東京	
	鈴木海音	ジュビロ磐田	藤尾翔太	FC町田ゼルビア	
MF	中野伸哉	ガンバ大阪	細谷真大	柏レイソル	
	高井幸大	川崎フロンターレ			
	平河悠	FC町田ゼルビア			
	山田楓喜	京都サンガF.C.			

<スケジュール>

9月3日	トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド) 成田発、ドバイ経由
4日	バーレーン発 トレーニング
5日	トレーニング
6日	AFC U23アジアカップカタール2024予選 グループステージ第1戦 vs U-22パキスタン代表 (Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium)
7日~8日	トレーニング
9日	グループステージ第2戦 vs U-22パレスチナ代表 (Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium)
10日~11日	トレーニング
12日	グループステージ第3戦 vs U-22バーレーン代表 (Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium)
13日	バーレーン発、ドバイ経由 羽田着

■グループステージ (日本の結果のみ)

順位	グループD	日本	パレスチナ	バーレーン	パキスタン	試合数	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本	3勝0分0負	1勝0分0負	0勝0分0負	6勝0分0負	7	2	1	0	7	0	7
2	パレスチナ	0勝0分1負	1勝0分0負	1勝0分0負	2勝0分1負	6	2	0	1	3	2	1
3	バーレーン	0勝0分0負	0勝0分1負	3勝0分0負	3勝0分1負	4	1	1	1	3	2	1
4	パキスタン	0勝0分6負	1勝0分2負	1勝0分3負	0勝0分0分3負	0	0	0	3	2	11	-9

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

グループステージ第1戦

U-22日本代表 6 (前半3-0 後半3-0) 0 U-22パキスタン代表

●2023年9月6日 21:30 ●Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]YUDI NURCAHYA (IDN) [副審]I GEDE SELAMET RAHARJA (IDN) / AHMED ABDULLA (MDV) [第4の審判員]AHMED EISA MOHAMED DARWISH (UAE) ●マッチコミッショナー:EHAH SABER KHOJA (KSA) ●観衆:101人

日本(監督:大岩剛):[GK](1)鈴木彩艶 [DF](2)内野貴史(3)西尾隆矢(4)鈴木海音(21)大畑歩夢<->86'(17)中野伸哉> [MF](8)藤田譲瑠チマ(14)三戸舜介<->77'(10)鈴木唯人>(16)松木玖生<->77'(7)山本理仁>(18)齊藤光毅(20)山田楓喜<->77'(19)小田裕太郎> [FW](11)細谷真大<->77'(9)藤尾翔太>

控え:(12)小久保玲央(5)木村誠二(6)川崎楓太(13)平河悠(15)畑大雅(22)高井幸大

パキスタン(監督:SHAHZAD ANWAR):[GK](22)SALMAN UL HAQ<->71'(1)USMAN ALI> [DF](2)MOHIB ULLAH (5)MAMOON MOOSA KHAN (13)MUHAMMAD SUFYAN<->HT(3)HASEEB AHMED KHAN>(15)SYED ABDULLAH SHAH [MF](4)ABDULLAH IQBAL (11)HARUN ARRASHID FAHEEM(21)ALAMGIR ALI KHAN [FW](9)MUHAMMAD WAHEED<->HT(17)FAREED ULLAH>(10)MUHAMMAD WALEED KHAN<->58'(8)SHAYAK DOST>(16)MOJIB AHMED<->58'(18)HAMZA AHMED>

控え:(6)MUHAMMAD TAHA(7)ZAID UMAR(14)SAEED KHAN(19)NIZAM UDDIN(20)HASSAN ALI(23)MUHAMMAD HAYYAAN KHATTAK

得点 [日本]12'鈴木海音(1-0)、44'、65'三戸舜介(2-0)(6-0)、45+3'、51'細谷真大(3-0)(4-0)、60'藤田譲瑠チマ(5-0)

警告 [パキスタン]23'MOHIB ULLAH、50'SYED ABDULLAH SHAH

グループステージ第2戦

U-22日本代表 1 (前半1-0 後半0-0) 0 U-22パレスチナ代表

●2023年9月9日 21:30 ●Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]AHMED EISA MOHAMED DARWISH (UAE) [副審]SAEED RASHED ALMARZOOQI (UAE) / HAMED TALIB SAIF AL GHAFRI (OMA) [第4の審判員]YUDI NURCAHYA (IDN) ●マッチコミッショナー:KEMEL TOKABAEV (KGZ) ●観衆:51人

日本(監督:大岩剛):[GK](1)鈴木彩艶 [DF](5)木村誠二(15)畑大雅(17)中野伸哉<->82'(2)内野貴史>(22)高井幸大(6)川崎楓太(7)山本理仁<->75'(8)藤田譲瑠チマ> [MF](10)鈴木唯人<->75'(14)三戸舜介>(13)平河悠 [FW](9)藤尾翔太<->82'(11)細谷真大>(19)小田裕太郎<->82'(20)山田楓喜>

控え:(12)小久保玲央(3)西尾隆矢(4)鈴木海音(16)松木玖生(18)齊藤光毅(21)大畑歩夢

パレスチナ(監督:IHAB ABUJAZAR):[GK](22)ABDELHADI YASSIN [DF](4)ALI RABEI (5)IBRAHIM ABUIMEIR (12)OMAR KAYED<->88'(23)ABDALLAH ALSHURAFI >(15)WAJDI MOHAMMED [MF](3)AHMED KULLAB (11)SAMER ZUBAIDA<->71'(20)GIBRAN HAJYOUSSEF >(17)MOHAMMED DIREYA<->56'(21)MOHAMMED SANDOUGA >(18)MOHANAD HASANAIN<->56'(10)ANAS BANIOWDA >(19)HAMZA HUSSEIN<->71'(13)SADEQ OBAID > [FW](9)ZEID QUNBAR

控え:(1)MALIK SALAMA(16)MAHDI ASSI(6)HADI RABAHA(7)KHALIED ALNABRISI (8)MOHAMMED FATHI NAZZAL(14)JEHAD ABOUELAYNEIN

得点 [日本]23'藤尾翔太

警告 [パレスチナ]44'MOHANAD HASANAIN、90+2'SADEQ OBAID、90+6'ZEID QUNBAR、90+6'ANAS BANIOWDA

グループステージ第3戦

U-22日本代表 0 (前半0-0 後半0-0) 0 U-22バーレーン代表

●2023年9月12日 18:30 ●Sheikh Ali Bin Mohammed Al Khalifa Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]GULMURODI SADULLO (TJK) [副審]KARIMOV HASAN (TJK) / I GEDE SELAMET RAHARJA (IDN) [第4の審判員]YUDI NURCAHYA (IDN) ●マッチコミッショナー:KEMEL TOKABAEV (KGZ) ●観衆:271人

日本(監督:大岩剛):[GK](1)鈴木彩艶 [DF](2)内野貴史(3)西尾隆矢(5)木村誠二(21)大畑歩夢<->90'(15)畑大雅> [MF](8)藤田譲瑠チマ(14)三戸舜介<->84'(9)藤尾翔太>(16)松木玖生<->63'(7)山本理仁>(18)齊藤光毅<->HT(10)鈴木唯人>(20)山田楓喜<->63'(19)小田裕太郎> [FW](11)細谷真大

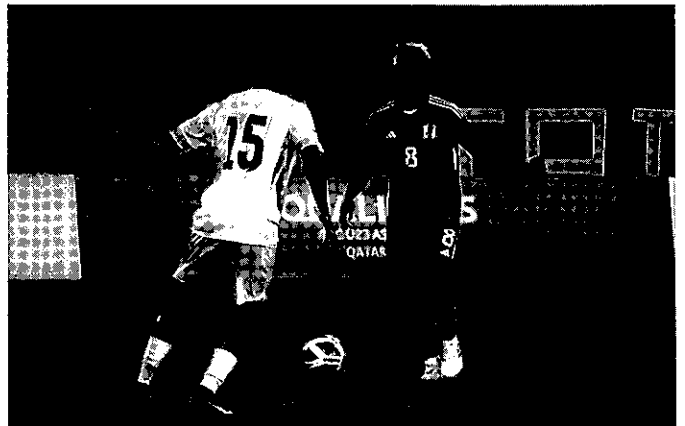
控え:(12)小久保玲央(23)野澤大志(23)鈴木海音(6)川崎楓太(13)平河悠(17)中野伸哉(22)高井幸大

バーレーン(監督:DARIO BASIC):[GK](22)SALMAN ADEL ALISA [DF](2)AHMED DHEYAA ALI (3)ABDULLA SULTAN ALKHALASI (5)HANI TAHA ALHARABI (6)HUSAIN ALI ALEKER(16)HASAN ISA JUMA [MF](11)SAYED JAWAD ALAWI<->90+1'(10)MUBARAK MOHAMED HABIB >(15)HUSSAIN JAAFAR HAROONA<->86'(14)MAHMOOD MOHAMED ALI >(17)MOHAMMED A. QAYOOM (19)SALMAN ABDULLA QADHAIB<->81'(18)ABDULLA NEMER ALMESAEED > [FW](9)HUSAIN ABDULKARIM ABDULAZIZ<->81'(13)ABDULLA ALI ALSUBAIEI >

控え:(1)KHALIL EBRAHIM AHMED(21)ABDULLA ALI ALAHMED(4)SALEM HUSAIN (7)HASAN ABDULNABI ALI(8)SALEM ISA ALDOSEFI(12)AHMED ABDULHAMEED HASAN(20)ALI MOHAMED REDHA(23)SALMAN YUNES AMIN

警告 [日本]86'大畑歩夢、90+2'藤田譲瑠チマ

[バーレーン]42'HUSAIN ALI ALEKER、90+4'ABDULLA SULTAN ALKHALASI



グループステージ第3戦・U-22日本代表 vs U-22バーレーン代表

U-17日本代表 リモージュ国際大会

【スタッフ】

○団長：大橋浩司(JFA技術委員会) ○監督：森山佳郎(NCS) ○コーチ：廣山望(NCS) ○GKコーチ：高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ：村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ：片桐央視(JFAテクニカルハウス) ○ロールモデルコーチ：阿部勇樹(JFA)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	後藤亘	FC東京U-18	MF	中島洋太郎	サンフレッチェ広島F.Cユース
	荒木琉偉	ガンバ大阪ユース		山本丈偉	東京ヴェルディユース
DF	吉永夢希	神村学園高等部		望月耕平	横浜F・マリノスユース
	鈴木樟	駒学園高校		矢田龍之介	清水エスパルスユース
	永野修都	FC東京U-18		佐藤龍之介	FC東京U-18
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-18	FW	西原源樹	清水エスパルスユース
	斎藤秀輝※1	大宮アルディージャU18		名和田我空	神村学園高等部
	土屋權大	川崎フロンターレU-18		山口太陽	FC東京U-18
本多康太郎	湘南ベルマーレU-18	徳田養※1		鹿島アントラーズユース	
金子俊輔※2	FC東京U-18	高岡侑真		日章学園高校	
宮川大輝	ガンバ大阪ユース	井上愛廉※2		サンフレッチェ広島F.Cユース	
MF	川村楽人	東京ヴェルディユース			

※1：ケガのため不参加
※2：追加招集

<スケジュール>

9月3日 集合、成田発、ドバイ経由
4日 パリ着
5日 トレーニング (JS Farge)
6日 リモージュ国際大会
第1戦 vs U-17ポルトガル代表 (Stade de Beaulanc)
7日 トレーニング (JS Farge)
8日 第2戦 vs U-17イングランド代表 (Stade de Beaulanc)
9日 トレーニング (JS Farge)
10日 第3戦 vs U-17フランス代表 (Stade de Beaulanc)
11日 パリ発、ドバイ経由
12日 成田着

順位		フランス	ポルトガル	日本	イングランド	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	U-17フランス代表		1 0 0	2 0 0	2 0 0	9	3	0	0	5	0	5
2	U-17ポルトガル代表	0 ● 1		3 0 1	2 0 1	6	2	0	1	5	3	2
3	U-17日本代表	0 ● 2	1 ● 3		4 0 0	3	1	0	2	5	5	0
4	U-17イングランド代表	0 ● 2	1 ● 2	0 ● 4		0	0	0	3	1	8	-7

○：勝ち(勝ち点3)、△：引き分け(勝ち点1)、●：負け(勝ち点0)

第1戦

U-17日本代表 1 (前半1-0 後半0-3) 3 U-17ポルトガル代表

●2023年9月6日 15:00 ●Stade de Beaulanc ●試合時間:90分

日本(監督:森山佳郎):[GK](12)荒木琉偉 [DF](2)柴田翔太郎<→79'(3)永野修都>(5)土屋權大(13)本多康太郎(16)吉永夢希<→62'(21)金子俊輔> [MF](8)佐藤龍之介(10)矢田龍之介<→79'(6)中島洋太郎>(17)山本丈偉<→70'(14)名和田我空>(19)川村楽人<→46'(18)宮川大輝>(20)西原源樹<→62'(7)望月耕平> [FW](11)高岡侑真<→62'(15)井上愛廉>

控え:(1)後藤亘(4)鈴木樟(9)山口太陽

得点 42' 土屋權大(1-0)、55'、66'、90+3' 失点(1-1)(1-2)(1-3)

第2戦

U-17日本代表 4 (前半2-0 後半2-0) 0 U-17イングランド代表

●2023年9月8日 15:00 ●Stade de Beaulanc ●試合時間:90分

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](3)永野修都<→18'(13)本多康太郎>(4)鈴木樟<→76'(2)柴田翔太郎>(16)吉永夢希<→62'(5)土屋權大>(21)金子俊輔 [MF](6)中島洋太郎<→76'(10)矢田龍之介>(7)望月耕平(18)宮川大輝(19)川村楽人<→62'(20)西原源樹> [FW](14)名和田我空<→62'(11)高岡侑真>(15)井上愛廉<→76'(9)山口太陽>

控え:(12)荒木琉偉(8)佐藤龍之介(17)山本丈偉

得点 9'、63' 井上愛廉(1-0)(3-0)、41' 川村楽人(2-0)、90+3' 柴田翔太郎(4-0)

第3戦

U-17日本代表 0 (前半0-1 後半0-1) 2 U-17フランス代表

●2023年9月10日 18:00 ●Stade de Beaulanc ●試合時間:90分

日本(監督:森山佳郎):[GK](1)後藤亘 [DF](2)柴田翔太郎(4)鈴木樟<→84'(7)望月耕平>(5)土屋權大(13)本多康太郎<→84'(21)金子俊輔> [MF](6)中島洋太郎(8)佐藤龍之介(17)山本丈偉<→64'(18)宮川大輝> [FW](9)山口太陽<→64'(15)井上愛廉>(11)高岡侑真(14)名和田我空<→55'(16)吉永夢希>

控え:(12)荒木琉偉(10)矢田龍之介(19)川村楽人(20)西原源樹

得点 4'、90+1' 失点(0-1)(0-2)

U-17日本代表 第25回 国際ユースサッカー in 新潟

【スタッフ】

○監督：廣山望(NCS) ○コーチ：平田礼次(NCS) ○アシスタントコーチ：高原良明(岡山学芸館高校) ○GKコーチ：井出大志(NCS) ○フィジカルコーチ：村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ：片桐央視(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	
GK	上林大誠	モンテディオ山形ユース	MF	川合徳孟	ジュビロ磐田U-18	
	小森春輝※1	浦和レッズユース		布施克真	日本大学藤沢高校	
	ピサノ・アレクサンドレ・モリス※2	名古屋グランパスU-18		長田叶羽	ガンバ大阪ユース	
DF	山田佳	前橋育英高校		山口豪太※3	昌平高校	
	木吹翔太	サンフレッチェ広島F.Cユース		加治佐海※2	川崎フロンターレU-18	
	江口拓真	ヴィッセル神戸U-18	FW	鈴木大馳※4	サガン鳥栖U-18	
	田中玲音	東京実業高校		前田勘太郎	横浜FCユース	
	佐藤海宏	鹿島アントラーズユース		神代慶人	ロアッソ熊本ユース	
	森壮一朗	名古屋グランパスU-18				
MF	小竹知恩	清水エスパルスユース				
	柚木創	流通経済大柏高校				
	西川宙希	セレッソ大阪U-18				

※1：ケガのため不参加
※2：追加招集
※3：体調不良のため不参加
※4：ケガのため途中離脱

<スケジュール>

9月12日 集合
練習試合 vs U-17北信越選抜
13日 トレーニング
14日 第25回 国際ユースサッカー in 新潟
vs U-17ベネズエラ代表(新潟市陸上競技場)
15日 トレーニング
16日 vs U-17ニュージーランド代表(新潟市陸上競技場)
17日 トレーニング
18日 vs U-17新潟選抜(デンカビッグスワンスタジアム)
解散

順位	ベネズエラ	日本	新潟選抜	ニュージーランド	勝	分	負	得点	失点	差	
1	U-17ベネズエラ代表	3 0 2	1 0 0	2 0 0	9	3	0	0	6	2	4
2	U-17日本代表	2 0 3	5 0 1	2 0 0	6	2	0	1	9	4	5
3	U-17新潟選抜	0 0 1	1 0 5	2 0 1	3	1	0	2	3	7	-4
4	U-17ニュージーランド代表	0 0 2	0 0 2	1 0 2	0	0	0	3	1	6	-5

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

第1戦

U-17日本代表 2 (前半0-1 後半2-2) 3 U-17ベネズエラ代表

●2023年9月14日 15:30 ●新潟市陸上競技場 ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](1)上林大誠 [DF](2)江口拓真<->61'(15)森社一朗>(3)田中玲音<->HT(6)木吹翔太>(4)山田佳(7)佐藤海宏 [MF](5)布施克真<->72'(14)加治佐海>(8)長田叶羽(10)柚木創<->80'(18)西川宙希>(13)小竹知恩 [FW](9)鈴木大馳<->HT(11)神代慶人>(16)前田勘太郎<->72'(17)川合徳孟>

控え:(12)ピサノ・アレクサンドレ幸冬堀尾

得点 2', 60', 85' 失点(0-1)(0-2)(1-3)、78' 神代慶人(1-2)、90+4' 西川宙希(2-3)

第2戦

U-17日本代表 2 (前半2-0 後半0-0) 0 ニュージーランド代表 U-17

●2023年9月16日 15:30 ●新潟市陸上競技場 ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](12)ピサノ・アレクサンドレ幸冬堀尾 [DF](4)山田佳<->60'(3)田中玲音>(6)木吹翔太(7)佐藤海宏<->HT(2)江口拓真>(15)森社一朗 [MF](8)長田叶羽<->60'(5)布施克真>(14)加治佐海(17)川合徳孟(18)西川宙希 [FW](11)神代慶人<->79'(13)小竹知恩>(16)前田勘太郎<->HT(9)鈴木大馳>60'(10)柚木創>

控え:(1)上林大誠

得点 26' 前田勘太郎(1-0)、43' 加治佐海(2-0)

第3戦

U-17日本代表 5 (前半4-0 後半1-1) 1 U-17新潟選抜

●2023年9月18日 15:30 ●デンカビッグスワンスタジアム ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](12)ピサノ・アレクサンドレ幸冬堀尾<->HT(1)上林大誠> [DF](4)山田佳(6)木吹翔太(7)佐藤海宏<->HT(2)江口拓真>(15)森社一朗 [MF](5)布施克真<->58'(17)川合徳孟>(8)長田叶羽(13)小竹知恩<->70'(18)西川宙希>(14)加治佐海<->79'(3)田中玲音> [FW](11)神代慶人(16)前田勘太郎<->HT(10)柚木創>

得点 16' 前田勘太郎(1-0)、19', 36', 90+1' 神代慶人(2-0)(3-0)(5-1)、44' 小竹知恩(4-0)、48' 失点(4-1)

警告 61' 木吹翔太、64' 川合徳孟

データボックス

U-15日本代表 EAFF U15男子選手権2023

【スタッフ】

○団長: 大平正軌(JFA技術委員) ○監督: 平田礼次(NCS)※9月7日から合流 ○コーチ: 木村康彦(JC)、西嶋弘之(JC) ○GKコーチ: 大橋昭好(JC) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(フィジカルフィットネスプロジェクト)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	松浦迅ビエラ	浜松開誠館中学校	MF	原湊士	サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース
	久富一寛	サガン鳥栖U-15唐津		加集啓太	ブルミエール徳島サッカークラブ
DF	赤沼想斗	刈谷JY	小川直澄	浦和レッズジュニアユース	
	渡邊春菜	東京ヴェルディジュニアユース	山田智輝	FC.フェルボール愛知	
	吉田温翔	スプレッド・イーグルFC函館	長野晴	千里丘FC	
	大谷新	坂井フェニックス丸岡JY	伏原侑空※2	神村学園中等部	
FW	鈴木颯真	RIP ACE SOCCER CLUB	信重亮二郎	サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース	
	坂口佑樹	神戸フットボールクラブジュニアユース	高裕徳	セブン能登ジュニアユース	
	クラトナ・シナル	セレッソ大阪U-15	佐々木瑛汰	北海道コンサドーレ札幌U-15	
	MF	小田切真佑※1	Uスポーツクラブ	浦川慶	AS.ラランジャ豊川U15
	大竹玲	JFAアカデミー福島U-15 EAST			

※1: コンディション不良のため不参加

※2: 追加召集

<スケジュール>

8月28日 集合
29日 トレーニング (Baisha Bay Training Center)
成田発、仁川経由、青島着
30日~9月1日 トレーニング (Baisha Bay Training Center)
EAFF U15男子選手権2023
2日 グループステージ第1戦 vs U-15グアム代表 (Qingdao Citizen Fitness Center Pitch1)
3日 トレーニング (Baisha Bay Training Center)
4日 グループステージ第2戦 vs U-15チャイニーズ・タイペイ代表 (Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2)
5日 グループステージ第3戦 vs U-15ホンコン・チャイナ代表 (Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2)
6日 トレーニング (Baisha Bay Training Center)
7日 準決勝 vs U-15韓国代表 (Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2)
8日 決勝 vs U-15中国代表 (Qingdao Youth Stadium)
9日 青島発、仁川経由、羽田着

■グループステージ(日本の結果のみ)

順位	グループB	日本	チャイニーズ・タイペイ	グアム	勝	分	負	得点	失点	差	
1	U-15日本代表	2 0 0	10 0 3	26 0 0	9	3	0	0	38	3	35
2	U-15チャイニーズ・タイペイ代表	0 0 2	2 0 1	19 0 1	6	2	0	1	21	4	17
3	U-15ホンコン・チャイナ代表	3 0 10	1 0 2	21 0 0	3	1	0	2	25	12	13
4	U-15グアム代表	0 0 26	1 0 19	0 0 21	0	0	0	3	1	66	-65

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ(日本の結果のみ)

<準決勝> U-15日本代表 4-0 U-15韓国代表
<決勝> U-15日本代表 0-0(PK2-4) U-15中国代表

グループステージ第1戦

U-15日本代表 26 (前半13-0 後半13-0) **0 U-15 Guam代表**

●2023年9月1日 15:00 ●Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2 ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)久富一寛 [DF](2)クララトナ・シェナル(3)赤沼想斗(4)渡邊春来<→46'(16)吉田遥翔>(14)坂口佑樹 [MF](8)小川直澄<→46'(18)大竹玲>(10)原湊士<→46'(7)加集啓太>(13)伏原利空(17)長野晴 [FW](11)佐々木瑛汰<→57'(19)高裕徳>(20)浦川慶<→57'(9)信重亮二朗>

控え:(12)松浦迅ビエラ(5)鈴木颯真(6)山田斉輝(15)大谷新

得点 2', 20', 36', 45+1' 原湊士(1-0)(6-0)(8-0)(13-0)、3' 小川直澄(2-0)、6', 22', 39', 45', 54' 浦川慶(3-0)(7-0)(9-0)(12-0)(17-0)、11' 伏原利空(4-0)、18', 40', 43' 佐々木瑛汰(5-0)(10-0)(11-0)、47', 65' 長野晴(14-0)(20-0)、48' 加集啓太(15-0)、53', 73' 吉田遥翔(16-0)(22-0)、61', 62', 72', 82', 88' 信重亮二朗(18-0)(19-0)(21-0)(24-0)(26-0)、78', 85' 高裕徳(23-0)(25-0)

グループステージ第3戦

U-15日本代表 10 (前半3-3 後半7-0) **3 U-15 Honkōn-China代表**

●2023年9月5日 10:00 ●Qingdao Baisha Bay Football Centre Pitch9 ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)久富一寛 [DF](2)クララトナ・シェナル(3)赤沼想斗(4)坂口佑樹<→78'(15)大谷新>(16)吉田遥翔 [MF](7)加集啓太<→63'(10)原湊士>(13)伏原利空(17)長野晴<→46'(8)小川直澄>(18)大竹玲 [FW](19)高裕徳<→68'(11)佐々木瑛汰>(20)浦川慶<→63'(9)信重亮二朗>

控え:(12)松浦迅ビエラ(4)渡邊春来(6)山田斉輝

得点 10', 14' 失点(0-1)(0-2)、34', 43', 45+1', 62' 高裕徳(1-2)(2-3)(3-3)(6-3)、38' 失点(1-3)、47', 90+2' 大竹玲(4-3)(10-3)、54' 浦川慶(5-3)、73' 原湊士(7-3)、77', 87' 佐々木瑛汰(8-3)(9-3)

警告 10' 久富一寛

決勝

U-15日本代表 0 (前半0-0 後半0-0) **0 U-15中国代表**
PK2-4

●2023年9月8日 19:00 ●Qingdao Youth Stadium ●試合時間:70分、PK

日本(監督:平田礼次):[GK](12)松浦迅ビエラ [DF](3)赤沼想斗(4)渡邊春来(15)大谷新(16)吉田遥翔 [MF](8)小川直澄(10)原湊士(13)伏原利空<→58'(19)高裕徳>(18)大竹玲<→84'(17)長野晴> [FW](9)信重亮二朗<→84'(20)浦川慶>(11)佐々木瑛汰<→72'(14)坂口佑樹>

控え:(1)久富一寛(5)鈴木颯真(6)山田斉輝

グループステージ第2戦

U-15日本代表 2 (前半2-0 後半0-0) **0 U-15チャイニーズ・タイペイ代表**

●2023年9月3日 10:00 ●Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2 ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](12)松浦迅ビエラ [DF](4)渡邊春来(5)鈴木颯真(15)大谷新(16)吉田遥翔 [MF](6)山田斉輝<→60'(17)長野晴>(7)加集啓太<→60'(14)坂口佑樹>(8)小川直澄(10)原湊士<→83'(13)伏原利空> [FW](9)信重亮二朗<→71'(11)佐々木瑛汰>(19)高裕徳<→71'(20)浦川慶>

控え:(1)久富一寛(2)クララトナ・シェナル(3)赤沼想斗

得点 11' 高裕徳(1-0)、21' 信重亮二朗(2-0)

準決勝

U-15日本代表 4 (前半2-0 後半2-0) **0 U-15韓国代表**

●2023年9月7日 10:00 ●Qingdao Citizen Fitness Center Pitch2 ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](12)松浦迅ビエラ [DF](2)クララトナ・シェナル(4)渡邊春来(14)坂口佑樹<→46'(15)大谷新>(16)吉田遥翔 [MF](8)小川直澄<→74'(17)長野晴>(10)原湊士(13)伏原利空<→57'(19)高裕徳>(18)大竹玲<→82'(6)山田斉輝> [FW](9)信重亮二朗<→74'(20)浦川慶>(11)佐々木瑛汰

控え:(1)久富一寛(3)赤沼想斗(7)加集啓太

得点 27' 渡邊春来(1-0)、33' 原湊士(2-0)、65' 高裕徳(3-0)、78' 浦川慶(4-0)

U-15日本代表候補 国内キャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

【スタッフ】

○統括:影山雅永(JFAユース育成ダイレクター) ○監督:平田礼次(NCS) ○コーチ:星原隆昭(JFAユース育成サブダイレクター)、城和憲(JFAユース育成サブダイレクター)、鈴木貴浩(JC)、三浦佑介(JC)、大畑開(JC)、本吉剛(JC) ○GKコーチ:井出大志(NCS)、高原寿康(NCS) ○フィジカルコーチ:津越智雄(フィジカルフィットネスプロジェクト) ○ドクター:川口航平(東京大学医学部附属病院) ○アスレティックトレーナー:堀口恵一(JFAメディカルセンター) ○総務:三上剛史(JFA技術部強化グループ)、澤田雄(JFA技術部育成グループ)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	渡邊麻舟	FC東京U-15 深川	DF	高橋温郎	浦和レッズジュニアユース	FW	川端彪英	京都サンガF.C.U-15
	宮本煌大	名古屋グランパスU-15		元砂梨羽(ウデバ)	フットボールクラブフレスカ神戸		奥田悠真	川崎フロンターレU-15生田
	山岸克斗	横浜FCジュニアユース		渡部友翔※2	ソレソン熊本U-15		白須裕基	FC LAVIDA
	新堀恵太	FC東京U-15 むさし	MF	山縣優翔※1	静岡学園高校		山崎琉偉	アルビレックス新潟U-15
	松浦大翔	アルビレックス新潟U-15		岩崎亮佑	横浜FCジュニアユース		四日裕歩	横浜FCジュニアユース
	佐藤陸斗	モンテディオ山形ジュニアユース村山		阿出川琥吾	柏レイソルU-15		井部結斗	FC東京U-15 むさし
DF	高嶋蒼和	ヴィッセル神戸U-18		山下翔音	ヴィッセル神戸U-15		加藤雄大	三菱養和調布ジュニアユース
	佐藤桜久	柏レイソルU-15		太田大翔	ソレソン熊本U-15		安西来起	さぬき市立さぬき南中学校
	横井佑弥	ガンバ大阪ジュニアユース		小林柚希	大宮アルディージャU15	※1: コンディション不良のため不参加		
	小川翔太	川崎フロンターレU-15生田		椿渥裕	横浜FCジュニアユース	※2: 追加招集		
	オディケ・テソソ	JFAアカデミー福島U-15 EAST		下吉洗平	東京ヴェルディジュニアユース	<スケジュール>		
	西村水岐	ヴィッセル神戸U-15		神田泰斗	大宮アルディージャU15	9月3日	前泊組選手宿舎集合	
	竹野楓太	神村学園中等部		三上瑛大	川崎フロンターレU-15生田	4日	当日組選手宿舎集合	
	吉川晴翔	柏レイソルU-15		武本匠平	アビスパ福岡U-15		トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)	
	児玉一成	京都サンガF.C.U-15		吉野啓太	クマガヤサッカースポーツクラブ	5日~6日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)	
	藤田明日翔	川崎フロンターレU-15生田		中村龍	VIVAIO船橋SC	7日	トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)	
	白男川幹斗※1	名古屋グランパスU-15		姫野誠	ジェフユナイテッド市原・千葉U-15		解散	
	森井莉人	サンフレッチェ広島F.C.ジュニアユース		松本瑛太※2	FC多摩ジュニアユース			

なでしこジャパン(日本女子代表) 国際親善試合

※76ページに関連記事あり

【スタッフ】

○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS)、寺口謙介(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下杏也加	INAC神戸レオネッサ	FP	林穂之香	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)
	平尾知佳	アルビレックス新潟レディース		南萌華	ASローマ(ITA)
	田中桃子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		長野風花	リバプールFC(ENG)
FP	熊谷紗希	ASローマ(ITA)	三浦成美	ノースカロライナ・カレッジ(USA)	
	猫本光	三菱重工浦和レッズレディース	植木理子	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	田中美南	INAC神戸レオネッサ	宮澤ひなた	無所属→マンチェスター・ユナイテッド(ENG)	
	三宅史織	INAC神戸レオネッサ	宝田沙織	リンシェーピングFC(SWE)	
	清水梨紗	ウェストハム・ユナイテッド(ENG)	高橋はな	三菱重工浦和レッズレディース	
	清家貴子	三菱重工浦和レッズレディース	遠藤純	エンジェル・シティFC(USA)	
	守屋都弥	INAC神戸レオネッサ	石川璃音	三菱重工浦和レッズレディース	
	長谷川唯	マンチェスター・シティ(ENG)	藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	杉田紀和	ポートランド・ソーンズFC(USA)			

<スケジュール>

9月18日~21日 トレーニング(本城陸上競技場)
 9月22日 公式トレーニング(北九州スタジアム)
 23日 国際親善試合 vs アルゼンチン女子代表(北九州スタジアム)
 24日~25日 トレーニング(本城陸上競技場)
 26日 トレーニング(本城陸上競技場)
 練習試合 vs アルゼンチン女子代表(本城陸上競技場)

ITA: イタリア, ENG: イングランド, USA: アメリカ, SWE: スウェーデン

■アルゼンチン女子代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	バニナ・コレア	ROSARIO CENTRAL	FP	ソフィア・ブラウン	LEON MEXICO
	アビガイル・チャベス	HURACAN		カタリナ・プリモ	RIVER PLATE
FP	マリアナ・ラロケッテ	ORLANDO PRIDE	ダイアナ・ファルファン	UAI URQUIZA	
	アドリアナ・サクス	RACING	パロマ・ファヒアノ	RIVER PLATE	
	ロミナ・ヌニェス	UAI URQUIZA	ダリラ・イッポリト	POMIGLIANO	
	エリカ・ロニグロ	ROSARIO CENTRAL	マリセル・ペレイラ	SAN LORENZO	
	アルダナ・コメッティ	MADRID CFF	パウリナ・グラマリア	RED BULL BRAGANTINO	
	ネレア・アグエロ	GRANADA	カタリナ・ロージェロネ	CALIFORNIA STATE UNIVERSITY BAKERSFIELD	
	ロレナ・ベニテス	PALMEIRAS	キアラ・シンガラ	UNIVERSIDAD ALABAMA	

<スケジュール>

9月22日 公式トレーニング(北九州スタジアム)
 23日 国際親善試合 vs なでしこジャパン(北九州スタジアム)
 26日 練習試合 vs なでしこジャパン(本城陸上競技場)

国際親善試合

なでしこジャパン 8 (前半4-0 後半4-0) 0 アルゼンチン女子代表

●2023年9月23日 12:03 ●北九州スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]オ・ヒョンジョン(KOR) [副審]バク・ミスク(KOR)/ヤン・ソニョン(KOR) [第4の審判員]チャ・ミンジ(KOR) ●マッチコミッショナー:北村俊 ●観衆:7,265人

日本(監督:池田太):[GK](21)平尾知佳 [FP](2)清水梨紗(3)南萌華(4)熊谷紗希<-85'(20)三浦成美>(7)宮澤ひなた<-60'(17)清家貴子>(8)猫本光<-HT(6)杉田紀和>(10)長野風花<-60'(16)林穂之香>(11)田中美南<-HT(9)植木理子>(12)高橋はな(13)遠藤純<-71'(5)三宅史織>(14)長谷川唯

控え:(1)山下杏也加(18)田中桃子(15)藤野あおば(19)守屋都弥(22)宝田沙織(23)石川璃音

アルゼンチン(監督:ヘルマン・ホルタノ):[GK](1)バニナ・コレア [DF](2)アドリアナ・サクス(6)アルダナ・コメッティ(7)ロミナ・ヌニェス(13)ソフィア・ブラウン [MF](8)ダイアナ・ファルファン<-HT(4)ネレア・アグエロ>(10)ダリラ・イッポリト<-71'(5)カタリナ・ロージェロネ>(16)ロレナ・ベニテス<-71'(17)マリセル・ペレイラ> [FW](9)パウリナ・グラマリア<-87'(14)パロマ・ファヒアノ>(19)マリアナ・ラロケッテ<-HT(11)カタリナ・プリモ>(21)エリカ・ロニグロ<-HT(20)キアラ・シンガラ>

控え:(12)アビガイル・チャベス

得点 [日本]2'田中美南(1-0)、10'、39'長谷川唯(2-0)(4-0)、25'高橋はな(3-0)、61'、90+2'清家貴子(5-0)(8-0)、66'杉田紀和(6-0)、80'植木理子(7-0)

警告 [アルゼンチン]9'アルダナ・コメッティ、79'ロミナ・ヌニェス

U-19日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

【スタッフ】

○監督: 狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ: 岡本三代(NCS) ○GKコーチ: 小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ: 中西健一郎(静岡産業大学) ○テクニカルスタッフ: 見原慧(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大熊西	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	MF	角田楓佳	三菱重工浦和レッズレディース
	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ		早間美空	十文字高校
	カワ・ツシカ姫	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
DF	大箸優子	東洋大学	大島暖葉※1	大宮アルディージャ VENTUS	
	柏村菜那	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	氏原里穂菜	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	
	米田博美	セレッソ大阪ヤンマーレディース	森原藍	INAC神戸レオネッサ	
	中谷莉奈	セレッソ大阪ヤンマーレディース	和田麻希	セレッソ大阪ヤンマーレディース	
	池上聖七	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	楢井美和子	INAC神戸レオネッサ	
	吉岡心	JFAアカデミー福島	板村真央	JFAアカデミー福島	
	岡村来佳	三菱重工浦和レッズレディースユース	藤崎智子	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	白垣うの	セレッソ大阪ヤンマーレディース	粟本悠加	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18	
MF	林愛花	INAC神戸レオネッサ			
	笹井一愛	ノジマステラ神奈川相模原			

<スケジュール>

9月4日~5日 トレーニング
 6日 練習試合 vs ふたば未来学園高(男子)(Jヴィレッジスタジアム)
 7日 トレーニング

※1: 追加招集

フットサル日本代表 ブラジル遠征(Futsal Nations Cup)

【スタッフ】

○団長: 小西鉄平 (JFAフットサルテクニカルダイレクター) ○監督: 木暮賢一郎 (NCS) ○コーチ: 高橋健介 (NCS) ○GKコーチ: 内山慶太郎 (NCS) ○コーチ/フィジカルコーチ: 馬場源徳 (NCS) ○テクニカルスタッフ: 林誠晃 (JFAフットサル分析プロジェクト/東京国際大学)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	黒本ギレルメ	しながわシティ	FP	FIXO 高橋響※1	Y.S.C.C.横浜
	田淵広史	名古屋オーシャンズ		FIXO 石田健太郎	バルドラル浦安
FP	ALA 吉川智貴	名古屋オーシャンズ		ALA 堤優太	Y.S.C.C.横浜
	FIXO オリベイラ・アルトゥール	深圳南嶺鉄狼 (CHN)		ALA 金澤空	名古屋オーシャンズ
	ALA 逸見勝利ラファエル	フラガ (POR)		ALA 山中翔斗	ベスカドーラ町田
	PIVO 平田ネットオマサノリ	インダストリアス サンタ コロマ (ESP)		ALA 原田快	FCバルセロナ B (ESP)
	ALA FIXO 上村充哉	立川アスレティックFC		FIXO 内村俊太※2	湘南ベルマーレ
	ALA 内田隼太	ペニスコラス (ESP)	CHN: 中国, POR: ポルトガル, ESP: スペイン		
	PIVO 清水和也	名古屋オーシャンズ	※1: コンディショニング不良のため不参加		
	FIXO 伊藤圭汰	ベスカドーラ町田	※2: 追加招集		

<スケジュール>

9月11日 羽田発、ドバイ経由、サンパウロ着
12日 トレーニング
13日 Futsal Nations Cup
グループステージ第1戦 vs フットサルブラジル代表 (ARENA SOROCABA)
14日 トレーニング
15日 グループステージ第2戦 vs フットサルサウジアラビア代表 (ARENA SOROCABA)
16日 準決勝 vs フットサルイラン代表 (ARENA SOROCABA)
17日 3位決定戦 vs フットサルパラグアイ代表 (ARENA SOROCABA)
18日 サンパウロ発、ドバイ経由、成田着

グループステージ第1戦

フットサル日本代表 0 (第1ピリオド0-0 第2ピリオド0-2) 2 フットサルブラジル代表

●2023年9月13日 20:30 ●Arena Sorocaba ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	2	○	黒本ギレルメ	FP	7	△	金澤空
FP	5	○	オリベイラ・アルトゥール	FP	8	△	堤優太
FP	6	○	吉川智貴	FP	11	△	清水和也
FP	9	○	平田ネットオマサノリ	FP	12	△	原田快
FP	10	○	逸見勝利ラファエル	FP	13	△	上村充哉
GK	1	○	田淵広史	FP	14	△	内田隼太
FP	3	△	内村俊太				
FP	4	△	石田健太郎			監督	木暮賢一郎

得点 23', 35' 失点 (0-1) (0-2)

○:先発, △:交代出場

グループステージ第2戦

フットサル日本代表 2 (第1ピリオド0-0 第2ピリオド2-1) 1 フットサルサウジアラビア代表

●2023年9月15日 15:00 ●Arena Sorocaba ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	田淵広史	FP	9	△	平田ネットオマサノリ
FP	4	○	石田健太郎	FP	10	△	逸見勝利ラファエル
FP	5	○	オリベイラ・アルトゥール	FP	11	△	清水和也
FP	6	○	吉川智貴	FP	13	△	上村充哉
FP	12	○	原田快	FP	14	△	内田隼太
GK	2	○	黒本ギレルメ	FP	15	△	伊藤圭汰
FP	7	△	金澤空				
FP	8	△	堤優太			監督	木暮賢一郎

得点 21'オリベイラ・アルトゥール(1-0)、33'失点(1-1)、33'堤優太(2-1)

○:先発, △:交代出場

準決勝

フットサル日本代表 0 (第1ピリオド0-0 第2ピリオド0-2) 2 フットサルイラン代表

●2023年9月16日 13:00 ●Arena Sorocaba ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	2	○	黒本ギレルメ	FP	9	△	平田ネットオマサノリ
FP	4	○	石田健太郎	FP	10	△	逸見勝利ラファエル
FP	5	○	オリベイラ・アルトゥール	FP	11	△	清水和也
FP	6	○	吉川智貴	FP	3	△	内村俊太
FP	12	○	原田快	FP	14	△	内田隼太
GK	1	○	田淵広史	FP	15	△	伊藤圭汰
FP	7	△	金澤空				
FP	8	△	堤優太			監督	木暮賢一郎

得点 33', 34' 失点 (0-1) (0-2)

○:先発, △:交代出場

3位決定戦

フットサル日本代表 3 (第1ピリオド2-4 第2ピリオド1-3) 7 フットサルパラグアイ代表

●2023年9月17日 7:00 ●Arena Sorocaba ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	2	○	黒本ギレルメ	FP	9	△	平田ネットオマサノリ
FP	4	○	石田健太郎	FP	10	△	逸見勝利ラファエル
FP	8	○	堤優太	FP	12	△	原田快
FP	11	○	清水和也	FP	13	△	上村充哉
FP	14	○	内田隼太	FP	15	△	伊藤圭汰
GK	1	○	田淵広史	FP	16	△	山中翔斗
FP	6	△	吉川智貴				
FP	7	△	金澤空			監督	木暮賢一郎

得点 1'内田隼太(1-0)、3'、6'、8'、17'、22'、32'、38'失点(1-1)(2-2)(2-3)(2-4)(2-5)(3-6)(3-7)、3'、32'清水和也(2-1)(3-5)

○:先発, △:交代出場

フットサル日本女子代表 海外遠征(NSDF Women's Futsal Championship 2023)

【スタッフ】

○監督: 須賀雄大 (NCS) ○コーチ: 藤田安澄 (湘南ベルマーレ) ○GKコーチ: 富澤孝 (バルドラル浦安/東急SレイエスFC) ○フィジカルコーチ: 大森知 (フウガドールすみだ/東急SレイエスFC)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	井上ねね	立川アスレティックFCレディース	FP	松本直美	バルドラル浦安ラス・ボニータス
	須藤優理亜	フウガドールすみだレディース		高尾茜利	SWH Ladies西宮Futsal Club
FP	篠井りさ	バルドラル浦安ラス・ボニータス		伊藤沙世	アルコ神戸
	網城安奈	SWH Ladies西宮Futsal Club		追野沙羅	SWH Ladies西宮Futsal Club
	宮原ゆかり	バルドラル浦安ラス・ボニータス		池内天紀	福井丸岡RUCK
	伊藤果穂	バルドラル浦安ラス・ボニータス		山川里佳子	アルコ神戸
	江口未珂	バルドラル浦安ラス・ボニータス		中島葉月	アルコ神戸
	四井沙樹	Burela FS (ESP)	ESP: スペイン		
	江川涼	SWH Ladies西宮Futsal Club			

<スケジュール>

8月30日 集合
31日 成田発、バンコク着
9月1日~2日 トレーニング (Terminal21 Hall)
3日 NSDF Women's Futsal Championship 2023
グループステージ第1戦 vs フットサルインドネシア女子代表 (Terminal21 Hall)
4日 トレーニング (Terminal21 Hall)
5日 グループステージ第2戦 vs フットサル中国女子代表 (Terminal21 Hall)
6日 トレーニング (Terminal21 Hall)
7日 準決勝 vs フットサルバーレーン女子代表 (Terminal21 Hall)
8日 トレーニング (Terminal21 Hall)
9日 決勝 vs フットサルタイ女子代表 (Terminal21 Hall)
10日 バンコク発、成田着

グループステージ第1戦

フットサル 日本女子代表 8 (第1ピリオド5-0 第2ピリオド3-0) 0 フットサル インドネシア女子代表

●2023年9月3日 15:00 ●Terminal21 Hall ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	9	△	江川涼
FP	11	○	篠井りさ	FP	13	△	高尾西利
FP	8	○	宮原ゆかり	FP	5	△	伊藤沙世
FP	15	○	伊藤果穂	FP	7	△	追野沙羅
FP	14	○	松本直美	FP	16	△	池内天紀
GK	2	△	須藤優理亜	FP	12	△	山川里佳子
FP	10	△	網城安奈	FP	6	△	中島菜月
FP	3	△	江口未珂				
FP	4	△	四井沙樹	監督			須賀雄大

得点 2' 篠井りさ(1-0)、6'、15' 江川涼(2-0)(4-0)、9' 伊藤沙世(3-0)、15' 江口未珂(5-0)、26' 伊藤果穂(6-0)、28'、39' 高尾西利(7-0)(8-0)

○:先発、△:交代出場

準決勝

フットサル 日本女子代表 9 (第1ピリオド4-0 第2ピリオド5-1) 1 フットサル パーレーン女子代表

●2023年9月7日 15:00 ●Terminal21 Hall ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	9	△	江川涼
FP	11	○	篠井りさ	FP	13	△	高尾西利
FP	4	○	四井沙樹	FP	5	△	伊藤沙世
FP	15	○	伊藤果穂	FP	7	△	追野沙羅
FP	14	○	松本直美	FP	8	△	宮原ゆかり
GK	2	△	須藤優理亜	FP	12	△	山川里佳子
FP	10	△	網城安奈	FP	6	△	中島菜月
FP	3	△	江口未珂				
FP	16	△	池内天紀	監督			須賀雄大

得点 12'、13'、28' 松本直美(1-0)(2-0)(8-1)、13'、26' 江口未珂(3-0)(6-1)、19' 宮原ゆかり(4-0)、22'、35' 江川涼(5-0)(9-1)、25' 失点(5-1)、27' 伊藤果穂(7-1)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第2戦

フットサル 日本女子代表 8 (第1ピリオド5-0 第2ピリオド3-0) 0 フットサル 中国女子代表

●2023年9月5日 15:00 ●Terminal21 Hall ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	2	○	須藤優理亜	FP	9	△	江川涼
FP	11	○	篠井りさ	FP	13	△	高尾西利
FP	16	○	池内天紀	FP	5	△	伊藤沙世
FP	15	○	伊藤果穂	FP	7	△	追野沙羅
FP	14	○	松本直美	FP	8	△	宮原ゆかり
GK	1	△	井上ねね	FP	12	△	山川里佳子
FP	10	△	網城安奈	FP	6	△	中島菜月
FP	3	△	江口未珂				
FP	4	△	四井沙樹	監督			須賀雄大

得点 3' 伊藤果穂(1-0)、5' 追野沙羅(2-0)、10' 松本直美(3-0)、12' 篠井りさ(4-0)、17' 中島菜月(5-0)、23' 江川涼(6-0)、36' オウンゴール(7-0)、40' 伊藤沙世(8-0)

○:先発、△:交代出場

決勝

フットサル 日本女子代表 5 (第1ピリオド1-1 第2ピリオド4-1) 2 フットサル タイ女子代表

●2023年9月9日 17:00 ●Terminal21 Hall ●試合時間:40分(プレーイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	9	△	江川涼
FP	11	○	篠井りさ	FP	13	△	高尾西利
FP	4	○	四井沙樹	FP	5	△	伊藤沙世
FP	15	○	伊藤果穂	FP	7	△	追野沙羅
FP	14	○	松本直美	FP	8	△	宮原ゆかり
GK	2	△	須藤優理亜	FP	12	△	山川里佳子
FP	10	△	網城安奈	FP	6	△	中島菜月
FP	3	△	江口未珂				
FP	16	△	池内天紀	監督			須賀雄大

得点 6' 失点(0-1)、14' 松本直美(1-1)、21' 宮原ゆかり(2-1)、30' 篠井りさ(3-1)、32' 失点(3-2)、33' 江川涼(4-2)、34' 江口未珂(5-2)

○:先発、△:交代出場

全日本大学選抜 DENSO CUP SOCCER 第22回大学日韓(韓日)定期戦

[スタッフ]

○団長:櫻井友(一般財団法人全日本大学サッカー連盟 常務理事/事務局) ○テクニカルダイレクター:佐藤健(一般財団法人全日本大学サッカー連盟 強化育成部会/中央大学) ○監督:東海林毅(城西大学) ○コーチ:山西尊裕(常葉大学) ○GKコーチ:時久省吾(京都産業大学) ○学生アナリスト:服部健世(法政大学) ○ドクター:須藤彰仁(つくばセントラル病院) ○トレーナー:島中陽介(フリーランス) ○エキップ:五十嵐泰仁(ミズノ株式会社) ○総務:内野亮汰(一般財団法人全日本大学サッカー連盟 事務局)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	上林豪	明治大学	DF	モヨ・マルコム 強志	法政大学	MF	長尾優斗	関西学院大学
	デューフエマニエル 凛太郎	流通経済大学		諏訪間幸成	筑波大学		中村草太	明治大学
DF	岡哲平	明治大学	MF	坂岸寛大	新潟医療福祉大学		古長谷千博	常葉大学
	牛澤健	中央大学		食野壮磨	京都産業大学		藤井海和	流通経済大学
	山田裕翔	国士舘大学		中川敦球	法政大学	FW	小湊絆	法政大学
	濃野公人	関西学院大学		美藤倫	関西学院大学		古山兼悟	大阪体育大学
	岡田大和	福岡大学		山内日向汰	桐蔭横浜大学			

<スケジュール>

9月24日 DENSO CUP SOCCER 第22回大学日韓(韓日)定期戦 vs 全韓国大学選抜(安養総合運動場)

全日本大学選抜 2 (前半0-0 後半2-1) 1 全韓国大学選抜

●2023年9月24日 11:30 ●安養総合運動場 ●試合時間:90分

日本(監督:東海林毅):[GK](1)上林豪 [DF](3)岡哲平(4)牛澤健(5)山田裕翔(16)濃野公人 [MF](7)中川敦球<-75'(18)岡田大和>(8)美藤倫(14)長尾優斗(17)中村草太(20)古長谷千博<-HT(10)山内日向汰> [FW](9)小湊絆<-75'(11)古山兼悟>

控え:(12)デューフエマニエル 凛太郎(2)坂岸寛大(6)食野壮磨(22)藤井海和(23)モヨ・マルコム 強志(24)諏訪間幸成

得点 49' 山内日向汰(1-0)、57' 失点(1-1)、89' 長尾優斗(2-1)

[表彰選手]

松本健一賞:岡哲平
優秀選手賞:KIM DONG JIN
優秀選手賞:AHN JAE JUN
優秀選手賞:中村草太
優秀選手賞:山内日向汰

U-20全日本大学選抜 アジア大学サッカートーナメント

[スタッフ]

○テクニカルダイレクター:吉田卓史(一般財団法人全日本大学サッカー連盟強化育成部会) ○監督:若井研治(福山平成大学) ○コーチ:川津博一(日本大学) ○学生アナリスト:梁允虎(桐蔭横浜大学) ○ドクター:市野義信(医療法人川久保病院) ○トレーナー:島中陽介(フリーランス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	佐藤瑠星	熊本県立大津高校	MF	加藤玄	名古屋U-18	FW	中山桂吾	高川学園高校
	波多野崇史	広島Y		植木颯	日本大学藤沢富校		後藤寛斗	京都共栄学園高校
DF	田口空我	流通経済大学付属柏高校	MF	島野怜	仙台育英学園高校		森本空斗	広島Y
	佐藤颯真	東海学園高校		松永颯汰	静岡学園高校			
	安藤青岐	鳥栖U-18		林晴己	高川学園高校			
	小林泰太	鹿島Y		香取潤	広島Y			
	山之内佑成	JFAアカデミー		渡谷諒太	流通経済大学付属柏高校			
	竹田航進	浜松開誠館高校		藤森颯太	青森山田高校			
	藤井齋	藤枝東高校		菅野聖斗	東北高校			

<スケジュール>

9月7日 アジア大学サッカートーナメント グループリーグ第1戦 vs 韓国
8日 グループリーグ第2戦 vs マレーシア
10日 グループリーグ第3戦 vs 台湾
12日 決勝 vs 韓国B

第1戦				
U-20全日本 大学選抜	0	(前半0-0 後半0-0)	0	韓国 I
●2023年9月7日 10:00 ●大韓民国 太白市 ●試合時間:90分				
日本(監督:若井研治):[GK](12)波多野崇史 [DF](3)佐藤颯真(4)安藤寿岐(7)小林菜太(23)藤井新 [MF](5)加藤玄(13)林晴己(14)香取潤(16)渋谷諒太<→72'(17)藤森颯太>(20)菅野聖斗<→72'(11)後藤寛斗> [FW](8)中山桂吾				
控え:(1)佐藤瑠星(2)田口空我(6)植木颯(9)鳥野怜(10)松永颯汰(18)山之内佑成(19)森本空斗(22)竹田航進				

第2戦				
U-20全日本 大学選抜	3	(前半2-0 後半1-0)	0	マレーシア
●2023年9月8日 10:00 ●大韓民国 太白市 ●試合時間:90分				
日本(監督:若井研治):[GK](1)佐藤瑠星 [DF](2)田口空我(16)渋谷諒太<→60'(4)安藤寿岐>(18)山之内佑成(22)竹田航進 [MF](6)植木颯(9)鳥野怜(10)松永颯汰(17)藤森颯太 [FW](11)後藤寛斗(19)森本空斗				
控え:(12)波多野崇史(3)佐藤颯真(5)加藤玄(7)小林菜太(8)中山桂吾(13)林晴己(14)香取潤(20)菅野聖斗(23)藤井新				
得点 29' 鳥野怜(1-0)、45+1' 植木颯(2-0)、85' 後藤寛斗(3-0)				

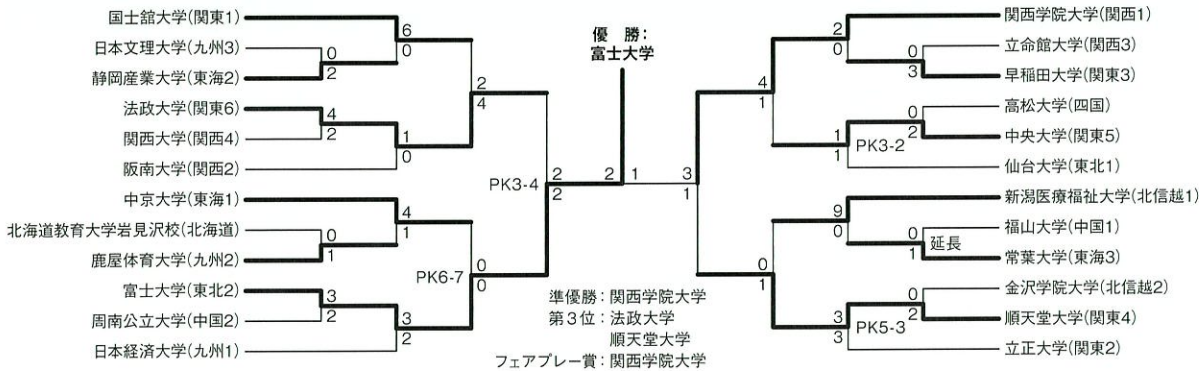
第3戦				
U-20全日本 大学選抜	10	(前半5-0 後半5-0)	0	台湾
●2023年9月10日 10:00 ●大韓民国 太白市 ●試合時間:90分				
日本(監督:若井研治):[GK](1)佐藤瑠星 [DF](2)田口空我(16)渋谷諒太<→HT(6)植木颯>(22)竹田航進<→HT(7)小林菜太>(23)藤井新 [MF](5)加藤玄(9)鳥野怜<→HT(14)香取潤>(13)林晴己(17)藤森颯太<→HT(10)松永颯汰> [FW](11)後藤寛斗<→HT(19)森本空斗>(20)菅野聖斗<→HT(8)中山桂吾>				
控え:(12)波多野崇史(3)佐藤颯真(4)安藤寿岐(18)山之内佑成				
得点 6' 後藤寛斗(1-0)、19' 鳥野怜(2-0)、28'、30' 加藤玄(3-0)(4-0)、45' 林晴己(5-0)、63'、75'、76' 中山桂吾(6-0)(8-0)(9-0)、74' 森本空斗(7-0)、87' 田口空我(10-0)				

決勝				
U-20全日本 大学選抜	2	(前半1-1 後半1-0)	1	韓国 B
●2023年9月12日 14:00 ●大韓民国 太白市 ●試合時間:90分				
日本(監督:若井研治):[GK](12)波多野崇史 [DF](3)佐藤颯真(4)安藤寿岐(7)小林菜太(18)山之内佑成 [MF](6)植木颯(9)鳥野怜(10)松永颯汰(13)林晴己<→65'(5)加藤玄>(17)藤森颯太 [FW](8)中山桂吾<→87'(22)竹田航進>				
控え:(1)佐藤瑠星(2)田口空我(11)後藤寛斗(14)香取潤(16)渋谷諒太(19)森本空斗(20)菅野聖斗(23)藤井新				
得点 22' 中山桂吾(1-0)、45+1' 失点(1-1)、54' 松永颯汰(2-1)				

2023年度第47回総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント

一般財団法人全日本大学サッカー連盟とJFAが主催する本大会は、JFAならびに全日本大学サッカー連盟に登録されている単独大学で構成されたチームで、それぞれに登録している第1種選手に出場資格が与えられた。今大会は9月1日~10日に24チームが参加して宮城県と岩手県で開催された。

※大会レポートは78ページに掲載



準決勝				
法政大学	2	(前半0-0 後半2-2 延長0-0 延後0-0)	2	富士大学
●2023年9月8日 13:00 ●セイホクパーク石巻フットボール場 ●試合時間:90分、延長20分、PK ●審判員:[主審]辛島宗烈 [副審]千條祐司/岩佐丈 [第4の審判員]佐久間遼 ●マッチコミッショナー:草野修治 ●観衆:213人				
法政(監督:井上平):[GK](1)中川真 [DF](3)木村恵風(6)松岡迅<→HT(5)渡邊光陽>(17)モヨ・マルコム強志(18)日高華杜 [MF](8)渡邊綾平(11)中川敦瑛(15)損斐俊斗<→77'(4)細谷航平>(24)小池直矢<→58'(29)青木俊輔>(25)中村翼<→58'(23)松村晃助> [FW](27)小湊絆<→58'(9)久保征一>				
控え:(21)川崎淳(14)吉尾虹樹(16)島田春人(20)相澤ディビッド				
富士(監督:高鷹雅也):[GK](25)折口輝樹 [DF](2)藪中海皇(3)安野天士(15)金野泰治(19)奥野陸生 [MF](7)芝西大希<→86'(11)松田空良>(14)千葉希(30)本宮周東<→51'(17)中村太紀> [FW](10)菅原新<→74'(22)白和勇心>(23)佐々木真之介<→86'(9)原田遥翔>(24)寺崎朋範				
控え:(18)福山智仁(4)大坪十維(6)阿部柊斗(28)西柳弥(29)伊東諭良				
得点 [法政]70' 渡邊光陽(1-0)、74' 損斐俊斗(2-0) [富士]80' 芝西大希(2-1)、90+4' 松田空良(2-2)				
警告 [法政]25' 小湊絆、81' 中川真 [富士]11' 本宮周東、37' 佐々木真之介				
PK [法政](9)○(18)×(11)○(4)○(29)× [富士]先(19)○(15)○(3)○(22)○(2)×				

準決勝				
順天堂大学	1	(前半1-1 後半0-2)	3	関西学院大学
●2023年9月8日 13:00 ●いわぎんスタジアムB ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]國吉真吾 [副審]遠藤尊流/大森永月 [第4の審判員]西坂太貴 ●マッチコミッショナー:三田和典 ●観衆:163人				
順天堂(監督:島壽佑):[GK](1)金田大和 [DF](2)高貴太瑛(3)三輪椋平(4)井上太聖(23)松本愛己<→82'(19)入江玲介>(29)今井啓太<→76'(20)宮川歩己> [MF](5)坂本琉維(8)栗原諒<→56'(7)岩井琢朗>(11)梶原豊<→HT(10)小林里駆>(13)高木駿(16)福田凌<→85'(15)抜水昂太>				
控え:(21)後藤佑介(18)樋口堅大(24)尾形陸(27)田口輝一				
関西学院(監督:高橋宏次郎):[GK](21)宮本流維 [DF](2)山本楓大<→82'(13)村上景司>(7)濃野公人(26)野中陸(27)末次晃也 [MF](6)長尾優斗(14)浦道翔<→HT(10)倍井謙>(17)高木大輝(18)森雄大<→75'(15)塩崎彰>(25)佐伯清之助<→59'(23)美藤倫也 [FW](19)小西春輝				
控え:(22)成田三太郎(9)渡邊颯太(11)望月想空(20)吉田有志(32)吉田東也				
得点 [順天堂]17' 栗原諒(1-1) [関西学院]9' 山本楓大(0-1)、74' 小西春輝(1-2)、84' 美藤倫(1-3)				
警告 [順天堂]27' 三輪椋平				

<日本文理大学> 監督:西野昇平

吉永緑心、後藤大輝、宮本規央、上野瑛太、竹下真矢、原田幸汰、竹内悠力、中川昂大、郡司島樹、角田幸志狼、平松孝汰朗、木下颯、大久保彩斗、竹内崇士、山口航平、垣内太陽、木本蒼翔、佐藤歩夢、横田翔也、長濱昇太郎、佐藤喜一、川原琉翔、渡部広也、和田俊星、小野大斗、竹谷嵩登、菊池陸斗、小澤颯太、芝崎翼、波多野太一、阿部真尋、田中優佑、菊口和希

日本スポーツマスターズ2023 福井大会(サッカー競技)

本大会は、(公財)日本スポーツ協会、福井県、(公財)福井県スポーツ協会、坂井市およびJFAの主催で、9月16日～19日に福井県で開催された。日本在住者で、1988(昭和63)年4月1日以前生まれの2023年度JFA登録選手によって構成されたチームに出場資格が与えられた(ただし、令和5年(2023年)特別国民体育大会サッカー競技会に選手として参加する者は、本大会に選手として参加できない)

※大会レポートは79ページに掲載

■1次ラウンド

順位	グループA	盛岡	坂井	韓国	札幌	勝5点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	盛岡ゼブラO-35 (東北1/岩手)		1○0	4○0	1○0	9	3	0	0	0	6	0	6
2	坂井フェニックスサッカー クラブO-35(開催地/福井)	0●1		2○0	3○0	6	2	0	0	1	5	1	4
3	韓国 (日韓スポーツ交流)	0●4	0●2		2○1	3	1	0	0	2	2	7	-5
4	札幌 Shoebill FC (北海道)	0●1	0●3	1●2		0	0	0	0	3	1	6	-5

順位	グループC	京都	神奈川	高知	NAGOYA	勝5点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	京都マスターズO-35 (関西2/京都)		3○0	3○0	3○0	9	3	0	0	0	9	0	9
2	神奈川県選抜 (関東1/神奈川)	0●3		2○0	4○0	6	2	0	0	1	6	3	3
3	高知県O-35選抜 (四国/高知)	0●3	0●2		3○1	3	1	0	0	2	3	6	-3
4	羅針盤倶楽部NAGOYA (東海2/愛知)	0●3	0●4	1●3		0	0	0	0	3	1	10	-9

順位	グループB	千葉	兵庫	鳥根	三重	勝5点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	千葉OVER35選抜 (関東2/千葉)		0▲0 2PK4	2○0	2○1	7	2	0	1	0	4	1	3
2	兵庫選抜 (関西1/兵庫)	0△0 4PK2		2○1	0●1	5	1	1	0	1	2	2	0
3	鳥根 SELECT O-35 (中国2/鳥根)	0●2	1●2		2○1	3	1	0	0	2	3	5	-2
4	三重O-35マスターズ (東海1/三重)	1●2	1○0	1●2		3	1	0	0	2	3	4	-1

順位	グループD	三宅	三宅	広島	六ヶ所	勝5点	勝	PK勝	PK負	負	得点	失点	差
1	三宅ティグザ (九州/福岡)		2○1	1▲1 3PK5	9○1	7	2	0	1	0	12	3	9
2	セレソン長野 (北信越/長野)	1●2		2○1	14○0	6	2	0	0	1	17	3	14
3	広島サーティーズ (中国1/広島)	1△1 5PK3	1●2		12○0	5	1	1	0	1	14	3	11
4	FC六ヶ所35 (東北2/青森)	1●9	0●14	0●12		0	0	0	0	3	1	35	-34

○:勝ち(勝ち点3)、△:PK勝ち(勝ち点2)、▲:PK負け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

【参加選手】

<札幌 Shoebill FC> 監督:吉藤佑一

齋藤明德、山本洋平、齊藤健司、村上弾、中澤隆仁、鷲尾健太、柴田善志、菊地志向、齊藤翼、浅野祐平、齋藤裕修、星健太、高橋宏幸、吉藤佑一、美濃龍太

<FC六ヶ所35> 監督:金濱智哉

千葉純平、藤ヶ森亮、泉山真吾、吉田啓二、藤田真、蛭沢誉志幸、寺下邦彦、及川一馬、浦田瑠璃、村木昭宏、橋本晴信、木立恭介、新山剛史、佐々木徳一、鈴木洋介、嶋谷勇輝、笹森祐太、鹿内達也、米内山亮

<盛岡ゼブラ> 監督:齊藤仁

小赤澤啓太、中島昂平、熊谷蘭丸、千葉書也、齋藤俊彰、鈴木淳、岡田祐政、滝本祐樹、関田啓晃、岩館貴紀、上山愛史、薄井朋也、石川泰樹、岡村学、藤村伸、松岡研二、中野翼、上澤佑也、山谷結大、秋濱克弥、加藤浩史、佐藤博文

<千葉県OVER35選抜> 監督:浮田経也

新田陽平、富江悠、小倉良太、西郡巧、矢口達彦、平塚智、吉田航、島田健司、藤原隆史、上芝俊介、石田大介、吉田唯人、下田貞克、細貝新、細谷英章、佐々木哲郎、村田匡弘、宮内亨、疋田大和、伊元武士、若林広樹

<神奈川県選抜> 監督:原隆行

五味茂樹、海野健介、井上和久、松本誠吾、大溪晃太、箕輪義信、水野和樹、佐々木裕司、渡辺雄也、内村淳、佐藤隼人、土屋健太郎、平田順也、小笹健二、米山雄斗、岡孝憲、志遠真人、上野彰大、斎藤正樹、鳥毛雄一

<セレソン長野> 監督:林航

加藤和則、上田将太郎、森田卓、小原雅貴、石崎佑輔、玉林睦実、阿部琢久哉、齋藤智剛、小松憲太、土橋宏由樹、小澤修一、百瀬重成、宮田潤一、青木都弥、千國啓太、久保田祐介、清水裕樹、小林陽介、卯之原勇輝、片山真人、平林祐也、勝又慶典

<坂井フェニックスサッカークラブO-35> 監督:花岡靖則

山内達夫、大柳真也、東佑吾、北村貴、絹巻悟、大谷剛央、木村裕一、山口誠、吉田龍幸、鈴木亮平、上田祐樹、細川正樹、渡邊優希、渡辺譲、末廣俊一、田本尚之、猪島一哲、伊林鉄也、入羽隆行、印牧真也、原田大輔、清水芳樹、坂井優介

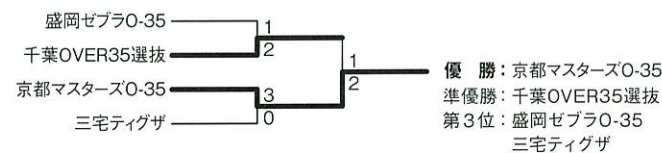
<羅針盤倶楽部NAGOYA> 監督:曾根祐一

塚崎正英、小鷹亮介、鷲谷雄介、小野塚翔太、川上昂一、内藤洋平、川地武臣、鶴田純志、藤原健佑、佐藤佑大、伊藤弘成、高木隆志、福富優、杉浦良、河村洋志、曾根祐一、酒井貴憲、浦部賢次、山添晃徳、尾崎順一、大賀智弘、家森大輔、大場悟史、上村拓也

<三重O-35マスターズ> 監督:亀井俊彦

坂将成、坂ノ下伸仲、鷲野卓也、高瀬泰幸、小川真吾、佐藤豪祐、一尾健司、加藤雅規、岩

■決勝ラウンド



城巧、南谷憲洋、中田徹、福田康二、谷佑介、伊藤優、鈴木啓太郎、杉原直輝、山下喬士、花井恭平、北村知隆、渡邊崇人、渡邊拓郎

<京都マスターズO-35> 監督:竹谷朋也

辰巳正矩、佐々木敦史、武内泰彦、中尾真那、橋本景太、今崎純太、深尾諭、日浦一樹、福井貴教、和気家督、小林良祐、若林令緒、吾郷隆平、佐藤涼介、松本雄太、西村亮介、岩切ケン、伊藤太祐、島田圭、篠部拓真、塚田卓、末吉祐太

<兵庫選抜> 監督:井上浩次

日野優、本山泰良、中村正吾、吉井隼人、西坂佑也、山口公平、太田晃一、西山翼、西村淳、中町康太、井上翔太、一井淑人、内田寛人、原口島蔵、岩崎淳、羽瀬貴章、山本幸太、宇部宮崇弘、中村勇士、矢野智大、定久博章、葛和修治、橋本浩介

<鳥根 SELECT O-35> 監督:石井修二

中島弘行、原弘明、佐藤啓太、岸賢、山田竜也、石倉大輔、小池貴志、須山雄太、近藤光央、柴田正浩、阿式幸彦、小野川光一、佐々井辰弥、宇津巻勇也、中田亮、石井修二、野村知史、布施祐典、栗林修司、尾島徹哉

<広島サーティーズ> 監督:正法地紀夫

山本雅義、相原剛、深川誠二、長尾高広、竹崎健治、吉原亮太、寄井憲、山本健人、谷口政人、星浦秀郎、山下鉄平、田岡直樹、湊晋平、阿部孝、田中祐樹、長谷川博一、藤井崇希、寺崎翔平、上田純治、児玉祐一郎、野仲俊弘

<高知県O-35選抜> 監督:山田和弥

久保内大將、田中晃平、寺尾哲、今村太郎、高橋和敏、稲田圭哉、小栗充裕、下元銀次郎、川村怜、宮本康平、山田和弥、久保添文則、高木恭兵、伊藤真人、岸野侑、野並弘章、出井正太郎、崎本賢人、吉良啓太、吉田基起、山中由喜

<三宅ティグザ> 監督:井上星童

中島久志、白石涉、井上星童、生山齊一郎、馬場徹、松浦哲也、宮崎瞬、木下大輔、井手孝俊、吉田慎一郎、小西一朗、岡田昌司、世利雄樹、島津百太郎、山城純也、川本夏実、宇高幸雄、福永拓郎、青木勇人、坂本大樹、塚塚龍、平敷隼人

メニコンカップ2023 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)

(一財)日本クラブユースサッカー連盟(JCY)、中日新聞社およびJFAが主催する本大会は、JFAに第3種登録し、JCYの加盟チームに所属、かつ他のクラブチームや中学校サッカー部などに二重登録されていない選手が参加できる。[第38回日本クラブユースサッカー選手権大会(U-15)]および「JCYインターシティトリムカップ(U-15)EAST」、「JCYインターシティトリムカップ(U-15)WEST」の出場選手の中から優秀選手が選出され、所属クラブ所在地により東西に分かれて、9月10日に愛知県で対抗戦を実施した。

EAST **4** (前半4-2 後半0-0) **2** **WEST**

●2023年9月10日 13:00 ●パロマ瑞穂ラグビー場 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]松井隆之介 [副審]平澤凌/山本就史 [第4の審判員]加藤剛 ●マッチコミッショナー:平山勇 ●観衆:4,689人

EAST(監督:平林清志):[GK](1)岩田幹太 [DF](2)古川蒼真(3)藤田明日翔(4)山川陽平 [MF](6)吉田楽音(7)三上瑛大(10)奥田悠真(14)高橋悠(15)松本瑛太 [FW](9)吉田湊海(13)高木瑛人

控え:(16)山岸克斗(5)平島大悟(8)小川尊斗(11)四日裕歩(12)椿渥裕(17)姫野誠

WEST(監督:広川龍介):[GK](1)松浦大翔 [DF](2)横井佑弥(3)森井莉人(4)丸岡海太(5)渡部友翔 [MF](6)太田大翔(8)上本佳生(9)土井口立(15)山下翔音 [FW](10)安井司(11)山崎琉偉

控え:(16)山田真叶(7)梶原夢月(12)川端彪英(13)内海香愷(14)菊山瑠皇(17)中瀬望亜

得点 [EAST]2' 6' 吉田湊海(1-0)(2-1)、27'、40+1' 奥田悠真(3-2)(4-2)
[WEST]4' 土井口立(1-1)、10' 上本佳生(2-2)

<EAST>

Pos	名前	所属
GK	岩田幹太郎	川崎フロンターレU-15生田
	山岸克斗	横浜FCジュニアユース
DF	古川蒼真	FC多摩ジュニアユース
	藤田明日翔	川崎フロンターレU-15生田
	山川陽平	川崎フロンターレU-15生田
	平島大悟	鹿島アントラーズジュニアユース
MF	吉田楽音	FC多摩ジュニアユース
	三上瑛大	川崎フロンターレU-15生田
	小川尊斗	川崎フロンターレU-15生田
	奥田悠真	川崎フロンターレU-15生田
	椿渥裕	横浜FCジュニアユース
	高橋悠	FC多摩ジュニアユース
	松本瑛太	FC多摩ジュニアユース
	姫野誠	ジェフユナイテッド千葉U-15
FW	吉田湊海	FC多摩ジュニアユース
	高木瑛人	鹿島アントラーズジュニアユース
	四日裕歩	横浜FCジュニアユース

<WEST>

Pos	名前	所属
GK	松浦大翔	アルビレックス新潟U-15
	山田真叶	サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース
DF	横井佑弥	ガンバ大阪ジュニアユース
	森井莉人	サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース
	丸岡海太	ガンバ大阪ジュニアユース
	渡部友翔	ソレック熊本
MF	内海香愷	名古屋グランパスU-15
	太田大翔	ソレック熊本
	梶原夢月	ソレック熊本
	上本佳生	ヴィッセル神戸U-15
	土井口立	ヴィッセル神戸U-15
	山下翔音	ヴィッセル神戸U-15
	中瀬望亜	セレッソ大阪 西U-15
	安井司	ガンバ大阪ジュニアユース
FW	山崎琉偉	アルビレックス新潟U-15
	川端彪英	京都サンガF.C.U-15
	菊山瑠皇	ソレック熊本

JFA U-18女子サッカーファイナルズ2023

JFAが主催する本大会は、JFAに女子の種別で登録したチームで、2023年9月7日までに登録した選手に出場資格が与えられた。今大会は「令和5年度全国高等学校総合体育大会」の優勝チームと「第5回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)」の優勝チームの2チームが参加して、9月18日に埼玉県のNACK5スタジアム大宮で開催された。

※82ページに関連記事あり

藤枝順心高校 **1** (前半1-1 後半0-3) **4** **日テレ・東京ヴェルディメニーナ**

●2023年9月18日 10:31 ●NACK5スタジアム大宮 ●試合時間:70分 ●審判員:[主審]勝又美沙希 [副審]田篤うらら/田中真輝 [第4の審判員]岩佐莉奈 ●観衆:649人

藤枝順心高(監督:中村翔):[GK](1)菊地優香 [DF](5)大川和流(15)松本琉那(16)永田優奈<-69'(13)弟子丸紗羽>(20)柘植沙羽 [MF](6)下吉優衣(10)久保田真生(19)植本愛実<-62'(7)曾根育美> [FW](8)中出朱音<-HT(17)藤原凜音>(9)高岡澤<-62'(26)岡村望矢>(11)辻澤亜唯

控え:(12)ソフテイル・ヴィクトリア(3)望月歌那(25)尾辻夏奈

メニーナ(監督:坂口佳祐):[GK](22)永井愛理 [DF](3)青木夕菜(4)池上聖七(6)朝生珠実(12)鈴木温子(15)式田和 [MF](10)真城美春(11)松永未夢(20)伊藤風葵(25)米倉和心 [FW](9)樋渡百花

控え:(1)ウルフ・ジェシカ結実(2)北島景子(5)松岡瑛菜(7)栗田七海(8)須長穂乃果(14)佐藤色(18)今ゆうり

得点 [藤枝順心高]35+1' 辻澤亜唯(1-1)
[メニーナ]35' 式田和(0-1)、43' 真城美春(1-2)、48'、65' 樋渡百花(1-3)(1-4)

警告 [藤枝順心高]33' 大川和流、58' 植本愛実

【参加選手】

<藤枝順心高校> 監督:中村翔

菊地優香、ソフテイル・ヴィクトリア、伊藤美佑、内園紗珠、石野柚良、古田昊、大川和流、曾根育美、松本琉那、永田優奈、柘植沙羽、松山の美、尾辻夏奈、岡村望矢、望月歌那、下吉優衣、久保田真生、弟子丸紗羽、葛西唯衣、植本愛実、佐藤ふう、中島沙彩、鈴木由真、諸田心優、中出朱音、高岡澤、辻澤亜唯、藤原凜音、宮路花奈、堀江莉心

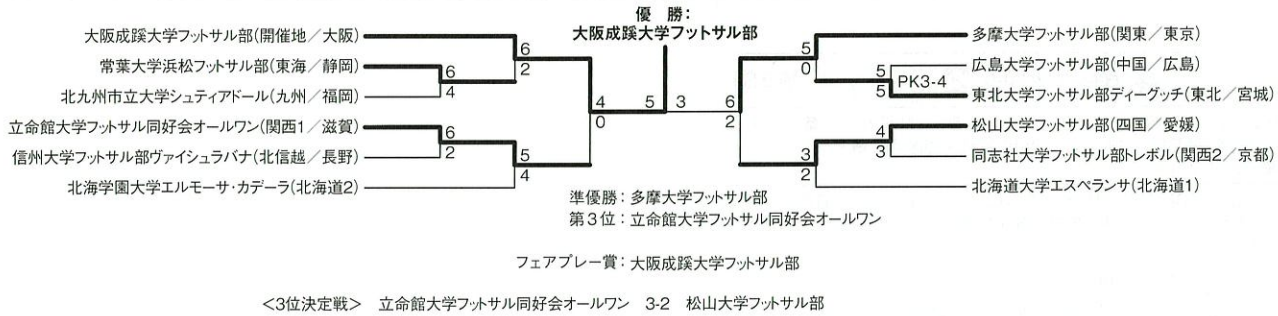
<日テレ・東京ヴェルディメニーナ> 監督:坂口佳祐

ウルフ・ジェシカ結実、林心春、永井愛理、松原璃桜奈、加登臨心羽、北島景子、青木夕菜、池上聖七、松岡瑛菜、朝生珠実、鈴木温子、式田和、奥住心音、大木優里葉、栗田七海、須長穂乃果、真城美春、松永未夢、佐藤色、渡邊柚香、今ゆうり、武内明香里、伊藤風葵、大長柑花、諏訪瑛香、米倉和心、樋渡百花、友利愛紗

第19回全日本大学フットサル大会

JFA が主催する本大会は、2023 年度 JFA フットサル個人登録およびフットサル大会登録を行った、単一の大学・短期大学に在学中の学生により構成されたチームで、当該チームに所属する選手に出場資格が与えられた。今大会は 8 月 25 日～27 日、12 チームが参加して大阪府で開催された。

※ 80 ページに関連記事あり



準決勝

大阪成蹊大学フットサル部 4 (第1ピリオド2-0 第2ピリオド2-0) 0 **立命館大学フットサル同好会オールワン**

●2023年8月26日 14:25 ●岸和田市総合体育館 ピッチA ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]山崎聖也 [第2審判]外館美穂 [第3審判]小林裕之 [タイムキーパー]吉川竜平 ●観衆:620人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
横田翔		2	GK	GK	1		坂野智道
松原聖々希	△	3	FP	FP	6	○	三浦糧太
道下楓生	△	4	FP	FP	8	△	成迫勇太
村上圭吾	○	6	FP	FP	11	△	安田健人
萩原欣之介	○	7	FP	FP	12	△	酒井裕和
吉田怜生	△	10	FP	FP	14	△	小林玉樹
鈴木大輝	△	11	FP	FP	17	△	加藤功誠
橋本和秀	○	12	FP	FP	21	○	川崎航聖
菊地尚斗	○	14	FP	GK	26	○	内山真之介
平尾龍之介	△	15	FP	FP	29	△	堀優也
山下聖翔	△	18	FP	FP	38	△	皆尾文也
片岡浩太	○	19	GK	FP	41	○	行成海人
蓮田伊織	△	28	FP	FP	57	○	吉川竜馬
山縣隼夫	△	33	FP	FP	88	△	桐山侷大
佐藤亮			監督				酒井裕和

得点 [大阪成蹊]7' 平尾龍之介(1-0)、17' 村上圭吾(2-0)、30' 橋本和秀(3-0)、39' 松原聖々希(4-0)

警告 [立命館]33' 小林玉樹

準決勝

多摩大学フットサル部 6 (第1ピリオド2-1 第2ピリオド4-1) 2 **松山大学フットサル部**

●2023年8月26日 16:35 ●岸和田市総合体育館 ピッチA ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]加田誠 [第2審判]山崎香織 [第3審判]木田泰典 [タイムキーパー]山口澤仁 ●観衆:340人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
長沼創大	△	6	FP	GK	1	○	住友颯馬
峰嶋歩夢	○	7	FP	FP	2		明神圭佑
中村修	△	8	FP	FP	4	○	堀川暉斗
澤田健太	△	9	FP	FP	6	△	白形崇博
森谷寅太	○	10	FP	FP	7	△	水間汰樹
村瀬大征	○	11	FP	FP	8	○	島祥太
明堂大稀	○	13	FP	FP	9	○	岡本青龍
井戸口侷之亮	△	14	FP	FP	10	○	三原大知
外園光雅	△	23	FP	FP	11	△	小川和暉
古館幸真		24	GK	FP	13	△	和田大河
小石海羅緯	○	33	GK	FP	14	△	川澤俊樹
高木隼斗	△	59	FP	GK	15		二神遠城
本田遥大	△	79	FP	FP	18		左古南央
奥田颯太	△	88	FP	FP	19		辻元智哉
福角有紘			監督				重川聡郎

得点 [多摩]15' 澤田健太(1-0)、16' 高木隼斗(2-0)、27'、40' 峰嶋歩夢(3-1)(6-2)、29'、31' 明堂大稀(4-1)(5-1) [松山]18' 岡本青龍(2-1)、40' 三原大知(5-2)

警告 [多摩]20' 村瀬大征 [松山]17' 白形崇博

3位決定戦

立命館大学フットサル同好会オールワン 3 (第1ピリオド1-1 第2ピリオド2-1) 2 **松山大学フットサル部**

●2023年8月27日 10:30 ●岸和田市総合体育館 ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]井口朋恵 [第2審判]黒澤哲 [第3審判]有元善孝 [タイムキーパー]浜辺篤伸 ●観衆:252人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
坂野智道	△	1	GK	GK	1	○	住友颯馬
大西雄翔	△	5	FP	FP	2		明神圭佑
三浦糧太	△	6	FP	FP	4	○	堀川暉斗
成迫勇太	○	8	FP	FP	6	△	白形崇博
安田健人	○	11	FP	FP	7	△	水間汰樹
酒井裕和	△	12	FP	FP	8	○	島祥太
小林玉樹	○	14	FP	FP	9	○	岡本青龍
加藤功誠	△	17	FP	FP	10	○	三原大知
山岡真之介	△	25	FP	FP	11	△	小川和暉
内山真之介	○	26	GK	FP	13	△	和田大河
皆尾文也	○	38	FP	FP	14	△	川澤俊樹
行成海人	△	41	FP	GK	15		二神遠城
吉川竜馬	△	57	FP	FP	18		左古南央
桐山侷大	△	88	FP	FP	19		辻元智哉
酒井裕和			監督				重川聡郎

得点 [立命館]5'、25' 小林玉樹(1-1)(2-1)、30' 安田健人(3-2) [松山]3' 白形崇博(0-1)、25' 三原大知(2-2)

警告 [松山]26' 三原大知

決勝

大阪成蹊大学フットサル部 5 (第1ピリオド4-2 第2ピリオド1-1) 3 **多摩大学フットサル部**

●2023年8月27日 13:00 ●岸和田市総合体育館 ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]山崎聖也 [第2審判]加田誠 [第3審判]外館美穂 [タイムキーパー]山崎香織 ●観衆:435人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
横田翔		2	GK	FP	6	△	長沼創大
松原聖々希	△	3	FP	FP	7	○	峰嶋歩夢
道下楓生	△	4	FP	FP	8	△	中村修
村上圭吾	○	6	FP	FP	9	○	澤田健太
萩原欣之介	○	7	FP	FP	10	△	森谷寅太
吉田怜生	△	10	FP	FP	11	△	村瀬大征
鈴木大輝	△	11	FP	FP	13	○	明堂大稀
橋本和秀	○	12	FP	FP	14	△	井戸口侷之亮
菊地尚斗	○	14	FP	FP	18		下平祥良
平尾龍之介	△	15	FP	FP	23	△	外園光雅
山下聖翔	△	18	FP	GK	24		古館幸真
片岡浩太	○	19	GK	GK	33	○	小石海羅緯
中島友貴	△	20	FP	FP	59	△	高木隼斗
山縣隼夫	△	33	FP	FP	79	○	本田遥大
佐藤亮			監督				福角有紘

得点 [大阪成蹊]1' 村上圭吾(1-0)、10' 菊地尚斗(2-2)、18' 山縣隼夫(3-2)、19' オウングール(4-2)、40' 鈴木大輝(5-3) [多摩]2' 明堂大稀(1-1)、7'、26' 本田遥大(1-2)(4-3)

データボックス

[参加選手]

<北海道大学エスベランサ> 監督:山本真太郎
穴井大智、麻植郎郎、菅原悠平、井上礼一郎、原大輝、小山翔生、岡野玄、岩本一真、小原丈尚、安倍直哉、千徳優月、那須優斗、細見亮太、加藤悠真、西山智也、野津聖、三神圭介、石橋巧朗、松尾虎之介、中村翔

<北海道大学エルモサ・カデラ> 監督:大井来流
古川翼、田中琢磨、石郷岡優太、中谷修斗、松浦翔梧、雪田幸我、白崎凌雅、山田祥平、行澤壮太、戸村涉、大井来流、堀本紫音、中田彩太、竹内陽城、今井康成、神山黎、中條聖都、長谷川開生、森田真生、佐藤大樹

<東北大学フットサル部ディグッチ> 監督:加藤凱唯
和田知己、佐藤輝、瀬谷義、今仁英典、照内芳和、高橋輝、花房玲遠、横田輝樹、井上隼、加藤凱唯、熊井勇太郎、藤村弥毅、末光貴一、飯塚征吾、池田拓、戴所大智、加藤拓郎、小野柊大、佐藤仁紀、三浦勝聖

<多摩大学フットサル部> 監督:福角有紘
井上夢斗、古館幸真、小石海羅、小林剣太、伊藤勇輝、菅原現生、長沼創大、嶋崎歩夢、中村修、澤田健太、森谷寅太、村瀬大征、明堂大稀、井戸口侑之亮、下平祥良、外置光雅、北島令大、高木卓斗、本田遥大、奥田颯太

<信州大学フットサル部ヴァイシユラバナ> 監督:加藤優志
氏家北斗、牧野葉、寺迫隆晃、松原快、陶山蒼太、田中涼想、田中瑛士、小倉昌樹、慶松楓、寺坂爽、雨宮聖、尾形謙将、堀場康輔、関翔夢

<常葉大学浜松フットサル部> 監督:神力亮太
小野田嵩也、勝又優辰、横山翔也、佐藤直樹、良知星弥、木山貴斗、服部圭太、大城滉也、平岡倫道、尾崎珠利、宗光潤、中島彪也、春日拓海、大野翔丸、永吉健人、岩附翔、杉本将太郎、長澤厚希、桑原慧大、北北悠晟

<立命館大学フットサル同好会オールワン> 監督:酒井裕和
坂野智道、内山真之介、三品虹太、大西雄輝、三浦禮太、成迫勇太、安田健人、酒井裕和、鈴木捷斗、小林玉樹、加藤功誠、川崎聖聖、西岡太陽、山岡真之介、堀優也、皆尾文也、行成海人、吉川竜馬、能登春風、桐山侑大

<同志社大学フットサル部トレボル> 監督:小山茂俊
武藤隆俊、佐藤秀音、榎田大翔、久井光太郎、平野航生、上飯屋遼、安達晃大、松波陽雄、廣江亮哉、伊東涼哉、内山雄登、小松史弥、船田結平、江藤祐太、藤岡大誠、松原幹樹、原由伍、山本優希、吉田隼、上野椋次郎

<広島大学フットサル部> 監督:斎多村優
西本光輝、芳野航太、植田悠大、菱川大輝、小柳津航希、伊藤凌、森本陸、南谷勇人、森田敏幹、横田智洋、佐々木奏太、前田和志、印南慶太、森悠真、高島秀任、竹中陸、松田康陽、芦田崇、吹留慎ノ介

<松山大学フットサル部> 監督:重川聡郎
住友颯馬、二神達城、明神圭佑、佐々木要、堀川輝斗、白形崇博、水関汰樹、島祥太、岡本青龍、三原大知、小川和輝、和田大河、川澤俊樹、西本孝輝、前田幹太、左古南央、辻元智哉、國則丈時、川村匠人、北村彰福

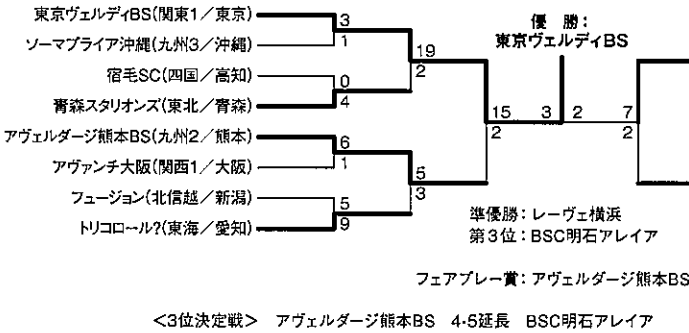
<北九州市立大学シュティアドル> 監督:八尋悠
永富龍一、木塚脩太郎、下田創生、石井雅己、江口宗汰、権藤務、寺井暖、青柳翔太、原朝陽、生田蓮、岩崎隆、平山大貴、岩永翔斗、吉田昇矢、宮内勇人、堤琥太郎、角涼太郎

<大阪成蹊大学フットサル部> 監督:佐藤亮
横田翔、片岡浩太、野中鏡太、松原聖々希、道下楓生、村上圭吾、萩原欣之介、吉田怜生、鈴木大輝、橋本和秀、菊地尚斗、平尾龍之介、福長佑太、山下聖翔、中島友貴、蓮田伊織、山縣隼夫、中村直人、川原那月、加藤朝陽

JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会

JFAが主催する本大会は、2023年度JFAのフットサル個人登録もしくはサッカー選手登録をしている男女の選手によって構成され、フットサル大会登録を行ったチームに出場資格が与えられた。今大会は、9月8日～10日に16チームが参加して、兵庫県明石市大蔵海岸で開催された。

※81ページに関連記事あり



準決勝

東京ヴェルディBS 15 (第1ピリオド5-0, 第2ピリオド5-2, 第3ピリオド5-0) 2 アヴェルダージ熊本BS

●2023年9月9日 13:30 ●明石市大蔵海岸公園 ピッチA ●試合時間:36分 ●審判員:[主審]浜辺篤伸 [第2審判]齋藤香葉 [第3審判]佐藤祐介 [タイムキーパー]波多野祐一 ●観衆:431人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	○	1	GK	FP	3	○	松岡翔太
田中颯	△	3	FP	FP	7	△	野田和聖
トゥーリオ・シルバ	△	5	FP	FP	10	○	松尾那緒弥
瀧口貴史	△	6	FP	GK	12	○	宮田政宗
見山龍之介	△	8	FP	FP	13	○	長藤太朗
山内悠誠	○	9	FP	FP	14	△	西口佳佑
茂村羅オズ	○	10	FP	FP	15	△	中原勇貴
マテウス・ロベス・ドス・サントス	○	11	FP	FP	17	△	大田誠人
ベルナルド・ポテーリョ	△	13	FP	FP	18	△	川部瑞稀
上里琢文	○	17	FP	FP	25	○	木船祐樹
山田貴仁	△	19	FP				
柴本慎也	△	22	GK				

監督: 齋藤潤 監督: 坂田淳

得点
[東京ヴェルディ]7'山内悠誠(1-0)、7'、23'瀧口貴史(2-0)(9-2)、7'、14'、26'、28'、30'マテウス・ロベス・ドス・サントス(3-0)(6-0)(11-2)(13-2)(14-2)、9'、24'見山龍之介(4-0)(10-2)、9'、17'上里琢文(5-0)(7-1)、23'、27'田中颯(8-2)(12-2)、36'トゥーリオ・シルバ(15-2)
[アヴェルダージ熊本]16'西口佳佑(6-1)、20'松尾那緒弥(7-2)

準決勝

レーヴェ横浜 7 (第1ピリオド4-2, 第2ピリオド2-0, 第3ピリオド1-0) 2 BSC明石アレイア

●2023年9月9日 13:30 ●明石市大蔵海岸公園 ピッチB ●試合時間:36分 ●審判員:[主審]松尾久美子 [第2審判]奥村颯太 [第3審判]加藤具哉 [タイムキーパー]佐藤誠 ●観衆:431人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
古里健	○	1	GK	GK	2	○	山本哲也
松田康佑	○	4	FP	FP	7	○	松田圭祐
小川大輔	△	5	FP	FP	8	○	佐久間孝次郎
森重瑞紀	△	6	FP	FP	9	○	南陽介
大場崇晃	○	7	FP	FP	10	△	福本寛
平間直道	○	9	FP	FP	14	△	宮司大河
松本豪	△	10	FP	FP	24	△	藤原秀次
城田優	△	16	GK	FP	33	△	山上共介
加藤樹	△	18	FP	FP	77	○	佐久間清孝
大谷陸斗	○	20	FP	FP	99	△	藤川朋樹
阿部達秀	△	41	FP				
服部大樹	△	44	FP				

監督: 奥山正憲 監督: 山本哲也

得点
[レーヴェ横浜]4'大場崇晃(1-1)、9'、10'平間直道(2-2)(3-2)、11'、17'服部大樹(4-2)(5-2)、23'松田康佑(6-2)、32'大谷陸斗(7-2)
[BSC明石アレイア]4'藤川朋樹(0-1)、5'松田圭祐(1-2)

○:先発、△:交代出場

3位決定戦

アヴェルダージ熊本BS 4 (第1ピリオド1-0 第2ピリオド2-3 第3ピリオド1-1 延長0-1) 5 BSC明石アレイア

●2023年9月10日 10:30 ●明石市大蔵海岸公園 ●試合時間:36分、延長3分 ●審判員:[主審]加藤具哉 [第2審判]浜辺篤伸 [第3審判]土屋政隆 [タイムキーパー]畑至音 ●観衆:357人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
松岡翔太	○	3	FP	GK	2	○	山本哲也
野田和聖	△	7	FP	FP	7	○	松田圭祐
松尾那緒弥	○	10	FP	FP	8	○	佐久間孝次郎
宮田政宗	○	12	GK	FP	9	○	南陽介
長康太朗	△	13	FP	FP	10	△	福本寛
西口佳佑	△	14	FP	FP	11	△	安藤宗規
中原勇貴	△	15	FP	FP	14	△	宮司大河
大田誠人	○	17	FP	FP	24	△	藤原秀次
川部瑞稀	△	18	FP	FP	33	△	山上共介
木船祐樹	○	25	FP	FP	77	○	佐久間清孝
				FP	99	△	藤川朋樹
坂田淳			監督				山本哲也

得点 [アヴェルダージ熊本]12'長康太朗(1-0)、14'、21'、27'松尾那緒弥(2-0)(3-1)(4-4) [BSC明石アレイア]17'、24'、38'藤川朋樹(2-1)(3-3)(4-5)、23'南陽介(3-2)、25'宮司大河(3-4)

警告 [BSC明石アレイア]27'山本哲也、28'佐久間清孝、36'藤川朋樹

○:先発、△:交代出場

決勝

東京ヴェルディBS 3 (第1ピリオド2-0 第2ピリオド0-0 第3ピリオド1-2) 2 レーヴェ横浜

●2023年9月10日 13:00 ●明石市大蔵海岸公園 ●試合時間:36分 ●審判員:[主審]波多野祐一 [第2審判]佐藤誠 [第3審判]松尾久美子 [タイムキーパー]齋藤香菜 ●観衆:431人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
河合雄介	○	1	GK	GK	1	○	古里健
田中颯	△	3	FP	FP	4	○	松田康佑
トゥーリオ・シルバ	△	5	FP	FP	5	△	小川大輔
瀧口貴史	△	6	FP	FP	6	△	森重瑞紀
見山龍之介	△	8	FP	FP	7	○	大場崇晃
山内悠誠	○	9	FP	FP	8	○	川村恒平
茂怜羅オズ	○	10	FP	FP	9	○	平間直道
マテウス・ロベス・ドス・サントス	○	11	FP	FP	10	△	松本憲
ベルナルド・ボテリョ	△	13	FP	GK	16	△	城田優
上里琢文	○	17	FP	FP	18	△	加藤樹
山田貴仁	△	19	FP	FP	20	○	大谷陸斗
柴本慎也	△	22	GK	FP	44	△	服部大樹
齋藤潤			監督				奥山正憲

得点 [東京ヴェルディ]5'マテウス・ロベス・ドス・サントス(1-0)、6'オウンゴール(2-0)、28'トゥーリオ・シルバ(3-1) [レーヴェ横浜]28'服部大樹(2-1)、34'大場崇晃(3-2)

警告 [東京ヴェルディ]12'茂怜羅オズ、24'ベルナルド・ボテリョ

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

<大鎮キムラ建設BYII> 監督:戸澤卓也

岩間遥、阿部奏也、深山斗真、菊池優、石坂聖斗、木村光誠、大倉圭祐、戸澤卓也、橋本匡、羽根坂卓、本間成規、藤島勇気

<青森スタリオンズ> 監督:小田崇

野崎隆人、成田璃矩、金村駿佑、森亮、金澤竜斗、金村啓佑、倉岡慧也、倉岡陽道、福村郁人、豊川祐、藤田政宗光、森俊、新谷翔太、佐々木徳一、石川祐

<東京ヴェルディBS> 監督:齋藤潤

河合雄介、道畑俊輔、柴本慎也、田中颯、トゥーリオ・シルバ、瀧口貴史、見山龍之介、山内悠誠、茂怜羅オズ、マテウス・ロベス・ドス・サントス、ベルナルド・ボテリョ、川口敬介、齋藤詢、上里琢文、山田貴仁、マテウス・ロベス・ドス・サントス

<レーヴェ横浜> 監督:山口博之

古里健、城田優、細野流風、松田康佑、小川大輔、森重瑞紀、大場崇晃、川村恒平、平間直道、松本憲、加藤樹、大谷陸斗、大下陸、阿部速秀、服部大樹

<バモスアラカサ千葉> 監督:角谷剛

杉田哲司、木藪勇佑司、池田尚道、李正洙、高村洋康、押見悠太、角谷剛、岡田翔太郎、渋谷優貴、矢田恵貴、篠原諒太、成田彪我、小出啓太、神殿尚明、松田洋

<フュージョン> 監督:藤本晴久

崎岡柗優、上田優星、上原瑛之、松崎滉大、柏木祐樹、小林碧人、佐藤健太、藤本凌久、亀崎鮎太、野沢有樹、永倉一樹、藤本晴久

<トリコロール?> 監督:石川真樹

高見侑司、金山晃典、船坂信一郎、関根琉楓、若林佑樹、坂田翔太、古垣颯人、石川和哉、石川真樹、瀬田圭司、八神孝佑

<アヴァンチ大阪> 監督:墨谷雄輔

麥田海波、墨谷雄輔、橋口滉、北村陸人、ペーター・マイツェン、中川敦人、小倉圭輝、北野達也、加佐幸音、菅耕史、南方政斗、景山幹太、石井博己、長辻貴史

<ドーサルM.FC/アシア> 監督:佐藤義人

上村寿、安彦拓哉、山口泰宗、長谷部巨、晴山孝介、山本智也、村山拓也、佐藤義人、根倉圭史、金輝明、寺本和真、岡橋達希、晴山良介、山口和貴、坂崎大

<ハレクティオ岡山> 監督:原田政輝

安原賢一、平野将志、山本明伸、橋本太輝、田邊歩向、松本真喜志、荒井祥太郎、西田翔平、原田政輝、板野圭竜、森谷成陽、森大祥、安藤光流、座間味陸、大川内諒

<ベル・エキップBS> 監督:逸見隆明

森田晴己、木下叶貴、城市亮祐、八尾悠馬、柳川元、畠瀬拓也、平田真輝、岡田尚、橋本義明、富岡拓真、逸見隆明、齋藤英史、岡田優吾

<宿毛SC> 監督:林岳佑

瀧庵泉斗、高木崇、安光悠貴、田村哲平、畠山巧、梶原竜太、山岡雅也、有田圭吾、宮地蒨成、黒石学、野並弘章、中西智則、田村涼、小松恭輔、横山哲平

<ラソアベゴ北九州> 監督:八尋護

後藤将斗、川島大輝、坂下寛汰、山本祐輝、柳田健太、ブライアン・バンジェル・ヤノ、佐田龍治、伊藤龍之介、松岡吏、赤熊卓弥、畑文二、宮本光、高田京平、飯野智之、小田和博

<アヴェルダージ熊本BS> 監督:坂田淳

宮田政宗、松岡翔太、野田和聖、松尾那緒弥、長康太朗、西口佳佑、中原勇貴、大田誠人、川部瑞稀、木船祐樹

<ソーマブリア沖繩> 監督:河原塚毅

太田隆司、宜野座寛也、佐藤良祐、津波古佳裕、伊集盛綱、坪谷亮太、鈴木嘉記、齋藤巧、齋藤凱也、池宮城圭史、江黒力、河原塚毅、勝部真理、吉田健人

<BSC明石アレイア> 監督:山本哲也

山本哲也、田辺誠、福山雄大、松田圭祐、佐久間孝次郎、南陽介、福本寛、安藤宗規、大島淳、宮司大河、藤原秀次、山上共介、佐久間清孝、藤川朋樹



決勝・東京ヴェルディBS vs レーヴェ横浜

スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

毎日の体づくりの基本に

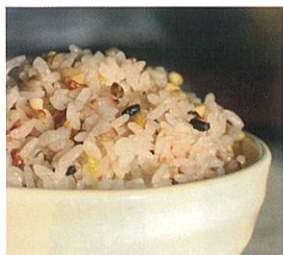
食品から得られる運動前のエネルギー補給・ 運動後のリカバリーに

1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力 スポーツ雑穀米

16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



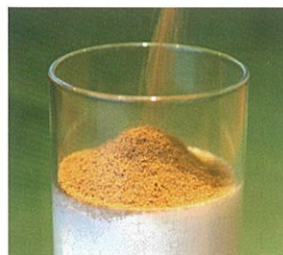
栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー

16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜鉛	
エネルギー	384kcal	亜鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
こちらから →



2試合連続4得点

欧州で強豪に連勝



11月に始まるFIFAワールドカップ26アジア2次予選兼AFCアジアカップサウジアラビア2027予選に向けて強化を図るサムライブルー（日本代表）は9月、欧州に遠征し、同9日にドイツで同国代表と国際親善試合を、同12日にベルギーでトルコ代表とキリンチャレンジカップ2023を戦った。

※サムライブルーメンバー公式記録は58ページに掲載 ※選手の所属は試合時

攻守に圧倒し ドイツに大勝

森保一監督は8月31日、第2次体制立ち上げから3度目の活動となる欧州での2試合を前に「難しいアウェイの戦いで、個のレベルアップとチームのレベルアップ、戦術の共有と幅を広げていきたい」と語り、26人のメンバーを発表した。セレッソ大阪で好調を維持す

る毎熊晟矢が初選出となった。サムライブルーは9月4日から7日までドイツのヴォルフスブルクでトレーニングを行い、8日の公式練習を経てドイツ代表と対戦した。

両チームの対戦は昨年のFIFAワールドカップカタール2022以来約10カ月ぶり。日本はカタールでは勝利を収めたが、内容では守備的な戦いを強いられ、今回は「いろいろな課題や発見があるような試合にしたい」（三笥薫／ブライトン）、「個々の力、チームの力を測るという意味でも、よりチャレンジして戦ってきたい」（森保監督）という言葉通り、序盤から積極的に出ている姿勢を見せた。

ここまで積み重ねてきた、良い守備から良い攻撃を繰り返している日本は11分、富安健洋（アーセナル）のサイドチェンジを起点に右サイドから仕掛けると、最後は菅原由勢（AZ）のクロス

伊東は2試合を通して相手に脅威を与え続け、3得点に絡む活躍を見せた



ドイツ戦、圧巻のパフォーマンスでチームに安定感をもたらした富安。精度の高いキックで攻撃の起点にもなった

純也（スタッド・ランス）が合わせて先制点を奪った。しかし、その8分後には中央でのパスワークからレロイ・サネに得点を許し、試合を振り出しに戻されてしまう。すぐに追いつかれる形となった日本だが、失点をものともせず速攻と遅攻を織り交ぜながら攻勢を強めていく。すると22分、菅原のクロスで伊東がツナギ、ゴール前に走り込んだ上田綺世（フェイエノールト）がワンタッチで決めて勝ち越しに成功した。日本は後半に入るとサイドから攻め込まれる場面が増えたが、59

分に谷口彰悟（アルラヤン）と浅野拓磨（ボーフム）を投入して、布陣を4-2-3-1から3-4-2-1に変更。高いラインコントールとコンパクトな守備で相手の攻撃をシャットアウトした。

90分に途中出場の久保建英（レアル・ソシエダ）のパスから浅野が追加点を奪うと、アディショナルタイムには再び久保のパスから田中碧（デュッセルドルフ）がヘディングシュートを決めた。カタール大会のリベンジを狙うドイツを相手に、日本は4得点を奪う見事なパフォーマンスで、結果、内容ともに完勝を収めた。

トルコに快勝するも 試合運びには課題

ドイツ戦から中2日、トルコ代表とのキリンチャレンジカップ2023は舞台をベルギーのゲンクに移して行われた。

トルコとの対戦は、日本が初めてワールドカップでグループステージを突破し、8強入りを懸けて戦った2002年の日韓大会以来、21年ぶりとなる。またこの試合は、キリン特別協賛試合の200試合目（※）となる節目の一戦だった。

選手のコンディションを考慮した上で、「誰が出て勝つ、誰と組んでも機能する」をテーマに森



久保は得点こそなかったが2試合で3得点を演出。所属クラブでの好調ぶりを代表戦でも発揮した

保監督はドイツ戦から先発10人を変え、毎熊、町田浩樹（ユニオン・サンジロワーズ）、伊藤敦樹（浦和）の3人が国際Aマッチ初先

発を果たすなど、新たな組み合わせでトルコ戦に臨んだ。

前半の40分間は日本が圧倒的なパフォーマンスを披露する。巧みに前進しながら相手陣内に攻め込んでいくと15分、伊藤敦が堂安律（フライブルク）とのパス交換からカッティンし、ペナルティーエリア手前から左足のミドルシュートを放つ。ボールはゴールネットを揺らして日本が先制点を奪った。28分には久保のミドルシュートのこぼれ球を中村敬斗（スタッド・

森保一監督コメント（要約）

ドイツ戦後

今日の試合は、前半だけではなく、後半も良かったと思っている。前半は相手の揺さぶりや2列目からの飛び出しを含めて難しい部分もあったが、4バックでの対応にトライし、選手たちがチャレンジしてくれた。後半には、ドイツという強豪を相手に自分たちのオプションを増やすチャレンジをしたと考えると3バックを試した。ボールを支配するところは向上させる必要があるが、今後、自分たちが戦う上で、より多くのオプションを持つために戦術を変更し、チームの成長につながる経験とチャレンジができたと思う。

■国際親善試合
2023年9月9日 20:45
ヴォルフスブルグ(ドイツ) / フォルクスワーゲン・アレーナ

日本	4-1	ドイツ
2-0 2-0		

11' 伊東純也 22' 上田綺世 90' 浅野拓磨 90+2' 田中碧

19' レロイ・サネ

GK ⑫ 大迫敬介 DF ② 菅原由勢 → 84' ⑩ 橋岡大樹 ④ 板倉滉 ⑩ 富安健洋 ⑫ 伊藤洋輝 MF/FW ⑤ 守田英正 → 75' ⑫ 田中碧 ⑥ 遠藤航	MF/FW ⑦ 三笘薫 → 84' ⑩ 堂安律 ⑧ 鎌田大地 ⑨ 谷口彰悟 ⑨ 上田綺世 ⑨ 59' ⑩ 浅野拓磨 ⑭ 伊東純也 → 75' ⑫ 久保建英
--	--

森保一監督コメント（要約）

トルコ戦後

選手たちには「誰が出て勝つ、誰と組んでも機能する」ということを伝えた。ドイツ戦から先発10人を入れ替えて臨み、勝利をつかみ取ってくれたことは良かった。選手層を厚くすること、より多くの選手と戦術を共有すること、そしてレベルアップにつながる経験ができたことは、チームにとって非常に大きなプラスになった。決定的なチャンスも多く、決定力の部分など反省すべきところはたくさんあるが、選手を入れ替え、連携・運動がなかなか難しい中でも良いチャレンジしてくれたと思っている。

■キリンチャレンジカップ2023
2023年9月12日 14:20
ゲンク(ベルギー) / セゲカ・アレーナ

日本	4-2	トルコ
3-1 1-1		

15' 伊藤敦樹 28' 36' 中村敬斗 78' 伊東純也

44' オザン・カバク 61' ベルトナー・ユルドゥルム

GK ① 中村航輔 → 45+3' ③ ミット・ダニエル DF ③ 谷口彰悟 ③ 伊藤洋輝 ② 町田浩樹 → 79' ⑩ 富安健洋 ⑫ 毎熊晟矢 → HT ⑩ 橋岡大樹 MF/FW ⑩ 堂安律 → HT ⑩ 伊東純也	MF/FW ⑪ 古橋亨梧 ⑫ 中村敬斗 → HT ⑫ 前田大然 ⑮ 伊藤敦樹 → 63' ⑫ 遠藤航 ⑰ 田中碧 ⑳ 久保建英
--	--

ランス）が押し込んでリードを広げる。さらに攻勢をかける日本は36分、毎熊のボール奪取を起点に中村敬がこの日2点目のゴールを決め、日本は40分間で3ゴールを記録した。

しかし、ここからは試合運びに課題が残る展開となった。44分にセットプレーから失点。このプレーでGK中村航輔（ポルティモネーセ）が負傷し、シュミット・ダニエル（シントトロイデン）と交代する。後半に入っても悪い流れを断ち切れず、61分にはクロスこのぼれ球をベルトナー・ユルドゥルムに決められて1点差まで追いつけられてしまった。

ここで森保監督は遠藤航（リヴァプール）を投入。中盤の守備を改善して流れを取り戻すと78分、後半から入っていた伊東がドリブル突破で得たPKを自ら決めた。試合終盤には体を張った守備で相手の攻撃を抑え、4-2で勝利した。日本は今回の2試合で8得点を奪い、欧州の強豪相手に連勝。選手層の底上げにもつながる実りの多い活動となった。

次回の活動は10月。11月に迫るFIFAワールドカップ26アジア2次予選兼AFCアジアカップサウジアラビア2027予選を前に、10月13日に新潟でカナダ代表と、同17日には神戸でチュニジア



数少ない“国内組”の一人、伊藤敦。トルコ戦では国際Aマッチ初先発、初得点を記録した

代表と対戦する。
※キリンチャレンジカップの前身となるジャパンカップ6試合とその後の特別協賛を合わせて200試合

国際親善試合

なでしこジャパン、8得点でアルゼンチンに快勝



NADESHIKO JAPAN

※なでしこジャパンおよびアルゼンチン女子代表メンバー、公式記録は63ページに掲載。選手の所属は試合時



田中は先制点を取るだけでなく、ポストプレーなど前線で攻撃を活性化させた

なでしこジャパン（日本女子代表）は9月23日、福岡県の北九州スタジアムで、FIFA女子ランキング31位のアルゼンチン女子代表と対戦した。8強入りしたFIFA女子ワールドカップ後初めての試合で、なおかつ来月下旬にスタートする女子オリンピックサッカートーナメントパリ2024アジア2次予選に向けた最後の強化試合でもある。池田監督は9月4日に試合に臨むメンバー23人を発表、ワールドカップに出場したメンバーを中心に、宝田沙織（リンシエーピングFC）と三浦成美（ノースカロライナ・カレッジ）が久々の招集となった。

試合当日、30度を超える暑さの中、7265人の観衆に見守られキックオフを迎えた。池田監督は「アジア2次予選に向けてチーム

としてやれることを増やし、積み上げられるような一戦にしたい」と話し、従来の3-4-2-1ではなく、4-3-3のフォーメーションを採用した。日本は積極的な守備で主導権を握ると、2分に田中美南（神戸）が相手のミスを見逃さずにゴール前でボールを奪い、ゴール左隅に蹴り込んで先制に成功。9分には、左サイドから宮澤ひなた（マンチェスター・ユナイテッド）が上げたクロスに合わせようとした田中が倒され、PKを獲得。キッカーを務めた長谷川唯（マンチェスター・シティ）がこれを決めてリードを広げた。

その後もボールを支配し続けた日本は25分、CKの流れから遠藤純（エンジェル・シティFC）が上げたクロスに高橋はな（浦和）がダイビングヘッドで飛び込み3点目。39分には田中のポストプ



「4-3-3にして新しい攻撃の形ができ、得点につながった。ポジティブなチャレンジができた」と長谷川

レイに抜け出した長谷川が決め、4-0と大きく引き離して前半を折り返した。

池田監督は後半から杉田妃和（ポートランド・ソーンズFC）と植木理子（ウェストハム・ユナイテッド）、60分には清家貴子（浦和）と林穂之香（ウェストハム・ユナイテッド）をピッチに送り出し、攻撃に変化を加える。その効果はすぐに表れた。61分に植木、清家が絡んだ攻撃から清家がフィニッシュ。さらに、66分には清家のロングボールを受けた杉田が、GKバニナ・コレアとの1対1を制して6-0とする。80分には植木がペナルティーエリア内で倒されてPKを獲得すると、植木自身がGKの逆を突くシュートを決める。試合終了間際には、清家がGKの頭上を通すループシュートを決め、日本は8-0で快勝した。

新しいフォーメーションにチャレンジした試合で収穫と自信をつかんだなでしこジャパンは、パリオリンピックピックの出場権を手にするべく、国内合宿を経てウズベキスタンで行われるアジア2次予選に挑む。

■国際親善試合
2023年9月23日 12:03
福岡県・北九州スタジアム

日本	8-0	アルゼンチン
	4-0 4-0	

2' 田中美南
10'、39' 長谷川唯
25' 高橋はな
61'、90'+2' 清家貴子
66' 杉田妃和
80' 植木理子

<p>GK ② 平尾 知佳 FP ② 清水梨紗 ③ 南萌華 ④ 熊谷紗希 → 85' ②三浦成美 ⑦ 宮澤ひなた → 60' ⑦清家貴子 ⑧ 猫本光 → HT ⑥杉田妃和</p>	<p>⑩ 長野風花 → 60' ⑩林穂之香 ⑪ 田中美南 → HT ⑨植木理子 ⑫ 高橋はな ⑬ 遠藤純 → 71' ⑤三宅史織 ⑭ 長谷川唯</p>
---	---

池田監督 試合後コメント（要約）

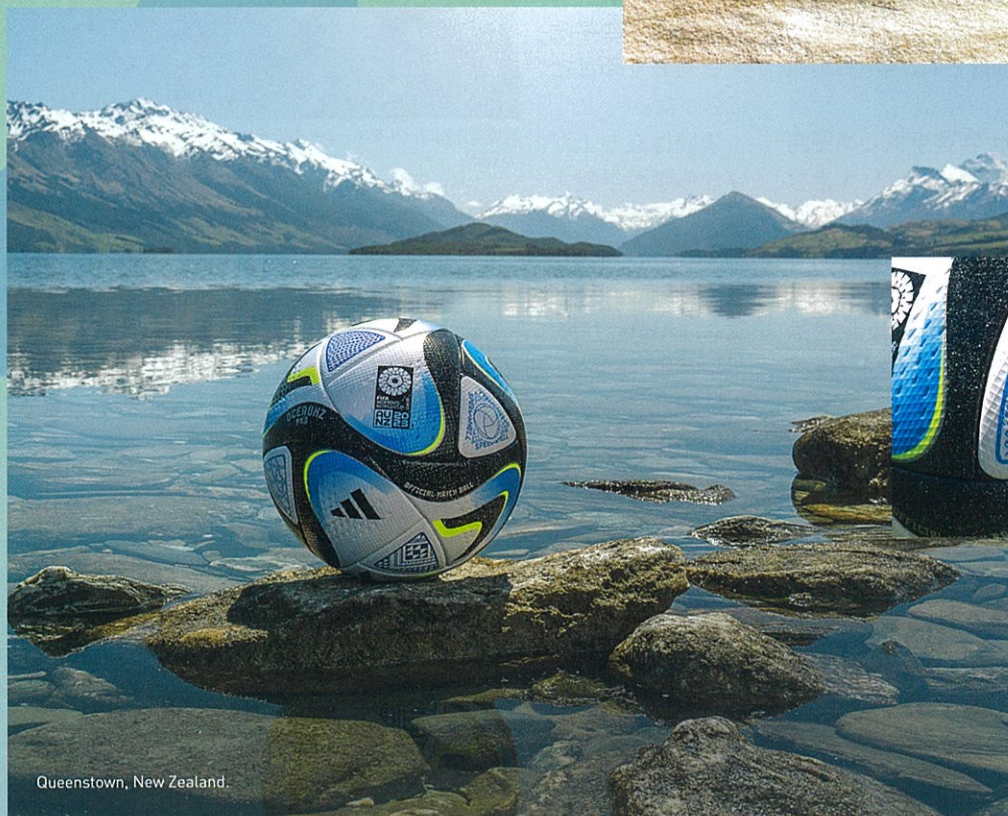
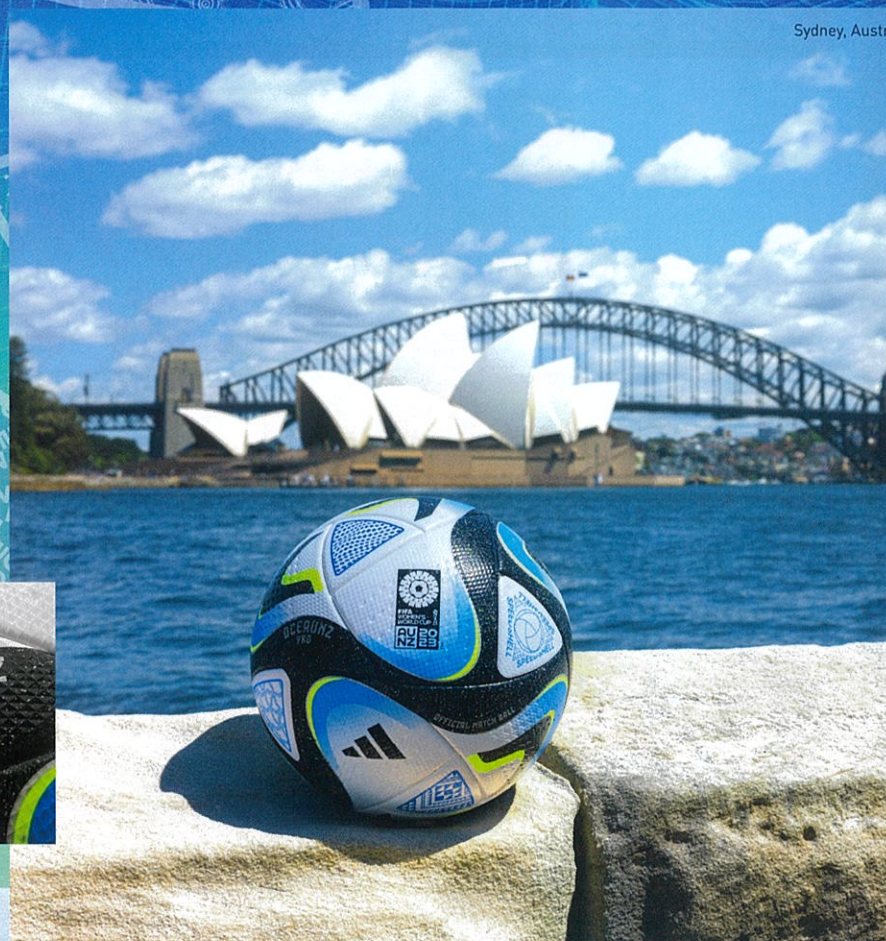
パリオリンピックのアジア2次予選に向けた準備として、相手がどうというよりは自分たちがやれることをしっかりやっという話して臨んだ。4-3-3で今までとは異なるポジションで入ったが、相手を押し込んだ形から点を取ることができ、コンビネーションの中でそれぞれのポジションの感覚を確かめられたことは良かった。90分間、集中力を切らさなかったメンタル面や持久力も評価したい。オリンピックの2次予選は厳しい戦いになるが、アジアの2枠をしっかりとつかみ取りたい。



これまでのセンターバックではなく所属チームでも経験しているボランチでプレーした熊谷。「前の選手たちが自由にプレーできるようにも心掛けた」とコメント

your world cup ball

Sydney, Austr



Queenstown, New Zealand.

INSPIRED BY NATURE



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adidas.

2023 FIFA主要大会 公式試合球

2023年度 第47回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

【大会概要】

9月1日～10日、宮城県と岩手県で開催。9地域大学サッカー連盟から選出された24チームがノックアウト方式でタイトルを争う。3位決定戦は行わない。優勝チームには2023年度全日本大学サッカー選手権大会への出場権が与えられる。



富士大学が 東北勢初の優勝を飾る!

大学サッカーの夏の全国大会「総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント」。舞台を関西から東北に移して2年目となる今大会は、宮城県と岩手県に分かれて開催され、全国9地域の代表24チームが熱戦を繰り広げた。

岩手県ブロックでは、昨年度の全日本大学選手権で準優勝した新潟医療福祉大学(北信越1)が3回戦で敗れたが、大きな波乱はなく関西学院大学(関西1)が勝ち上がった。それとは対照的に宮城県ブロックは波乱の展開となった。2連覇を狙う昨年度王者の国士舘大学(関東1)が、同じ関東代表の法政大学(関東6)に4失点を喫し3回戦で敗退。富士大学(東北2)はPK戦で中京大学(東海1)を下し、全国大会で初のベスト4進出を果たした。

東西対決となった準決勝の関西学院大と順天堂大学(関東4)の試合は前半を1-1で折り返すが、後半、関西学院大が立て続けに2得点を追加し3-1で勝利。法政大と富士大の一戦は、法政大が後半に2点を先取るが、富士大もすぐに1点を取り返す。2-1と法政大リードのままアディショナルタイムに突入すると、富士大が90+4分に追いつき、勝負はPK戦へとつれ込む。PK戦では法政大が2本外し、富士大が初の決勝進出。7大

会ぶり2度目の優勝を狙う関西学院大と対戦することになった。

決勝は立ち上がりから関西学院大がボールを支配する。しかし、富士大も粘り強い守備で関西学院大にシュートを打たせず、両チーム無得点のまま前半が終了。後半も関西学院大ペースで進むが、富士大は56分、CKのこぼれ球を白和勇心が押し込んで先制する。関西学院大は濃野公人、長尾優斗、美藤倫、倍井謙らJクラブ内定選手を中心に猛攻を仕掛け、72分には小西春輝がシュートを放つが、これは富士大のGK折口輝樹がストップ。直後に折口が蹴り入れたゴールキックは関西学院大のペナルティーエリア近くまで伸び、これを関西学院大はクリアミス。すかさず富士大の寺崎朋範が拾うと、シュートはGKの頭上を越えてゴールへと吸い込まれた。富士大が2-0とリードを広げる一方、関西学院大もアディショナルタイムに倍井が1点を返す。しかし、反撃はここまで。富士大が2-1で勝利し、東北勢として初となる総理大臣杯優勝を果たした。



貴重な先制ゴールをチームへもたらした富士大学の白和勇心(左)



宮城県と岩手県で分かれての開催となった今大会も白熱した戦いが繰り広げられた(写真は2回戦・阪南大学 vs 法政大学)



“東西対決”となった準決勝の順天堂大学 vs 関西学院大学



関西学院大学はアディショナルタイムに倍井謙のゴールで1点差に迫るも、あと一歩及ばず涙のんだ

日本スポーツマスターズ2023 福井大会（サッカー競技）

【大会概要】

9月16日～19日、テクノポート福井スタジアムほか福井県内5会場で開催。9地域と開催地（福井県）の代表チーム、韓国チームなど16チームが出場し、4チームずつ4グループに分かれて総当たりのリーグ戦（1次ラウンド）を実施。各グループ1位が決勝ラウンドに進み、ノックアウト方式で優勝を争う。3位決定戦は行わない。試合時間は、1次ラウンドが60分（30分ハーフ）、決勝ラウンドが50分（25分ハーフ）。



京都マスターズ0-35が劇的な逆転勝利で初の栄冠に輝く！



決勝戦の後半、京都の中尾が狙いました弾道で直接FKを決める。「なかなかFKを決めることはないので、まさか決勝の舞台でと思ったが、入って良かった」と語り、「この得点でチームがもう一度“やろう”という雰囲気になった」と回顧した

35歳以上の選手・チームを対象にした「日本スポーツマスターズ2023」のサッカー競技が福井県を舞台に開催された。今大会は全国から集まった15チームに加え、日韓スポーツ交流として韓国チームも参戦し、全16チームで頂点を争った。

残暑厳しい環境下で3日間にわたって行われた1次ラウンドでは、最終戦まで順位がもつれるなど熱戦が繰り広げられた。決勝ラウンドには、盛岡ゼブラ0-35（東北1/岩手県）、千葉県OVER35選抜（関東2/千葉県）、京都マスターズ0-35（関西2/京都府）、三宅ティグザ（九州/福岡県）が駒を進めた。

大会最終日に行われた準決勝は、千葉県が盛岡ゼブラに2-1と逆転勝ち、京都は3-0で三宅ティグザを下した。

準決勝から約2時間後にキックオフとなった決勝戦は、千葉県が17年大会以来2度目の大会制覇を、京都は初の優勝を目指した。前半から互いにシュートチャンスをつくるものの、ゴールを奪えない展開の中で、アディショナルタイムに千葉県の宮内亨が均衡を破り、1点リードで折り返した。

後半に入ると、ここまで全試合を3ゴール無失点で勝ち進んできた京都が、持ち前の攻撃力を発揮する。じわじわと相手を押し込むと、44分にゴール中央付近で獲得したFKをキャプ

テンの中尾真那が直接決めて同点に迫っていく。なおも攻撃の手を緩めない京都は後半のアディショナルタイム、裏へのボールに抜け出した篠部拓真が相手GKとの1対1を制して逆転ゴール。その後タイムアップの笛が吹かれ、劇的な形で京都が栄冠を勝ち取った。

惜しくも優勝を逃した千葉県の浮田経也監督は「連戦で体力的にも厳しい状況で前半に1点を取れたのは大きかったが、相手は素晴らしいチームで一枚上だった」と京都に敬意を示した。京都の竹谷朋也監督は「先に失点をして流れが悪い中でも、選手は絶対にやってくれると信じていた。狙い通りの展開で逆転勝利につながった」とコメント。守備陣を統率したキャプテンの中尾も「決勝の失点が今大会初失点だったが、自分たちの力を信じて『絶対にやれる、戦おう』という気持ちでプレーしていた。その後は劇的な展開で勝利できてうれしかった」と喜びを口にした。



優勝を決定付ける逆転ゴールを奪った京都の篠部。「狙っていた形。最後は自分が決めただけで、チーム全員で取ったゴールだと思う」と話した



千葉県は2017年大会以来の優勝には届かず。「チーム全員で日本一を目指していたので悔しい。次なる目標はもちろん日本一」と浮田監督は前を向いた



初優勝となった京都。チーム全員で喜ぶ姿について、竹谷監督は「一体感を押し出してチームづくりをしているのでいつもこんな感じ(笑)。短期決戦の中でもチームの成長を日々感じた」とコメント

第19回全日本大学フットサル大会



【大会概要】

8月25日～27日、大阪府の岸和田市総合体育館で開催。全国地域予選を勝ち抜いた12チームがノックアウト形式で優勝を争う。なお、1回戦、準々決勝の敗者戦および3位決定戦を行う。

大阪成蹊大学が2連覇を成し遂げる

第19回を迎えた全日本大学フットサル大会は、前回大会優勝の大阪成蹊大学フットサル部（開催地／大阪）と第15回大会王者の多摩大学フットサル部（関東／東京）の2チームが決勝に進出した。

両校は大会2日目の準々決勝から登場し、大阪成蹊大は常葉大学浜松フットサル部（東海／静岡）に6-2で勝利。一方の多摩大は東北大学フットサル部ディーグッチ（東北／宮城）に5-0で勝利した。

続く準決勝では、大阪成蹊大が立命館大学フットサル同好会オールワン（関西1／滋賀）との関西対決を4-0で制して決勝に進出。多摩大は今大会で飛躍を見せていた松山大学フットサル部（四国／愛媛）に6-2で勝利した。多摩大は準々決勝、大阪成蹊大は準決勝をそれぞれ無失点で勝ち上がったが、今大会で失点ゼロとなった試合は全12試合のうち、この2試合のみ。攻撃的なチームが多い中、守備力のある2チームが決勝まで勝ち上がった。また、大阪成蹊大の佐藤亮監督も多摩大の福角有紘監督も現役時代にはフットサル日本代表選手として活躍。代表経験のある指導者がそれぞれ強豪チームを率いたことも特筆すべき点だ。

決勝は、ゴール前でのリスクを回避する狙いもあり、両チー

ムとも前線に素早くボールを送る戦いを見せた。その結果、開始直後

から点の取り合いとなり、セットプレーや前線を使った攻撃などバリエーションを見せた大阪成蹊大が4-2とリードして第1ピリオドを折り返す。第2ピリオドに入ると2点を追う多摩大が高い位置からプレスを掛け、試合の主導権を握る。多摩大は右サイドのキックインの場面で1人がゴール前に走り込み、相手DFを引き付け、ファーサイドでフリーにさせるデザインされた攻撃で本田遥大がこの試合2点目を決めて1点差に詰め寄る。その後も多摩大は果敢に相手ゴールに迫るが、大阪成蹊大のGK片岡浩太が立ちはだかってゴールを許さない。試合終盤のパワープレーをしのいだ大阪成蹊大は、40分に鈴木大輝が無人のゴールにロングシュートを決め、このまま5-3で勝利して大会2連覇を達成した。

大阪成蹊大の村上圭吾キャプテンは、優勝を喜びつつも「目標は前人未達の大会4連覇」と、すでに次の目標を見据えていた。



4年ぶりの優勝を狙った多摩大。決勝では本田遥大（写真右）の2ゴールなどで追いつけるもわずかに届かず



第10回大会優勝の東北大は広島大との1回戦をPK戦の末に突破した



松山大（ユニフォーム水色）は前回準優勝の北海道大を破って準決勝に駒を進めた



立命館大と松山大による3位決定戦は接戦となったが立命館大に軍配が上がった

JFA 第18回全日本ビーチサッカー大会

【大会概要】

9月8日～10日、兵庫県の明石市大蔵海岸で開催。全国地域予選を勝ち抜いた16チームが参加し、オールノックアウト形式で行う。3位決定戦を行う。



東京ヴェルディ BSが堂々の5連覇を達成!

1回戦では、2013年以来の出場となるトリコロール?(東海/愛知)など3チームが9得点を奪い、大差の付く試合があった。一方で、ラソアペーゴ北九州(九州1/福岡)とBSC明石アレイア(開催地/兵庫)は大激戦を演じた。

赤熊卓弥らビーチサッカー日本代表を擁する北九州が先制するが、明石が逆転して一時は3点をリード。赤熊が得点力を発揮し、延長戦では北九州が再逆転したが明石もすかさず取り返してPK戦へ突入する。この試合2得点のGK山本哲也がPK戦では2本をセーブする活躍で、明石が準々決勝へ進んだ。

明石は続く準々決勝のパモスアラカーサ千葉(関東3/千葉)戦でも、2点差をひっくり返して勝利を収める。トリコロール?はアヴェルタージ熊本BS(九州2/熊本)を相手に2点を先制。しかし、代表選手が在籍する熊本が得点を重ねて5-3で勝利した。前回王者の東京ヴェルディ BS(関東1/東京)は青森スタリオンズ(東北/青森)に19得点と圧勝したが、敗れた青森も2点を返すなど、最後まで戦う姿勢を示した。

準決勝でも東京Vの快進撃は続き、熊本を15-2で撃破。明石を7-2で下したレーヴェ横浜(関東2/神奈川)と決勝で顔を合わせることとなった。

東京Vは序盤から王者らしさを見せ、初の決勝を戦うレーヴェに前線からの守備で圧力を掛ける。攻守

の切り替えも速く、開始5分から畳みかけて2点を連取。対するレーヴェはGKからの丁寧な組み立てを辛抱強く続け、相手ゴールライン上を転がるシュートや、ゴールポストにシュートが直撃する惜しい場面も。第3ピリオドには、鋭いクロスボールを服部大樹が頭で決めて、1点差に詰め寄った。

しかし、東京Vは失点直後にトゥーリオ・シルバが素早いパス交換から豪快にゴール。レーヴェも大場崇晃が再三見せてきた見事なオーバーヘッドキックで1点を返すが、東京Vが1点差を守り抜き、5連覇を達成した。日本代表監督も務める茂伶羅オズは「決勝は完璧ではなかったが、結果を残せて良かった。昨年と違い、今年は相手がどんどん前に出て点を取りにきた。全体のレベルが上がっているの、倍のスピードでレベルアップしなければならない」と、さらなる進化を誓った。



決勝では東京Vのマテウス・ロベス・ドス・サントス(写真左から2人目)が先制ゴールを記録。大会を通じて10得点と大暴れだった



第3回大会で3位入賞の経験があるトリコロール?(ユニフォーム白)は9年ぶりの全国大会で初戦を突破



開催地代表のBSC明石アレイア(ユニフォームオレンジ)は1回戦から快進撃を続け、初めてベスト4に進出した



初の決勝進出を果たしたレーヴェ横浜は大場崇晃(写真)を中心に絶対王者・東京Vに挑んだ



JFA U-18 女子サッカーファイナルズ 2023

【大会概要】

9月18日、埼玉県のNACK5スタジアム大宮で開催。令和5年度全国高等学校総合体育大会と第5回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)の優勝チームが参加し、ワンマッチによるノックアウト方式で順位を決する。



日テレ・東京ヴェルディメニーナが U-18年代女子の頂点に!

JFA U-18女子サッカーファイナルズは、2020年度から開催されることが決まっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、同年と21年大会はいずれも開催中止に。初開催となった前回大会は令和4年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ)とXF CUP 2022 第4回日本クラブユース女子サッカー大会(U-18)の優勝、準優勝チームの計4チームが参加して行われ、JFAアカデミー福島が初代女王となった。

今大会から両大会の優勝チームのみが出場し、ワンマッチで日本一を争う方式に変更された。また、暑熱対策として、当初予定していた90分から70分に試合時間を短縮して行われた。

それぞれ夏の全国大会を制した藤枝順心高校と日テレ・東京ヴェルディメニーナの対戦は、序盤から攻守の切り替えが速い試合展開となる。しかし、時間の経過とともにメニーナが攻め込む時間が多くなる。すると35分、メニーナが式田の右サイドからのロングシュートで先制する。ところが、その直後に藤枝順心の辻澤亜唯のシュートが決まり、1-1で前半を折り返すことに。

後半もメニーナが主導権を握り、43分に眞城美春が勝ち越しゴールを決めるとその勢いはさらに加速する。48分に左CKの流れから樋渡百花がゴールネットを揺らすと65分、今度は流れの中から樋渡がこの日2点目を決める。藤枝順心もインターハイ女王として最後まで諦めずに戦うも4-1でメニーナが藤枝順心を下し、昨年に続いてクラブユースチームがファイナルを制する結果となった。

頂上決戦を制したメニーナの坂口佳祐監督は「高体連のチームとはなかなか対戦できないので、藤枝順心の特徴を早くつかもうと話していた。最初はピッチに慣れずミスが多かったが、徐々に主体的にサッカーをする時間が増えた」と選手を称えた。

2得点を挙げた樋渡は「自分のゴールでチームを勝たせたいと思って臨んだので、日本一に貢献できてうれしい」と笑顔で喜びを口にした。



メニーナの樋渡百花は勝利をたぐり寄せる2ゴールをマーク



藤枝順心も同点ゴールをアシストした久保田真生を中心に攻めるが後半にゴールを奪うことはできず



インターハイでチーム最多タイの3得点を挙げた辻澤亜唯がこの試合でも同点ゴールを決めた



試合前には両チームのキャプテンによるリスペクト宣言が行われた。写真は藤枝順心の大川和流



準備してきたことに 自信を持って臨むことができた

【特別企画】FIFA女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド 2023 審判員インタビュー

山下良美主審 | 坊菌真琴副審 | 手代木直美副審

FIFA女子ワールドカップ オーストラリア&ニュージーランド 2023に

山下良美主審、坊菌真琴副審、手代木直美副審が参加した。

大会を終えた今、大会への準備や大会を通して感じたことなどを3人に聞いた。

○取材日：2023年9月5日

**初の開幕戦アポイントにも
いつも通り冷静に**

——FIFA（国際サッカー連盟）が公式に女子ワールドカップの担当審判員を発表したのは1月でした。大会への準備で意識されていたことはありますか。

山下 大会のことは頭に置きつつも、特別に何かをしようということはありませんでした。いつも目の前の試合をより良いものにするのが女子ワールドカップにつながると思っていますので、そのことだけを考えていました。

坊菌 私は2019年の前回大会が終わってから、次の女子ワールドカップに照準を合わせて日々取り組んできました。前回大会は気負い過ぎてしまい、それでコンディションがあまり良くなかったという反省があったので、今回はコンディションを整えることに専念しました。

手代木 私も目の前の試合に集中して取り組むことを考えていました。女子ワールドカップではVARが導入されますので、Jリーグ戦などの試合ではVARについて今以上に注目して見るようにしていました。

——開幕までの研修ではどのような

なことをされたのでしょうか。

山下 大会前は主に確認です。審判員全員で判定基準や審判技術を確認したり、フィットネスチェックをしたり、プラクティカルトレーニングも継続して行っていました。審判チームはオーストラリアのシドニーに拠点を置いて準備していました。

坊菌 1日のスケジュールとしては、午前中にフィットネスや実技のトレーニング、午後はセミナーや講義があります。開幕までの10日間はみっちり研修がありましたね。

——7月18日に開幕戦の担当審判員が発表されました。アポイントを受けた時の状況や心境をお聞かせください。

山下 全員が集合した場でFIFA審判委員長のピエールイジ・コッリーナさんが名前を読み上げました。女子ワールドカップで開幕戦を担当するのは初めてですが、どの試合に割り当てられてもいように万全の準備をしてきましたので、驚きや不安もなく、「よし、やるぞ」という気持ちでした。そのときは坊菌さん、手代木さんと離れた席に座っていたので二人とその瞬間を共有できなかったのは少し残念でした。

坊菌 私もしっかり準備をしてき



「サッカーを続けてきて好きになって、こうして審判員としてワールドカップを楽しめることを幸せに感じた」と山下良美主審。開幕戦で主審、決勝では第4の審判員を務めた

坊園 前回大会で開幕戦の審判員が発表されたとき、選ばれたウルグアイの審判員3人は泣いて抱き合っていたが、私たちは喜んでいました。私たちはそうはならず静かに3人です(笑)。リアクションが薄めだったので他のみんなは「本当に分かってるの？大丈夫？」と思っていたかもしれなくてですね。でも、私たちは心の中でその重みをしっかりと受け止めていました。

ましたし、開幕戦も可能性はあると思っていましたので冷静に受け止めました。周りの審判仲間が拍手で祝福してくれてうれしかったです。自信を持って今までしてきたことをやろうと思っていました。

手代木 親しい副審の女性が涙を浮かべて「あなたの名前が呼ばれてすごうれしかった」と言ってくれて、思わず私も涙が溢れそうになりました。そうやって自分事のように思ってくれる仲間がいることをうれしく思いながら、その思いに応えられるようしっかりやらなければと、喜びから責任感へ少しずつ気持ちが変わっていきました。

——発表後に3人で顔を合わせたときは？
三人 (「よしー」という素振り)

——開幕戦はいかがでしたか。入場時や会場の印象などありましたら教えてください。

山下 開幕戦は、男女ワールドカップを通じてニュージーランドでは過去最多の入場者数になると聞いていました。実際に私たちがウォーミングアップしているときから会場はすごく盛り上がっていて熱気に満ちていましたので、気持ちは高まっています。その開幕戦の雰囲気を楽しんでいる自分もいましたので、自分ができることをやれば試合は大丈夫だと思っていました。

坊園 私も3人で今までやってきたことを気負わずにやれば大丈夫という自信がありましたので、不安なく臨むことができました。「この開幕

戦は私たちしか経験できないものだから、入場からこの雰囲気を全身で味わおう」と思っていました。それを味わえなければもったいないとピッチに入ってから観客や選手の興奮が伝わってきて高揚感もありましたが、試合が始まってからは一つのプレーに集中し、声を掛け合いつつ進めました。

手代木 アポイントを受けた時は幸せだなという気持ちが大きかったのですが、前日になると緊張が高まって不安も大きくなりました。それでも当日は、国歌に感極まっていた選手たちの様子も感じられ、私も幸せをかみ締めてピッチに立っていました。キックオフしてからはいつものサッカーの試合だと思ってやっていたのですが、山下さんの笛が聞こえないくらいに会場は盛り上がっていました。

山下 一つ一つのプレーに会場が沸き立つさまを強く感じながらも、冷静にレフェリングできたと思います。冷静でいられたのは3人でうまくコミュニケーションを取りながら試合ができたからだと思います。

——VARによるオンフィールドレビューの後に観客とTV視聴者に対して主審が判定結果を説明するということが女子ワールドカップ

で正式に導入されました。その事象が開幕戦で発生し、PKを告げる山下さんの場内アナウンスが話題になりましたが、開幕戦後にその方法が変更になったとお聞きしました。

山下 私は開幕戦で「ペナルティーキックです。何番の選手が反則となるハンドをしました」とアナウンスしたのですが、「ペナルティーキックです」と言ったところで会場が盛り上がってしまい、その後の説明が聞こえにくかったですね。FIFAとしてはそこをしっかりと伝えたいという意図がありましたので、「反則となるハンドがありました」と先に説明してから「ペナルティーキックです」と言った方がみんなは最後まで聞いてくれるだろうということで、その後はアナウンスする順序が逆になりました。

——坊園さんと手代木さんは場内アナウンスを聞かれていかがでしたか。

坊園 あくまで判定を変えるというとてもシビアな場面ですので、トレーニングでは声のトーンなど細かい



Jリーグで試合を担当するようになり、「余裕を持ってラインキープすることなど大きな経験になった」と手代木直美副審。全てを通して「一番楽しめた大会」だったと語った

いところまで山下さんに感想を伝えていました。実際にその場面になると私も緊張しました。システムとしては、選手や観客にとって分かりやすいものだと思います。

手代木 山下さんは練習の時からハキハキとやられていたので心配はしていませんでした。会場は盛り上がっていましたがマイクではつきりと聞こえましたが、かっこよかったです。

山下 トレーニングではお二人にフィードバックしてもらい、アナウンスをする際にもサポートしていただ

いてとても心強かったです。

なでしこジャパンは誇り 私たちは応援隊長

——強豪同士のアメリカ対オランダ戦（グループE）も担当されました。印象はいかがでしたか。

山下 開幕してから見ていた他の試合とは少し違うというか、それ相応の試合になるだろうと予想していた通り、コンタクトも激しく、スピードもあり、ゴールに向かう強さがよく感じられる試合でした。ただ、大会全体を通して、チームの差がなくなってきたのと感じます。各チームの強さや特徴を強く感じられ、どこが優勝してもおかしくないと思っ

ていました。

坊間 前回大会の決勝と同じカードでしたので、その試合を任せられることをありがたいと思つて臨みました。予想通り、一つ一つのプレーの質、

一対一の力強さ、タックルの強さなどが感じられ、緊張感のある試合でしたが、山下さんは至つて冷静で、興奮している選手にもしっかり対応されていたのです。ごいなと思ひながら見えていました。

手代木 試合前には審判の分析担当から各チームの戦術やキーマン、オフサイドラインでの駆け引きなどのレクチャーを受けるのですが、激しさやタックルのスピードは想像以上でした。映像で見ると実際に肌

で感じるのでは大きな差がありました。——なでしこジャパン（日本女子代表）の戦いはどうご覧になっていましたか。

坊間 私たちは“なでしこジャパン”応援隊長“と言いますか（笑）、なでしこ

パンがもう一度、世界の頂点に立つてくれることを願つて応援していました。試合はテレビでしか見られませんが、グループステージの活躍もあり、優勝候補と言われていることが本場にうれしかったですね。

山下 なでしこジャパンはいつも本場に評判が良いんです。今大会でもフェアプレーでありながら強い。審判員からも「すごく良いチーム」と言つてもらえることを誇らしく思つていました。

手代木 日本の女子サッカーを盛り上げるためには、選手の力がすごく大きいと思います。なでしこジャパンが活躍できるよう、ずっと応援していました。日本戦を担当した審判員からは、日本の選手は本場に礼儀正しく、すごくやりやすかったといつも言われます。それは私たちに

——ラウンド16に進出したチームの中でなでしこジャパンは唯一、警告1枚という素晴らしいプレーでフェアプレー賞を受賞しました。審判員としてファウルが少ないチームはどう映るものなのでしょうか。

常にもうれしいことです。

なおかつ礼儀正しくフェアに戦うチームは、審判員にとつての印象はとてもいいです。そのチームや選手を応援したいと思う審判員も増えていったのではないかと思います。

山下 カードが少ないということは、それだけ「サッカー」に集中してプレーしているということ。審判員としては、そういう試合を選手と一緒につくりたいですね。

坊間 今大会のなでしこジャパンはサッカーを楽しんでいるように見えました。相手はどうこうというより、自分たちにベクトルが向いているというか、自分たちのサッカーをして、ワールドカップという舞台を楽しもうという思いが強く伝わってきたので、それがプレーにも出ていたのではないかなと思います。

世界の女性審判員の成長 雰囲気良さが大会成功に

——世界の女性審判員の成長について感じることはありましたか。

山下 フィットネス、技術、メンタル、全てにおいてレベルアップしてい



決勝戦後の表彰式より。決勝を担当した審判員には記念メダルが授与された

ると感じました。自分としては焦る部分もありましたが、審判チームとして自信をもって大会に臨めた気がします。参加したほとんどの女性審判員が各国や各地域で男子の試合を担当していますので、そうした経験が全体のレベルアップにつながっているのだと思います。

坊間 フィットネスに関して以前は男性の基準をクリアできればいいという認識だったのですが、今回はクリアできていることが前提で、私自身もさらに壁を越えなければいけないんだと思ひ知らされました。みんなが自信を持って試合に臨んでいる様子からもレベルアップしている



坊間真琴副審は「長いようであつたという間の大会だった」と振り返り、「多くの人に支えていただき、感謝とともに、自分自身のこれまでの頑張りが報われたような大会だった」と話す

ことが感じられました。

手代木 男子の試合を担当している点はすごく大きいですよ。必死にやりながらも、みんな心に余裕があるので、試合を楽しむことができています。だからこそ良い雰囲気です。試合ができていないのではないかと感じます。

——決勝の担当審判員が発表されたときの映像をFIFAも発信していましたが、全員が祝福している様子からも雰囲気の良さがうかがえました。

山下 フィールド上でもクラスルームでも、みんな真剣にやるけれどユーモアもあって、笑いが起こると瞬間が必ずあるんですね。オフの時も本当にみんな仲が良いというか、良い関係が築かれていて雰囲気はとて良かったですね。

坊間 世界大会はみんなが強い思いで準備してきていますので、同じ思いを持った人たちが集まっていることをいつも実感します。そして、その瞬間を楽しもうとする意思も強い。オンとオフの切り替えもしっかりできます。その集団の中にいられることを幸せだと感じられるほど、素晴らしいチームだなと今回も思いました。

手代木 良かったことは心から褒め合いますし、改善した方がいい部分も遠慮なく言い合える仲間でしたので、最後まで良い雰囲気です。大会を終えられたと感じます。

——審判員を目指す少女や選手へ、メッセージをお願いします。

山下 今大会を終えて、ワールドカップは審判員としても選手やコーチ、スタッフとしても、本当に目指すべき場所だということを感じました。審判員として参加できたことを私は本当に幸せに思っています。たとえ審判員ではなくても、どんな役割でも、女子ワールドカップを目指してほしいなと思います。

坊間 審判員を始めた頃は女子ワールドカップに参加する、まして開幕戦に関わるとは夢にも思っていませんでした。でも、関わる中でこうした未来が待っていたということを見ると、皆さんにもいろいろなこと挑戦してほしいと思います。一つ一つに取り組みすることで見えてくるものがあると思いますし、挑戦することです。いろいろな道が開けてくると思っています。

手代木 私はいつも伝えていたことが三つあります。興味を持ったことに挑戦すること、やる時には楽しむ方法を見つけること、そしてとにかく継続すること。楽しむ気持ちがあれば、続けられると思いますし、いろいろな経験もできるようなっていきのではないかなと思います。

——最後に今後に向けて思い

をお聞かせください。

山下 とにかく次の試合を良い試合にすること、いつもそれだけを考えています。あとは、女子ワールドカップもそうですが、今いただいている機会を継続させていくことも目標にしています。とは言え、やるべきことは目の前の試合、そこは変わらないです。

坊間 私も次の試合に向けて準備することが第一です。女子ワールドカップにはこれまで日本人審判員が参加してきませんでしたので、それを継続させるためにも自分ができることはやっていきたいと思っています。

手代木 次の試合に向けて準備するだけです。大きな経験を生かして、私自身も成長し続けられるように活動していきたいと思っています。



「楽しむことができた大会だった」と口をそろえて話した3人。それぞれにとって充実した大会となった

担当試合

7月20日〔グループA〕第1戦 ニュージーランド対ノルウェー/Eden Park

主審：山下良美、副審：坊間真琴・手代木直美、第4の審判員：MARTINCIC Ivana (クロアチア)

※FIFA女子ワールドカップ開幕戦で日本人審判員が担当するのは史上初

7月27日〔グループE〕第2戦 アメリカ対オランダ/Wellington Stadium

主審：山下良美、副審：坊間真琴・手代木直美、第4の審判員：KIM Yujeong (韓国)

7月30日〔グループH〕第2戦 ドイツ対コロンビア/Sydney Football Stadium

主審：Melissa BORJAS (ホンジュラス)、副審：Shirley PERELLO (ホンジュラス)・Sandra RAMIREZ (メキシコ)、第4の審判員：山下良美

8月1日〔グループD〕第3戦 ハイチ対デンマーク/Perth Stadium

主審：Hyeonjeong OH (韓国)、副審：Misuk PARK (韓国)・坊間真琴、第4の審判員：Akhona MAKALIMA (南アフリカ共和国)

8月6日〔ラウンド16〕オランダ対南アフリカ/Sydney Football Stadium

主審：山下良美、副審：坊間真琴・手代木直美、第4の審判員：Hyeonjeong OH (韓国)

8月20日〔決勝〕スペイン対イングランド/Stadium Australia

主審：Tori PENSO (アメリカ)、副審：Brooke MAYO・Kathryn NESBITT (アメリカ)、第4の審判員：山下良美

※8月16日のオーストラリア対イングランドの準決勝で第4の審判員に山下良美主審、リザーブ副審として坊間真琴副審が割り当てられていたが急きょ変更となった

※FIFA女子ワールドカップ決勝で日本人審判員が担当するのは、2007年中国大会で第4の審判員を担当した大岩真由美主審以来2人目

サッカーファミリー広場



女子中学生プレイヤーの5人に1人が13歳になると、サッカーを辞めてしまう。女子中学生のチーム創設支援を通し、サッカーの未来を変えるアディダス・JFA共同プロジェクト「HER TEAM」。



JFAは現在、JFAオフィシャルサプライヤーであるアディダスと共に、女子中学生年代に根差す課題に取り組むためのアディダス・JFA共同プロジェクト「HER TEAM」を展開している。同プロジェクトでは、チームの立ち上げに必要なツールやサポートを提供し、コーチや創設者を後押し。10月6日より、新規チームの募集がスタートしている。

【募集概要】

- 創設サポート内容：
 - ・メンバー募集のための告知ツール
 - ・ユニフォームの提供（約20名分想定）
 - ・サッカークリニックの開催
 - ・JFA および アディダス フットボール関連活動への優先ご招待（2023～2024年）
 - ・外部事務局および47FA女子普及コーディネーター／FAコーチによるチームサポート
 - ・定期的なオンラインミーティング（チーム情報交換会）
- サポート期間：2年（2024年4月1日～2026年3月31日）
- 募集エリア：全国（日本国内で活動するチームに限る）
- 募集数：非公開 ※参考：2022年は10チーム当選
- 募集期間：2023年10月6日（金）より、アディダス オンラインストア上の特設応募ページにて受付中
 - ※11月12日（日）締め切り後、応募内容を審査し、支援チームを発表。

- 募集対象：以下すべてに当てはまることが条件
 - ・中学生年代（U-15年代）の女子がプレー可能で、2024年度（2025年3月末まで）に新規創設されるチーム。
 - ※既に「女子」以外の種別で JFA 登録をされているチームが、新たに「女子」の種別で JFA登録をされる場合も対象とする。
 - ・2024年4月から2026年3月までに、チームが創設され、「女子」の種別で JFA 登録を完了すること。
 - ・継続的なチーム運営を前提とする。
 - ・アディダスおよびJFAが行うHER TEAMの活動に参加することに同意すること。
- その他：
 - ・中学生年代（U-15年代）の女子に特化したチームを優先してサポートするが、幅広い年代が入会可能な女子チームの創設も対象となる。（中学生・U-15 年代がプレーできることが必須）
 - ・「チーム」には、部活動も含む。

■アディダス・JFA共同プロジェクト「HER TEAM」
<https://shop.adidas.jp/football/herteamproject/>
 ▼応募フォーム
<https://shop.adidas.jp/form/herteamproject2023/>



『日本サッカー協会百年史』一般販売を開始

JFAは9月20日から、『日本サッカー協会百年史』をJFA公式オンラインストア「JFA STORE」で一般販売している。

同誌は、日本サッカーとJFA が歩んできた軌跡をさまざまな教訓を含んだ記録として後世に伝えるとともに、日本サッカーの存在価値と社会的役割を多くの人々と共有することに主眼を置いて編さんしたもの。一般販売は限定500冊。



【『日本サッカー協会百年史』販売概要】

書名：『日本サッカー協会百年史』
 発行：公益財団法人日本サッカー協会
 発行目的：日本サッカーおよび日本サッカー協会の歴史をひも解き、日本サッカーがスポーツと社会に果たしてきた役割、その軌跡を後世に伝える。
 収録対象：1866年～2021年3月末（2021年度事業）
 収録内容：全6部構成、別途記録編・資料編を集録
 第1部 日本サッカークロニクル
 第2部 日本代表
 第3部 全国大会
 第4部 全国リーグ
 第5部 世界とのつながり
 第6部 組織の歩み（事業の変遷）
 記録・資料編
 冊子仕様：A4判オールカラー 上製本、752ページ、箱入り
 印刷：株式会社出版文化社
 販売価格：25,000円（税込／送料込）
 購入方法：JFA 公式オンラインストア「JFA STORE」より購入可能（書店での販売なし）
https://official.store.jfa.jp/goods_detail.php?id=1322



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災などで被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005）渋谷支店（135）
 普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
 サッカーファミリー復興支援金口座
 ※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：
 【電話】03-5276-8838
 【フォーム】https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TrrvO-Leh64Nomkz4YOCQAVouVhnmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link
 利用時間：平日 12:00～18:00（土日祝、年末年始等除く）

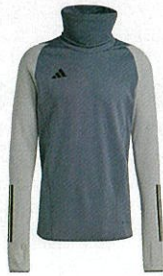


読者プレゼント

応募締切：2023年11月16日(木)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「TIRO23 Pro ウォームトップ(Sサイズ)」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。

今号では「マント型フリースブランケット」を1名様にプレゼント。



JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/EpbGQxHHL5uN8u2u9>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスして
ご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル
公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnews
のご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2023年12月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう！

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、イベント情報、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼントをゲット



【今月の配信コンテンツ】

✓ 毎週水曜日にサッカークイズを更新中！

10月トピックス予定：指導者、SAMURAI BLUE、
ウォーキングフットボール、女子サッカー

✓ アプリ限定動画を配信しています

・SAMURAI BLUE 遠藤航と富安健洋がプレミアリーグを語る
・パーモントカップ、U-18フットサル選手権大会ハイライト など

✓ 日本代表グッズが当たるプレゼントキャンペーン

●JFA Passportの詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶

<https://www.jfa.jp/jfapassport>



公益財団法人日本サッカー協会機関誌

JFA news

発行人：宮本恒靖

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2023年11月情報号は、2023年11月16日発売予定

[特集]

個の力を磨く(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされている購読者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、

JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログイン

していただき、変更をお願いします。

※<https://www.jfa.jp/registration/>



おいしい 免疫ケア

よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

◆
プラズマ
乳酸菌

◆
新発売



機能性表示食品 ※免疫の機能性表示食品として届出された日本初の機能性関与成分

おいしい免疫ケア、おいしい免疫ケアカロリーオフ **届出表示** 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis strain Plasma*) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。おいしい免疫ケア睡眠 **届出表示** 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis strain Plasma*) とGABAが含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。GABAは睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)の向上に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。



oishii-meneki.kirin.co.jp

キリンビバレッジ株式会社

げんきな免
プロジェクト



定価600円(本体545円)